

地区	西濃	寺院番号	30016b	県遺跡番号	—	分布図番号	M2
ふりがな	とうこうじきゅうけいだい			所在地	揖斐郡揖斐川町春日六合字池戸平		
寺院名 (史跡・遺跡名)	等光寺旧境内						
時代区分	中世(鎌倉)～			宗派	天台宗→浄土真宗		
立地	山腹			現状(植生)	山林(コナラ、スギ・ヒノキ)		
東西規模	80m	南北規模	60m	標高(比高差)	210(80)m	平坦面面類	不明
沿革	元は天台宗横蔵寺末寺で等光庵と称す。等光庵は春日村大字六合字池戸平に所在し14世紀に池戸城主河合能登守が成立。(春日村史編纂委員会 1983)慶長年間(1596～1615)に真宗東本願寺末寺に改宗、延宝元(1670)年に真山創建、元禄4(1691)年に寺名を等光寺と号す。(揖斐郡教育會 1924)建武年間(1334～1336)には兵火により堂宇焼失。「等光寺御縁起」に正徳元(1711)年に再び御堂を焼失。際、当時の住職が極原宮の御神木で池戸城跡に御堂を再建、「三界有縁の士者を末永く供養すれば末代まで火難なし」という誓夢を毎夜みた。正徳4(1714)年に堂宇再建と同時に西本願寺末寺に改宗。(春日村史編纂委員会 1983)						
遺構	石積み、石垣						
遺物	陶磁器片、五輪塔、一石五輪塔、石仏、石碑						
有形文化財等	「西濃春日村古今之事蹟明細帳」、「等光寺御縁起」(江戸)、「揖斐記」(室町)						
参考文献	揖斐郡教育會 1924『揖斐郡志』、春日村史編纂委員会 1983『春日村史』上巻、揖斐川町 1971『揖斐川町史』通史編、春日村史編纂委員会 1983『春日村史』下巻						
	昭和元(1764)年の明細帳に「など工事の本堂規模は4間半×4間半、境内は14件×16巻の7歳14保」とある(春日村史編纂委員会 1983)						
備考	寺跡付近に池戸城跡があったとされ「正和年間(1317～1318)に西尾右京亮が支配し、河合龍登守が住んでいたとされる。西尾氏は南北朝に勧王し、延元2年(建武4年:1337年)9月18日、北朝方の小笠原兵庫助等と揖斐野に戦い敗れ、小島城(上狩宇城)池戸城、下狩宇城等を守備していたが、同年5月に池戸城が落城。池戸に歎縁の墓と言い伝えられている椿の大木と五輪の石塔があり、この人は、元弘年間(1331～1334)から建武の頃、池戸城主舟で「等光寺」を建立した人である。」(揖斐郡教育會 1924、春日村史編纂委員会 1983)						

調査所見 北向き緩斜面の北部は、近年まで居住していたとのことで、寺院跡に関係する平坦面については不明である。本堂跡については位置不明で、北西部に石塔・石仏が数基残るのでその近辺の可能性もある。南東部には現在の墓地がある。南の山麓付近に昭和の地図に神社記号があり、この辺りは崩落土の影響を受け、一部石積が残存するが詳細は不明である。現在残している平坦面の一部は池戸城跡(中世)にも関係がある可能性がある。

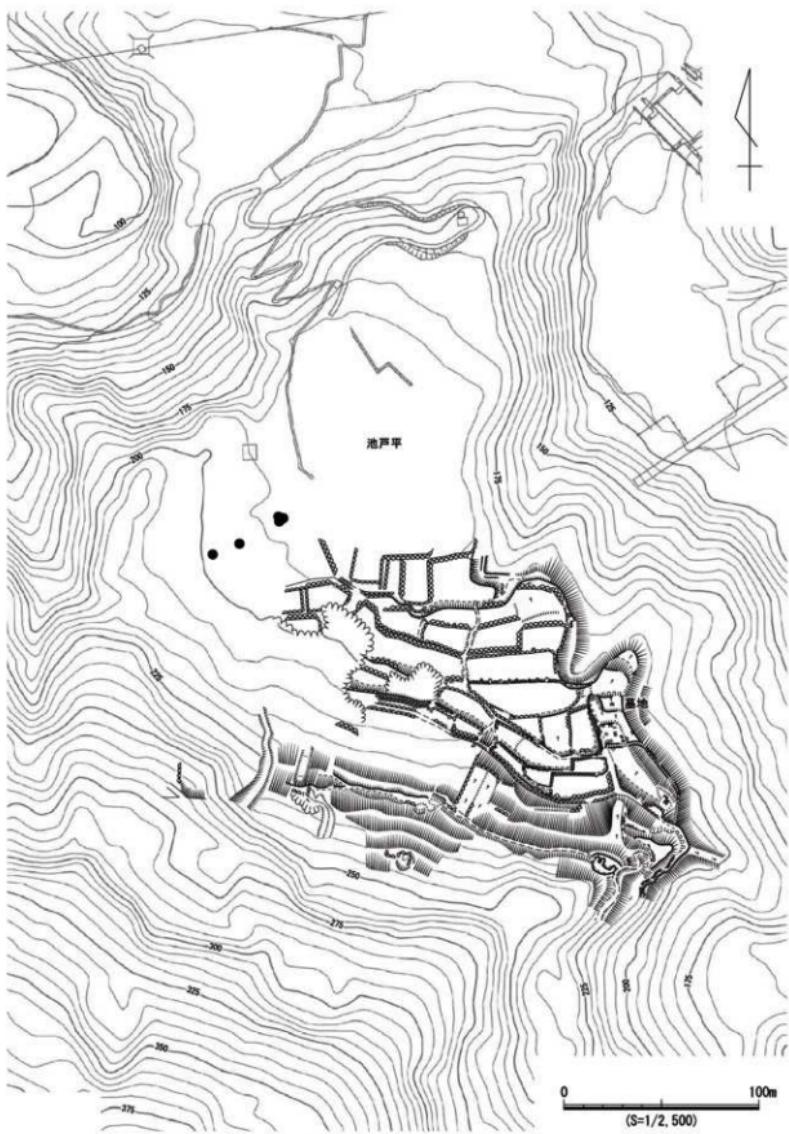


図 52 等光寺旧境内 地形観察図

地区	西濃	寺院番号	30067	県遺跡番号	一	分布図番号	M3
ふりがな	いおうざんとうこうじ			所在地	揖斐郡揖斐川町小野字北屋敷		
寺院名 (史跡・遺跡名)	医王山東光寺						
時代区分	古代~			宗派	天台宗→臨済宗		
立地	山腹~山麓			現状(植生)	山林(コナラ)		
東西規模	68m	南北規模	50m	標高(比高差)	65(24)m	平坦面分類	A+C1
沿革	最澄が大同年間(806~808)に当地を漏歴した際、自刻の薬師如来を本尊として創建。その後荒廃するが、永正年間(1504~1521)に本巣郡慈雲寺住持の大宗宗弘が師の天縱宗受の勧請開山として再興する。(揖斐川町歴史民俗資料館 2001)その後の第三世岐秀元伯は、耕月庵、圓珠庵、獨笑庵及び梅林庵の4つの塔頭を建立する。慶長6(1600)年には、初代掛斐藩主西尾光教から黒印状と札札を受けて保護されるも、元和9(1623)年に掛斐藩が廃藩となり庇護を失う。その後、快伝宗薰和尚が再興を果たす。現在の本堂及び鐘楼は天保年間(1830~1844)に雲海玄妙和尚が建立(揖斐郡教育會 1924)						
遺構	基壇、石積み、池跡						
遺物	五輪塔、一石五輪塔、石仏						
有形文化財等	木造薬師如来座像(県指定、奈良)、脇(町指定、奈良)、文殊菩薩繪図(町指定、室町)、韋馱天像(町指定、鎌倉)、大宗宗和尚・岐秀元伯和尚画像(町指定、安土桃山)						
参考文献	揖斐郡教育會 1924『揖斐郡志』 捷斐川町 1971『捷斐川町史』通史編、捷斐川町歴史民俗資料館 2001『捷斐川町の文化財』捷斐川町教育委員会						
備考	西美濃三十三堂場第六番札所。 最澄は薬師如来像を寺の南の溪谷「磨斧溪(まきんけい)」を上った場所に祀ったという。現在も堂跡が台地に残り、創建当時は12院あったという。(捷斐川町歴史民俗資料館 2001) 寺での聞き取りで参道脇に6つの塔頭があったという。寺が保管する天保年間頃の絵図に、参道の北側に「北屋敷」(現在も同様の地名がある)、南側に「南屋敷」と記されている。6つの塔頭は描かれていない。参道の境内から旧谷汲巡礼街道までの中間あたりに、門のような建物が描かれている。						

調査所見 権現山の北西山裾に立地し、境内から集落域(旧谷汲巡礼街道)まで一直線に参道が伸び、両側に平坦面がある。境内南側の谷は磨斧溪と呼ばれ、石積みを伴う平坦面がある。谷の上方では平坦面の比高差が特に高く4m以上ある。谷最奥處は比較的狭いが石積み基壇が残っている。谷の下方には土壠がある。下方域の中心を走る溝は、墓域南隅にある池と北方の用水路を繋いでいる。

現本堂裏(東側)の2m程高い位置に広い平坦面があり、中央に約0.6mの段があり、出入り口や土壠がある。寺の中心施設があった可能性がある。現本堂から約60m西に旧谷汲巡礼街道が残る。



図53 医王山東光寺 地形観察図

地区	西濃	寺院番号	30072、30072b	県遺跡番号	—	分布図番号	L3
ふりがな	けいとくさんとうせんじ・とうせんじきゅうけいだい			所在地	揖斐郡揖斐川町小津字瀬古		
寺院名 (史跡・遺跡名)	溪徳山洞泉寺・洞泉寺旧境内						
時代区分	古代～			宗派	天台宗→禪宗→臨済宗妙心寺派		
立地	山頂～山麓			現状(植生)	山林(スギ・ヒノキ、コナラ)		
東西規模	92m	南北規模	85m	標高(比高差)	205(20)m	平坦面面類	A+D
沿革	<p>寺伝によると、「長元元(1028)年当国谷汲村、両界山横蔵寺 29世法印源覚小津別社を勧進す」(出典不明)との記録が残るとされ、かつては景国山觀音寺と称する天台宗寺院であったという。保元元(1156)年に小川但馬守が小津小川城主となって以降、自身の菩提寺として繁栄したが、羽柴秀吉の美濃攻めによる小川氏の没落とともに寺も荒廃する。文禄年中(1592～1595)年に禪宗妙心寺派の僧侶宝安が、荒廃している寺に入り、禪宗妙心寺派に改宗、寺名を溪徳山洞泉寺と改めた。寛文11(1671)年には西岩によって堂宇が建立され、元禄7(1694)年に瑞岩寺沿天秀惠が住持となった際、臨済宗妙心寺派に改宗した。当寺末寺として、月光寺、阿弥陀寺、不昧寺、壯嚴寺の四か寺がある。現在の本堂は、文政3(1820)年に再建されたものである。(揖斐郡久瀬村 1973)</p>						
遺構	石積み、池跡						
遺物	五輪塔、宝鏡印塔、一石五輪塔						
有形文化財等	「大野郡小津村洞泉寺由緒書差上申候書付之事」(揖斐郡久瀬村 1973)						
参考文献	揖斐郡久瀬村 1973『久瀬村史』、揖斐郡教育會 1992『岐阜県揖斐郡 ふるさとの地名』						
備考	<p>西美濃三十三靈場第十三番札所。</p> <p>当寺所蔵の大般若経600巻の中で年号が記されたもののうち、最も古い年号は応永20(1413)年。</p> <p>かつては洞泉寺背後の山中峰上にあったとされる伐明寺の境内に奉っていた弁財天を本堂に仮安置。</p> <p>境内背後の山中尾根筋に「洞泉寺(トウセンジ)」という私称の地名があったという(揖斐郡教育會 1992)。さらに、尾根の頂上には「寺屋敷(テラヤシキ)」という私称の地名があり、かつては横蔵寺向きに寺が建ち、僧兵がいたという。洞泉寺は、天文年中(1532～1555)までは天台宗横蔵寺末觀音寺として栄えていたことから、当時は山頂に寺があった可能性が高い。「洞泉寺」に平坦面は確認できず、尾根上の「寺屋敷」にのみ平坦面が確認できるが崩落が激しく寺跡等は確認できなかった。</p>						

調査所見 権現山の南東尾根先の小津川対岸にあり、小津集落より高位置の山麓にある。現境内北側には、石積みを伴った平坦面が階段状に展開している。洞泉寺旧境内(觀音寺)は、洞泉寺背後の山の山頂付近にあったとされる。本堂裏(東側)には墓域と西美濃三十三写し靈場がある。墓域には石塔類や江戸時代以降の墓碑がある。墓域の東側には滝を願した池跡がある。現本堂の北側に展開する平坦面群は小規模で小礫の石積を伴い、出入り口の造りも丁寧である。以前この場所に大量の五輪塔があったとのこと。



図 54 溪徳山洞泉寺・洞泉寺旧境内 地形観察図

地区	西濃	寺院番号	30083、30083b・c	県遺跡番号	—	分布図番号	M2
ふりがな	せむいさんかんのんじ・ かんのんじゅうけいだい			所在地	揖斐郡揖斐川町春日中山字中山之内		
寺院名 (史跡・遺跡名)	施無畏山観音寺・観音寺旧境内						
時代区分	古代(平安)～			宗派	天台宗→曹洞宗		
立地	山腹～山麓			現状(植生)	境内地・山林(スギ・ヒノキ)		
東西規模	62m	南北規模	60m	標高(比高差)	280(20)m	平坦面面類	B+D
沿革	元は天台宗で万年山元正庵といい、養和元(1181)年に現在地よりも約200m上方の山寄りの場所に創建されたが、弘安年間(1278～1287)に現在地の東隣(通称・兵太夫屋敷)に移された。慶長元(1596)年に、天台宗を離脱し無住となって荒廃。慶安元(1648)年に大垣城主戸田氏信が加賀国大乗寺の玄済和尚を勧請して再興。この時、曹洞宗に改宗、寺名を普門山観音寺に改める。(春日村史編纂委員会1983下巻)万治3(1660)年に、戸田氏信の妹おさいが、自身の病弱を本尊に信仰したところ癒え観音寺まで参詣するのを厭い、本尊である千手観音を自身が創立した一色村(現本巣市)栄春院に移して、別の仏像を観音寺に移した。(揖斐郡教育會1924)これ以降、栄春院の末寺となる。享保18(1733)年に焼失後、大垣藩五代藩主氏長が再建。安政年間(1854～1866)に焼失の際は、十代藩主氏彬が文久元(1861)年に再建、施無畏山観音寺に改名。(春日村史編纂委員会1983下巻)						
遺構	石積み、岩窟						
遺物	五輪塔、石仏						
有形文化財等	木造大日如来坐像・木造釈迦如来坐像(県指定、平安)、木造十一面千手観音菩薩立像(町指定、室町)、「春日村古今事蹟明記」						
参考文献	揖斐郡教育會1924『揖斐郡志』、春日村史編纂委員会1983『春日村史』上巻・下巻春日村、揖斐郡教育委員会1992『岐阜県揖斐郡ふるさとの地名』						
備考	西美濃三十三塲場 12番札所。 慶長5(1600)年9月に、関ヶ原合戦に敗れた小西行長が逃れて寺に匿ったが、竹中重門により捕らえられた。翌年、行長公供養のため美東市瀬より三尊像(千手観音、大日如来、釈迦如来)を譲り受けた。行長公は観音寺のある中山の村に騙されたと思い「あの村を三度焼き払わざにおくものぞ」と睨んでいた。実際に村は三度の火災にあり、享保18(1733)年の火災では村中が焼失。宝曆4(1754)年に行長公の小刀を埋め墓地を設け大会葬を行い、供養を続けたが、大正12年不破郡岩手村の御岳教徒・高木金十郎が来て「行長公の靈が「中山が私を佛扱いしているのは不快である」と言われたから神としてお祀りなされ。」と言われ行長公の墓地に小西神社を建て、寺での供養を廃止したという。						

調査所見 近江への交通の要衝で長谷川沿い斜面に広がる春日中山の集落の最上部に位置する。現本堂裏に旧境内の石積を伴う平坦面と小規模な窟を確認した。なお、観音寺西側に所在する六社神社についても、寺境内と一緒にであること、寺の歴史に関与する神社であることから図化を行った。元正庵跡は36m×8mの平坦面と、高さ0.8m、幅0.9m、奥行き0.6mの岩窟があり、脇に「圓(寂)?當庵開基■峰照上座」と記された板碑がある。元正庵跡から現境内に寺が移されるまでに、現本堂東に庵が仮置きされたといい、平坦面に石積みや石段が残る。



図55 施無畏山観音寺・観音寺旧境内 地形観察図

地区	西濃	寺院番号	30088	県遺跡番号	一	分布図番号	M3
ふりがな	ほださんちょうげついん			所在地	揖斐郡揖斐川町清水後川		
寺院名 (史跡・遺跡名)	補陀山釣月院						
時代区分	中世～			宗派	天台宗→臨濟宗→曹洞宗		
立地	山腹～山麓			現状(植生)	境内(コナラ、アカマツ)		
東西規模	60m	南北規模	75m	標高(比高差)	77(42)m	平坦面面類	B+D
沿革	京都府天龍寺の開山である夢窓疎石が、清水山の静寂な地を好みこの地に十一面千手觀音像を祀って成立した。元は天台宗であったが、後に臨濟宗に改宗、享保17(1732)年の中興開山今須妙応寺笑山和尚の時に曹洞宗に転宗。現本堂は、稻葉一鉄が僧になってから隠居場としていたという。(揖斐川町歴史民俗資料館 2001) 当寺住職によると、釣月院はかつて釣月寺と呼ばれており、七堂伽藍を有していたという。						
遺構	石積み、石組、基壇、土塁、集石						
遺物	宝鏡印塔、五輪塔、一石五輪塔、石仏						
有形文化財等	木造十一面千手觀音菩薩立像(県指定、縁倉)、釣月庵記(町指定、江戸)						
参考文献	揖斐川町歴史民俗資料館 2001『揖斐川町の文化財』揖斐川町教育委員会、揖斐川町文化財保護協会 1987『いび川の史跡をたずねて』揖斐川町						
備考	境内に祀られている五輪塔や供養塔は、隣接する清水古城から出土したものである(揖斐川町文化財保護協会 1987)が、特に大きな五輪塔3基はかつて本堂南西山裾にあったとのこと。 釣月院北東の山頂部に所在したとされる清水古城は、延文元(1356)年に築城され、200年間ほど在城したとされる山城で本堂の建つ平坦面がかつて清水古城の曲輪の一部であった可能性も考えられる。境内の一角に集積された石塔類のほとんどが昭和52年の土取りの際に清水古城より出土したといいう。伽藍の一部は約600m南西の平地に所在する清水神社の場所にもあったといい、神社入口脇には町重要文化財「十王仏」の御堂がある。						

調査所見 現本堂西方の山腹に基壇、土塁、平坦面群、円礫の集石や石組があり、現本堂がある平坦面が最も広い。寺での聴き取りで、旧跡の伽藍は、淨輪寺東側に釣月院への参道登り口があり、参道の左手(西側)の山腹から山麓にかけて存在したこと。また、山頂には、尾根より一段低い平坦面に方形の石積みが残るが、帯状の平坦面が地形に沿って不規則に展開している。尾根まで上がる通路の一部である可能性もあるが、山中には円礫が多く散乱し一部では集積されている箇所もあり、墓域とも考えられる。



図 56 補陀山釣月院 地形観察図

地区	西濃	寺院番号	30107	県遺跡番号	—	分布図番号	L3
ふりがな		(かり) きそやはいじ		所在地	揖斐郡揖斐川町谷汲木曾屋寺ヶ洞・洞田		
寺院名 (史跡・遺跡名)		(仮) 木曾屋庵寺					
時代区分		古代・中世か		宗派		不明	
立地		山腹～山麓		現状(植生)	山林(スギ・ヒノキ、アカマツ)		
東西規模	100m	南北規模	150m	標高(比高差)	192(10)m	平坦面面類	不明
沿革	かつては7か寺があったという。寺洞からは、陶器類や金属製品を埋納し石で覆い埋めた遺構(塚か)が発見されている。寺ヶ洞には、五輪塔や塔婆が多数残る。(揖斐郡教育會 1924) 字寺洞については、「五輪塔が多く出土したことから、かつて寺があったと言われている」字寺洞については「寺と洞についている地名が7か所あったと言われている。かつて寺があったらしく、その跡が残っている」という。また、その南東側にも「観音堂」「石子」という地名が残り、「観音堂」は「7つの寺があった場所の一つという」とされ、「石子」は「昔、経塚があったといい、一部水田に開墾した時経塚の石が出てきたという」。(揖斐郡教育會 1992)						
遺構	石積み、塚、参道、池						
遺物	近世陶器、金属製品、五輪塔						
有形文化財等	—						
参考文献	揖斐郡教育會 1924『揖斐郡志』	揖斐郡教育會 1992『岐阜県揖斐郡 ふるさとの地名』					
備考	地元での聞き取りで、「字寺洞では圃場整備の際に五輪塔などが出土した」とのこと。						

調査所見 横蔵寺と華厳寺間の街道沿いに位置する。字寺ヶ洞では、石積みを伴う平坦面や池を複数確認した。石積みは比較的小礫を密に詰め込み、2・3段でしっかりと組まれている箇所もある。上方の三角形状の平坦面を中心とし、その前に池と広い通路、そして高くしっかりとした石積みを有する平坦面群が連続するため、寺の中心であったと思われる。下方の平坦面群の石積みは上方の石積と似た作りで、石組みされた臺や五輪塔の部材なども確認され、近世頃まで寺に関係していた場所である可能性が考えられる。小礫を密に詰め込んだ石積みの造りは、古い時代のものである可能性も考えられ、古代・または中世に起源をもつ寺院跡の可能性がある。

字西ヶ洞は、流出・崩落土が多量に堆積し詳細は不明である。字洞田は、最奥に小規模の平坦面がある。山麓に石積みを伴う両袖付の窪みがある。図化範囲南方には「観音堂」「石子」などの地名が残る。



図 57 (仮) 木曾屋庚寺 地形観察図

地区	西濃	寺院番号	30095	県遺跡番号	21401-06696	分布図番号	J2
ふりがな	(てらやしきいせき)	所在地		揖斐郡揖斐川町山手			
寺院名 (史跡・遺跡名)	(寺屋敷遺跡)						
時代区分	古代(平安)				宗派		
立地	尾根上				現状(植生)		
東西規模	18m	南北規模	14m	標高(比高差)	334(12) m	平坦面分類	B
沿革	当地は「寺屋敷」「観音屋敷」と呼ばれていたようであるが、寺の存在について記した文献はなく沿革は不明である。						
遺構	礎石建物跡、焼窯集積遺構、集積遺構、道状遺構、石組状遺構、土坑、小土坑						
遺物	灰釉陶器、螺髮、铁釘						
有形文化財等	—						
参考文献	財団法人岐阜県文化財保護センター2001『寺屋敷遺跡・穂谷口遺跡』、富永樹之 2006「東国の「村落内寺院」の諸問題—千葉県以外を主体として—」『在地社会と仏教』独立行政法人国立文化財機奈良文化財研究所編、独立行政法人国立文化財機奈良文化財研究所ホームページ「古代寺院遺跡データベース」(http://mokuren.nabunken.go.jp/NCPst/jin/NCPstrJ.htm)						
備考	篠山ダム建設に伴い、平成5年度に当センターが発掘調査を実施した。 当遺跡は10世紀前半に営まれ、11世紀代に廃絶した寺院と考えられている。約200m南東の穂谷口遺跡では遺構は確認していないが須恵器・灰釉陶器が出土し、当遺跡は村落内寺院の可能性が指摘されている(富永 2006)。						

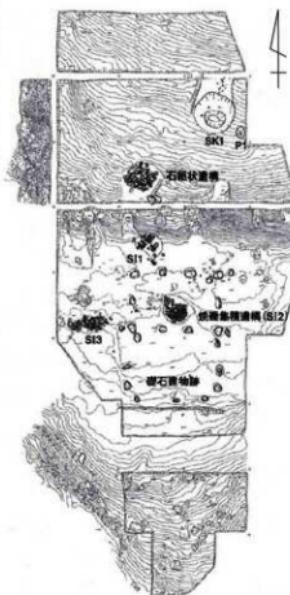
遺構の概要 平坦面1面において、礎石建物跡1棟・焼窯集積遺構1基(SI 2)・集積遺構2基(SI 1・SI 3)・道状遺構、尾根上で石組状遺構・土坑(SK 1)・小土坑(P 1)各1基を確認した。礎石建物跡は尾根の向きに合わせた底のない側柱建物(主軸方位N-12°-W)で、報告者は桁行4間・梁行3間(7.16×5.37m)としたが、桁行3間・梁行2間(5.37×3.5m)の身舎南側に付属施設が付く見解もある(独立行政法人国立文化財機奈良文化財研究所ホームページ)。SI 2は掘方から焼窯と炭化物が多数出土し、護摩壇状遺構の可能性がある。建物の下部では、平坦面を造成した整地層の存在が指摘されている。建物の南面では、部分的に道状遺構を確認した。他の遺構については時期・性格とともに不明である。

遺物の概要 級石建物跡及びその周辺において、主に検出面直上層から、折戸53号窯式期の灰釉陶器58点(碗・輪花碗・皿・輪花皿・段皿・折縁皿・長頸瓶・多口瓶)と鉄釘90点、ほかに螺髮2点が出土した。碗・皿の内面には有機物や赤色の付着物が認められ、FT-IR分析により碗・輪花碗各1点については漆であることが確認された。被熱した多数の鉄釘の出土から、礎石建物跡は焼失した可能性がある。なお、瓦は出土しなかった。



財団法人岐阜県文化財保護センター2001に加筆

図58 寺屋敷遺跡 遺跡位置図



財団法人岐阜県文化財保護センター2001に加筆

0
10m
(S=1/300)

図59 寺屋敷遺跡 発掘区全体図

地区	西濃	寺院番号	30096	県遺跡番号	21401-08721	分布図番号	J2
ふりがな	(てらだいらいせき)	所在地		揖斐郡揖斐川町塚			
寺院名 (史跡・遺跡名)	(寺平遺跡)						
時代区分	古代(平安)	宗派		天台宗→真宗			
立地	尾根上	現状(植生)		その他			
東西規模	44m	南北規模	24m	標高(比高差)	370 (19) m	平坦面分類	B
沿革	当地には、天台宗の寺院が存在したとされ、天正年間(1573~1592)に現・福井県今立郡池田町土合皿尾に移され、円淨寺(宗派は真宗誠照寺派)と称した。円淨寺には塚から持参したという阿弥陀如来尊像が安置されており、移転前に真宗へ改宗したと推測される(徳山村史編集委員会 1973)。						
遺構	礎石建物跡、掘立柱建物跡、集石遺構、小土坑列、焼土、溝状遺構、土坑						
遺物	灰釉陶器、土器類、土製品						
有形文化財等	一						
参考文献	財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『寺平遺跡』、徳山村史編集委員会 1973『徳山村史』徳山村						
備考	徳山ダム建設に伴い、平成13年度に当センターが発掘調査を実施した。 当遺跡は能郷白山の約7.9km南西に位置することから白山信仰との関連が推測され、礎石建物跡は宗教的施設、掘立柱建物跡はその関連施設で、ともに10世紀前半に當まれ11世紀代に廃絶したと考えられている。						

遺構の概要 平坦面1面において平安時代の礎石建物跡1棟・掘立柱建物跡1棟・集石遺構1基・小土坑列1条と、焼土1基・溝状遺構3条・土坑を確認した。礎石建物跡は発掘区北東部に位置し、後世に削平されて建物の北側のみ残存する。尾根の向きに合わせた南北棟(主軸方位N-5°-E)で、桁行1間以上・梁行2間(2.7以上×5.4m)の側柱建物である(全体としては3間×2間程度)。掘立柱建物跡は発掘区北部中央に位置し、南北軸の方位はN-5°-W、桁行2間・梁行2間(4.4×4m)の底のない側柱建物である。両建物跡とともに、柱穴出土遺物から折戸53号窯式期に位置付けられているが、同時期に併存したか否かは不明である。集石遺構は整地層の南裾の可能性、小土坑列は掘立柱建物に付随する柵の可能性も指摘されている。

遺物の概要 折戸53号窯式期を主体として黒釜-90号窯式期から東山-72号窯式期にかけての灰釉陶器50点(碗・皿・段皿・折縁皿・壺類等)、土器類2点、土製品5点が出土した。灰釉陶器11点に有機物の付着が認められ、FT-IR分析により碗・折縁皿各1点について漆であることが確認された。なお、瓦は出土しなかった。

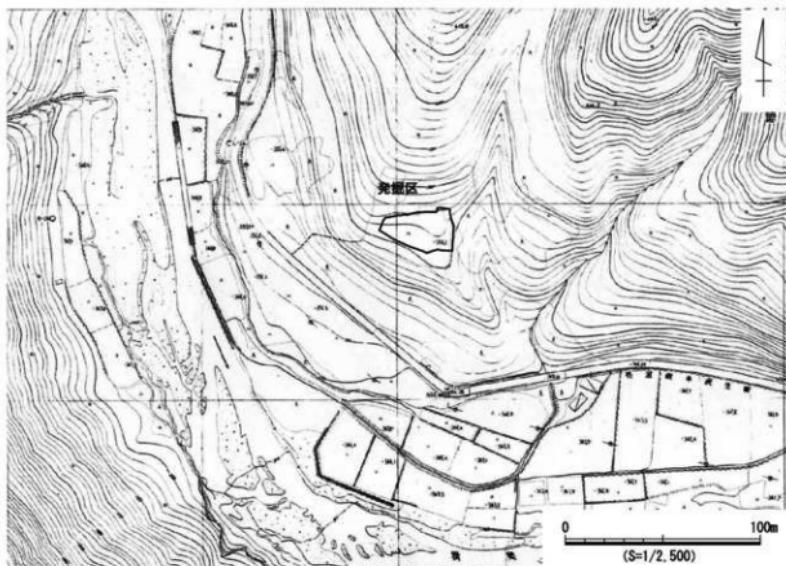
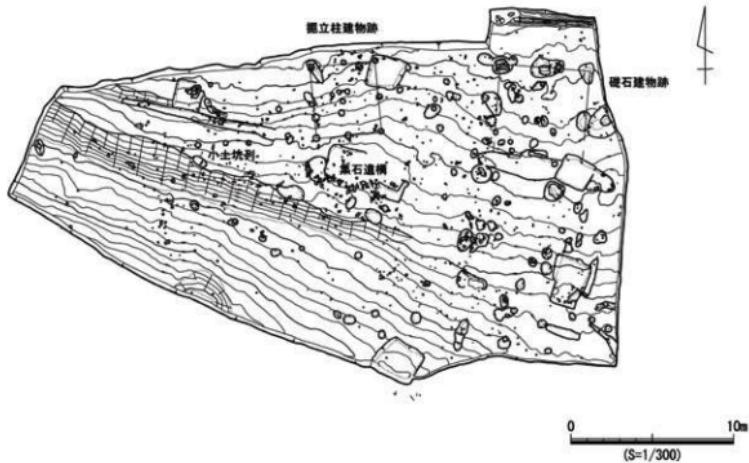


図60 寺平遺跡 遺跡位置図



財團法人岐阜県教育文化財団文化財
保護センター2003に加筆

図61 寺平遺跡 発掘区全体図

地区	西濃	寺院番号	30127	県遺跡番号	21401-06380	分布図番号	J2
ふりがな	(あげはらいせき)	所在地		揖斐郡揖斐川町上原			
寺院名 (史跡・遺跡名)	(上原遺跡)						
時代区分	古代(平安)	宗派		不明			
立地	河岸段丘上	現状(植生)		その他			
東西規模	約 90m	南北規模	約 450m	標高(比高差)	308m	平坦面分類	不明
沿革	沿革は不明である。						
遺構	掘立柱建物跡、土坑						
遺物	灰釉陶器、青磁						
有形文化財等	一						
参考文献	第2地点：財団法人岐阜県文化財保護センター1998『上原遺跡Ⅰ』、第3地点：財団法人岐阜県文化財保護センター2000『上原遺跡Ⅱ』、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『寺平遺跡』						
備考	規模・標高は、第2地点の情報を記載した。徳山ダム建設に伴い、平成2～7年度に当センターが発掘調査を実施した。第2地点における灰釉陶器の出土量は旧徳山地区の中で最も多く、同地点は10世紀から11世紀における中心的な場所であり、両地点の掘立柱建物跡はともに「宗教的な施設かその可能性が考えられる施設」(財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003)と考えられている。						

遺構の概要 当遺跡の第2地点及び第3地点において、掘立柱建物跡各1棟を確認している。両建物は直線距離で約300m・比高差約23mと離れているが、同一遺跡として周知されているため、一括して説明する。第2地点の掘立柱建物跡は、中位段丘崖の向きに合わせた南北棟で、桁行7間・梁間2間(13.5×5.2m)の側柱建物である。柱穴から出土した灰釉陶器から10世紀後半～11世紀に位置付けられている。第3地点の掘立柱建物跡(ただし、報告者は「ピット群」と記載)は、高位段丘崖の向きに合わせた側柱建物で、桁行4間・梁間2間(約9.4×4m)と考えられる。建物内で焼土と焼礫を確認しているが柱穴の検出面と異なるため、両者の関連は不明である。建物跡周辺から出土した灰釉陶器から、9世紀後半～10世紀と推測されている。

遺物の概要 第2地点の掘立柱建物跡から約50m南で出土した、灰釉陶器碗1点に付着する有機物はFT-IR分析により漆であることが確認されており、また同地点では灰釉陶器(碗・段皿・長頸瓶)のほか、墨書き器(釈迦不能、灰釉陶器皿)、越州窯青磁碗1点が出土した。第3地点では灰釉陶器(碗・壺・朱墨の残る転用壺)、墨書き器1点(「一」)が出土している。

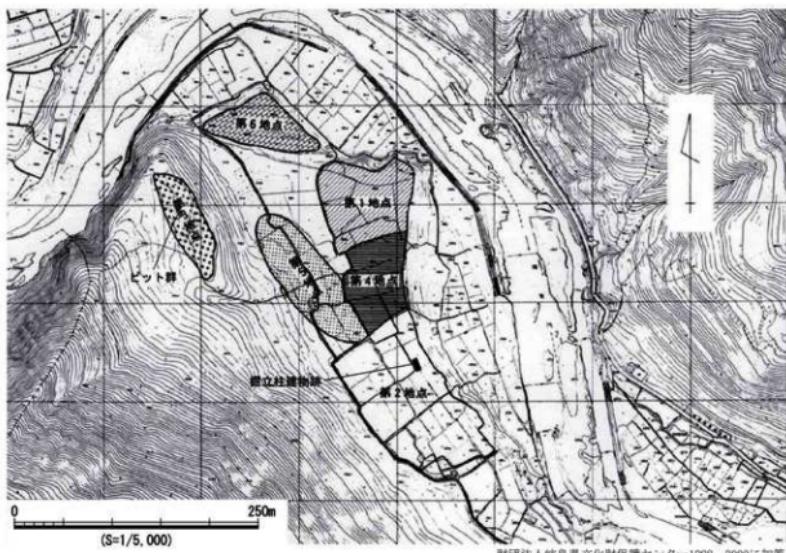
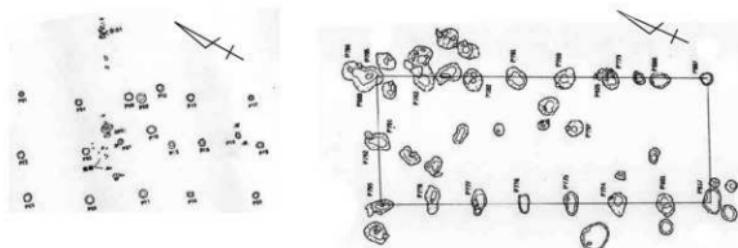


図62 上原遺跡 遺跡位置図



財団法人岐阜県文化財保護センター 1998, 2000年に加筆

図63 上原遺跡 遺構図

[大野町]

地区	西濃	寺院番号	31003	県遺跡番号	21403-11408	分布図番号	44
ふりがな	ほううんざんきぶりじ (きぶりじけいだいいせき)			所在地		揖斐郡大野町福富	
寺院名 (史跡・遺跡名)	宝雲山来振寺 (来振寺境内遺跡)						
時代区分	古代(奈良)~			宗派		法相宗→真言宗	
立地	山麓			現状(植生)		境内地(草地)	
東西規模	400m	南北規模	375m	標高(比高差)	60(0)m	平坦面面積	一
沿革	垂亀元(715)年、行基菩薩の創建、法相宗新福寺と称す。神亀2(725)年6月18日黄金色の雪が凡余りも積り来振大神御降臨の神祠があり聖武天皇の勅号で来振寺と改称。京都松原極楽院の成運を転住七堂伽藍12坊を建立、勅願寺、承平7(937)年新義源真言宗に転宗。享禄3(1530)年根尾川の大洪水で寺領流失。水禄3(1560)年織田信長の兵火で伽藍焼失200 数十名の僧兵離。慶長年間(1596~1615)・元和年間(1615~1624)豊臣・徳川氏朱印地を以て再興。宝永6(1777)年義山僧正が京都・智積院第12世管長に就任、本尊十一面觀世音菩薩を寄進し各堂宇を中興。(大野町1985)						
遺構	石積み、伝多宝塔跡(愛宕神社)						
遺物	古瀬戸の藏骨器(町指定)、五輪塔・一石五輪塔(愛宕神社の墓地)						
有形文化財等	本尊:十一面觀世音菩薩、迦陵阿字・如意輪觀音(県指定、鎌倉)、弘法大師御影(県指定、室町)、絹本着色五大尊像(国指定、平安)、薬師如來・閻魔曼荼羅・日光菩薩像・十三仏図・千手観音像・如意輪觀音像・十六善神図・弘法大師像・興教大師像・涅槃図・阿字二菩薩図・十一面觀音立像・不動明王立像・弁財天座像・大日如來像・弘法大師座像・興教大師座像・地藏菩薩座像・懸仏・大般若經・般若心經・大日經・手洗石・木造大日如來像・骨壺(町指定)						
参考文献	岐阜県揖斐郡大野町 1985『大野町史・通史編』、大野町教育委員会 2009『大野町遺跡詳細分布調査報告書 資料(考古)編』						
備考	西美濃三十三重塔第二番札所、美濃新四國第五十五番札所 境内周辺には江戸時代の状況を伝える伝承や遺構が残る。境内の北東には標高391mの山がありその中腹に大名の休憩所があったとされる。境内の南方集落には權家である朝日奈家の屋敷があり塙がある。現在は上更地公民館となっているが「31048 十王堂跡」も来振寺の法流である。						

調査所見 現境内に、大師堂(金堂)・觀音堂(本堂)・西国三十三觀音堂・聖天堂・弁天池などがあり、広大な境内を有する。寺伝によると、織田信長の戦火以前は来振神社付近に僧兵の居住地があり、北側の丘と現在の愛宕神社付近にも多宝塔が建っていたとされる。丘頂部(標高130m)には20m×5mの平坦面と一段下に下がったところに平坦面が2つ、東側の平坦面には40cm~50cm大の玉石が散在し塔跡と推測される。愛宕神社には平坦面と墓地があり、墓地には江戸時代の年号が入った墓石や五輪塔の部材がある。愛宕神社には40m×60mの平坦面に舞台と祠がある。その東側に複数の平坦面があり、墓石と五輪塔が並んでいる。墓石に掘られた年号で確認できた一番古いものは「享保」で、更地城跡から移動してきたものとのこと。現在の境内を含め、塔跡・多宝塔跡は中世以前の状況を残している可能性が高い。

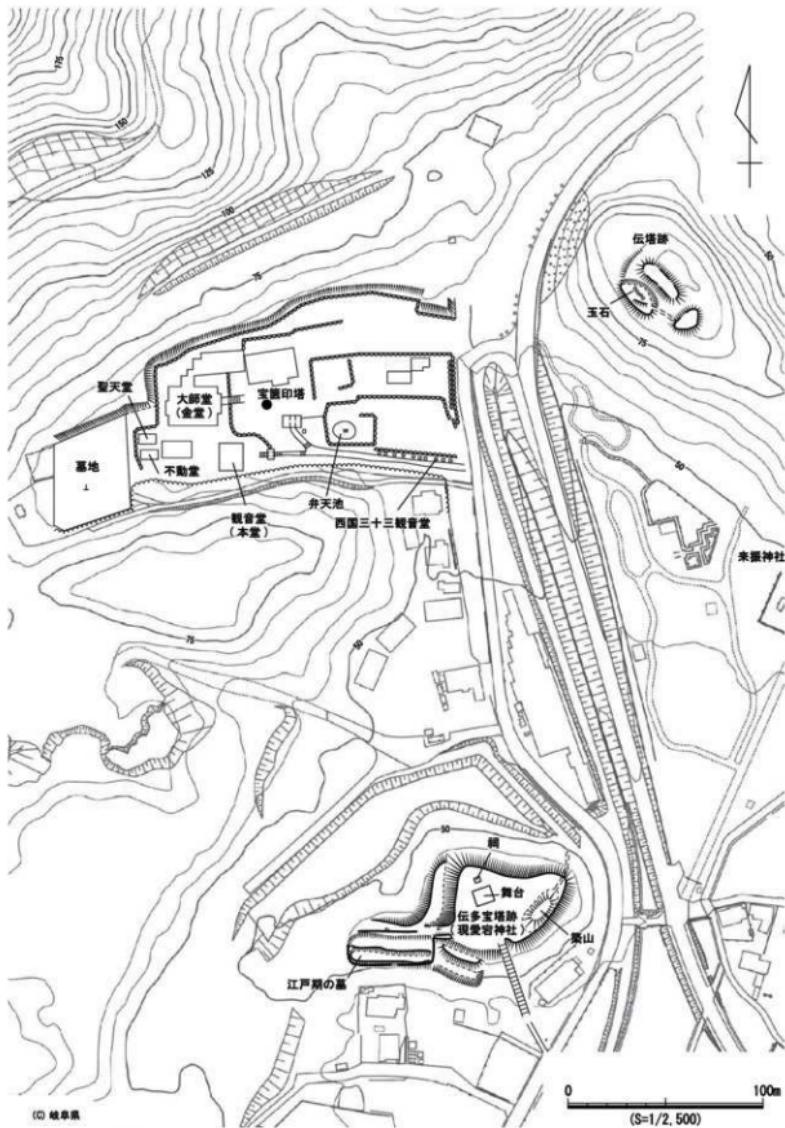


図 64 宝雲山來振寺（來振寺境内遺跡）地形観察図

地区	西濃	寺院番号	31046	県遺跡番号	21403-11988	分布図番号	M4
ふりがな	みょうまんさんとうみょうじ	所在地	揖斐郡大野町野宇堂ヶ洞				
寺院名 (史跡・遺跡名)	妙満山東明寺						
時代区分	中世	宗派		法相宗			
立地	山腹～山麓	現状(植生)		山林(スギ・ヒノキ、アカマツ)			
東西規模	220m	南北規模	250m	標高(比高差)	140(110)m	平坦面面類	B+C2+D
沿革	奈良東大寺末、光明寺と称す。永正10年(1513)3月焼失という。(大野町1985)足利尊氏が野村郷東3か村を東大寺に寄進した際に開かれた東大寺末寺と伝わる。3間四方東向きの本堂、南向きの春日明神、巽向きの不動堂があったという。(大野町教育委員会2009)						
遺構	一						
遺物	石仏						
有形文化財等	一						
参考文献	岐阜県揖斐郡大野町1985『大野町史・通史編』、大野町教育委員会2009『大野町遺跡詳細分布調査報告書 資料(考古)編』、野村村誌編集委員会1959『野村村誌』						
備考	町教委によると、昭和40年頃にバンガロー村であった辺りが寺跡と伝わる。町名勝金尾瀧(近世)は石組の人工滝で滝上に不動尊石仏を祀っている。						

調査所見 巨岩が点在する北東から南西に流れる谷の奥と、北西の本堂跡奥に湧水点がある。谷部に扇形に平坦面が展開し、最も大きい平坦面が『野村村誌』にある「3間四方東向きの本堂」であると考えられる。北東の谷北には、小規模な平坦面がある。南には町名勝の「金尾瀧」がある。南西部の平坦面群は元バンガロー村があったとされる範囲で、一部改変されていると思われる。なお、石塔類については、確認することができなかった。本堂跡東の平坦面群内には古墳が数基残っている。参道は東の谷の西側に谷に沿って湧水地点付近の平坦面に向かうものが残っているが、他は不明である。



図 65 妙満山東明寺 地形観察図

地区	西濃	寺院番号	31002	県遺跡番号	21403-11297	分布図番号	M4
ふりがな	ちゅうほんざんじっそういん(りょうげじっそういんあと)	所在地		揖斐郡大野町領家			
寺院名 (史跡・遺跡名)	中本山実相院 (領家実相院跡)						
時代区分	古代(奈良)、中世	宗派		高野山真言宗			
立地	低地	現状(植生)		境内地・宅地			
東西規模	440m	南北規模	470m	標高(比高差)	24(2)m	平坦面分類	一
沿革	堀籬山薬師寺実相院。元正帝の勅願所で養老2(718)年に開基泰澄大師の創建、兵火に遭い焼失。天文17(1548)年実相院由来書に建武2(1335)年順海上人、領主九条家を領主とし中興、天文15(1546)年4月18日、井ノ口より乱入の斎藤道三のため再び本尊塔婆残らず焼失。天文17(1548)年9月9日庄・牧村源十郎の女性施主となり本尊薬師瑠璃光如来像を造立、権大僧都鏡覚が開眼。薬師堂・大師堂・岸堂を構えて万治の頃まで禪僧が仮住。寛文年間(1661~1673)紀伊国高野山より覺阿闍梨入寺して真言宗を興隆。(大野町 1985)『堀籬山薬師寺実相院縁起』は養老2(718)年泰澄の創建、建武2(1335)年順海の中興、天文15(1546)年斎藤道三の兵火により焼失と伝わる。						
遺構	土器、構						
遺物	須恵器、灰釉陶器、宝鏡印塔、五輪塔(文明・天文・天正の刻銘)、一石五輪塔、板碑五輪塔、石仏						
有形文化財等	一						
参考文献	岐阜県揖斐郡大野町 1985『大野町史・通史編』、大野町教育委員会 2009a『大野町遺跡詳細分布調査報告書 資料(考古)編』、大野町教育委員会 2009b『大野の繪図』						
備考	往事は本寺の周間に日光坊・月光坊・宝淨坊・愛染院・千手院の寺家五ヶ寺が並び、鎮守八幡神社、南絶門などがあった。今の南領家の集落は寺家の跡。集落南端の青木神社周辺に遺物が集中。領家実相院跡の北の三千仏遺跡は僧坊・有力寺家もしくは寺院周辺に成立した集落。中世以寺の中心が北に移った可能性高い。北領家集落の北端、景浄神社周辺に遺物集中、中世以降北へ展開した。領家から大衣斐・南方に広がる強大な寺院であった。南の字村道中東の寺地北側帯状地割は現在も土塁状の地形として残る築地跡。字全城が実相院の中心伽藍。東側張出部が描かれる。近世までこの区画が実相院の寺地として認識されていた。						

調査所見 根尾川と揖斐川に挟まれた低地に位置する。大字領家にあり、北東に隣接するのは大隆寺跡がある大字小衣斐である。現本堂周辺を中心に現地確認を実施したところ、馬頭観音をまつった祠が多数確認され、北にある来振寺とも同じ宗派で、寺域が広範囲であった可能性が考えられる。現地表面では遺構が確認できないため、大字領家(東西3町南北12町)の範囲の字絵図(明治20年のものを大正後期に再調整)で検討する。大野町教委の助言で「南領家(実相院の旧寺地)と北領家の「三千仏」「大日」あたりが中心で、北に位置する景浄神社(『美濃國神名帳』登載の古社)が一連のものだった」。小字名や地割を検討したところ、南の小字「三千仏」(遺跡名: 領家実相院跡)を中心とした約230m×250mの範囲と、北の小字「大日」「居所」(遺跡名: 三千仏遺跡)を中心とした約220m×440mの範囲が実相院旧跡の寺域と考えられる。



図 66 領家実相院跡・三千仏遺跡 地籍図

地区	西濃	寺院番号	31017b、31083	県遺跡番号	21403-11956	分布図番号	M4
ふりがな	ぜんのうじきゅうけいだい(じないいせき)	所在地	大野町寺内字村の内				
寺院名 (史跡・遺跡名)	善能寺旧境内 (寺内遺跡)						
時代区分	古代（平安）、中世	宗派		天台宗			
立地	平地	現状(植生)		寺境内、住宅、田畠			
東西規模	360m	南北規模	420m	標高(比高差)	32.8(1)m	平坦面分類	一
沿革	<p>永延元年(987)に創建された天台宗勝慶寺24院の寺内に成立した村と伝えられ、明治期まで集落外周・集落内家屋とともに土塁に囲繞されていた。集落の南には、道に面して規則正しい短冊状の地割がみられる。この付近は元禄期の村絵図には「市場」と記載されていることから中世末頃の町場の跡と推定。中世には環濠集落を形成していたとされ、絵図や地割にみえる外周の土塁・水路を含む範囲とした。善能寺南西に集荷場を建設した際、弥生土器の底部、平安時代の土師器皿が出土。（大野町教育委員会2009）寺内・目加田兵四郎老の話では、寺内には、山際にある猪鹿垣（ししどい）とは別に、村内にも大きな垣（幅5m）を環状に回らし、内側にやや細めの垣が、住居を囲むように縱横に構築し古文書「寺内村・官有猪鹿垣払下向」がある。目加田老は「昔寺内には24の寺や坊があり、大きい寺は単独に、小さい坊などは2・3が集まつた区域を一つの区画として垣を回らしていたもので、このことから『寺内』という村名が生まれたと推測」。本尊は伝正徳6年(1716)作の阿弥陀如来立像。永延元年(987)、源信和尚の法弟源賢僧都が当地に天台宗勝慶寺を建立。24院を並べた靈場（字名「寺内」の由来）であったが、承久3年(1221)兵火に遭い、その後は廢頃。慶長5年(1600)ごろ勝慶寺の草堂一字となる。慶長8年(1603)覚信（石田三成の弟）当国池田郡より河内守知行、野村郡寺内に入寺し、第28世祐尊と共に本願寺末寺となり、勝慶山善能寺と改称。（岐阜県揖斐郡大野町1985・2009）遺跡内には、延文4年(1359)創建、天文8年(1539)丁酉が天台宗より転宗し中興開祖の光雲山光沢寺もある。本尊は阿弥陀如来。（岐阜県揖斐郡大野町1985）</p>						
遺構	土塁、水路						
遺物	弥生土器、ロクロ土師器皿						
有形文化財等	阿弥陀如来、阿弥陀如来画像、六字名号、親鸞聖人・蓮如・太子・顯如・本如・文如各上人御影、太閤検地帳（町指定）（岐阜県揖斐郡大野町1985）、寺内村全図（明治23年(1890)か）						
参考文献	大野町教育委員会 2011『大野の条里』大野町遺跡詳細分布調査報告書条里編・解説編、大野町教育委員会 2009『大野町遺跡詳細分布調査報告書資料（考古）編』大野町教育委員会 2009『大野の絵図』、岐阜県揖斐郡大野町 1985『大野町史・通史編』						
備考	集落内の家屋は土塁で囲まれていたことで知られ、土塁は塔頭寺院の築地跡とされる。集落内道路の間隔が約106mと1町で、条里を元に施行された。（大野町教育委員会2009）						

調査所見 地籍図から、360m×420mの環濠と土塁、その内側に約100m四方の土塁を伴う区画が複数確認できる。現在は寺内遺跡範囲内の北西角に現存寺院2か寺（浄土真宗本願寺派の善能寺と光沢寺）と小区画内には集落があり、現道には土塁・水路の地割が残る。



図 67 善能寺旧境内（寺内遺跡）地籍図

[池田町]

地区	西濃	寺院番号	32003b	県遺跡番号	一	分布図番号	M3
ふりがな	ぜんなんじきゅうけいだい			所在地		池田町片山	
寺院名 (史跡・遺跡名)	善南寺旧境内						
時代区分	古代～		宗派	天台宗→浄土宗			
立地	山腹～山麓		現状(植生)	山林(スギ・ヒノキ)			
東西規模	226m	南北規模	280m	標高(比高差)	103(32)m	平坦面分類	A+C1+D
沿革	弘仁2(811)年最澄の創建。善南寺山松ヶ屋五の段に七堂伽藍が立ち並んで、末寺18か寺、寺領1350石ほどを有していた。永治元(1141)年兵火にかかり、本尊は片山に移された。文和2(1353)年、堂ヶ谷に草庵を結んで法燈を守り、のち寛文6(1666)年、字東光寺の地に七堂伽藍が再興され、元禄12(1699)年、玄蕃上人を開山として浄土宗に転派した。大正8(1919)年に火災にあったが、昭和18(1943)年、現地に本堂を再建し翌年本尊を安置した。(池田町1978)						
遺構	石積み、礎石、推定塔跡						
遺物	五輪塔、一石五輪塔、宝鏡印塔、石仏						
有形文化財等	十一面子安觀世音菩薩像(町指定、平安)						
参考文献	池田町 1978『池田町史』通史編						
備考	池田山山頂(標高924m)の南東尾根上(標高650m)地点(善南寺山松ヶ屋五の段)に、古代～中世の善南寺跡(21404-1958)・善南寺中世墓(21404-1959)があるが、近年の林道改変で確認できず、図化できていない。今回図化したのは、この位置から文和2(1353)年、南北朝時代に移転し江戸時代前半まで存続した堂ヶ谷地点である。						

調査所見 善南寺古墳の南に、礎石が残る平坦面があり、推定塔跡と考える。推定塔跡の北西山麓で十八社神社西にある平坦面が本堂跡と考えられる。本堂跡の南には、江戸時代に補修された石積みが残る平坦面が階段状に8段続く。最も高い位置にある平坦面は比高差3mで最も広く、平坦面群の中には2段構造の石積みのものもある。また、これらの南東には池跡と思われる石積みを持つ窪地がある。堂ヶ谷左岸沿いに参道があり、本堂跡北西山頂付近の平坦面群へと伸びている。推定塔跡から西側平坦面への参道もある。十八社神社から東方向へ参道が伸び、現境内方向へ続いている。この参道両側にも平坦面群があり、参道中腹に墓域がある。

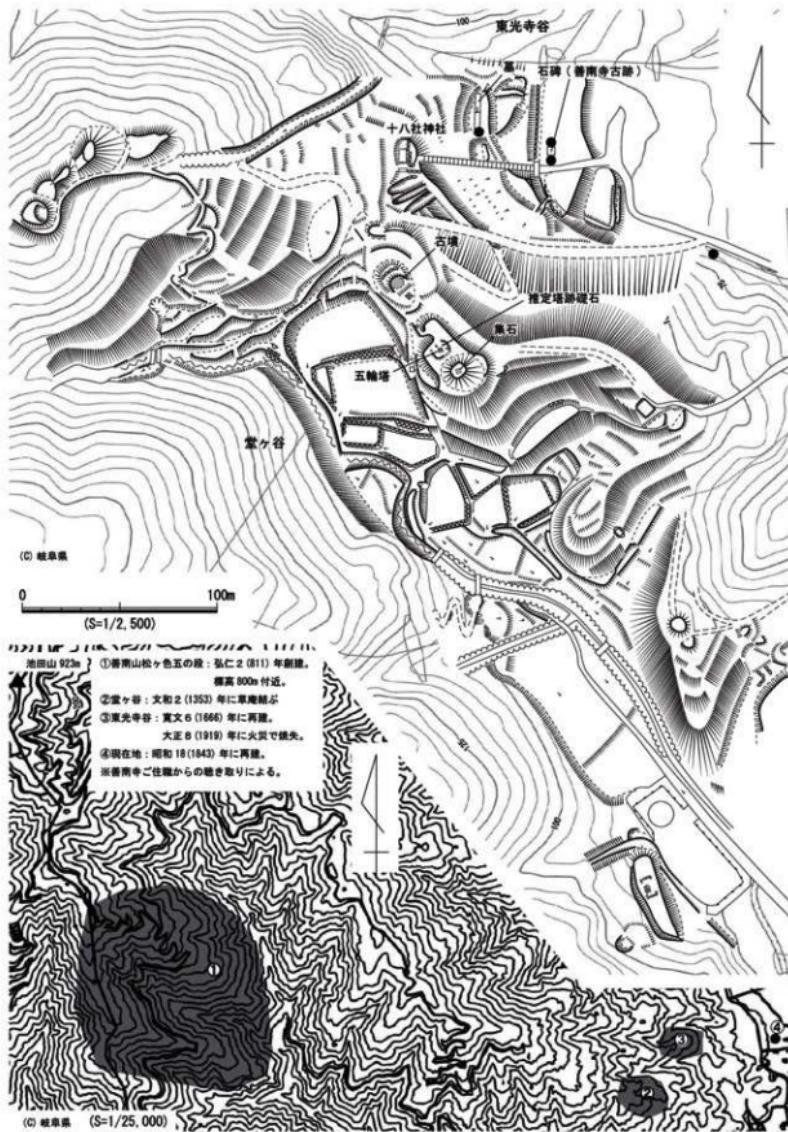


図 68 善南寺旧境内 地形観察図

地区	西濃	寺院番号	32026・32026b	県遺跡番号	21404-1640 21404-1641	分布図番号	M3
ふりがな	ありやさんゆげんじ・ゆげんじきゅうけいだい (ゆげんじこどうあと・ゆげんじこどうちゅうせい)			所在地		揖斐郡池田町段	
寺院名 (史跡・遺跡名)	阿梨耶山弓削寺・弓削寺旧境内 (弓削寺古堂跡・弓削寺古堂中世墓)						
時代区分	古代（平安）～			宗派		臨濟宗妙心寺派	
立地	山腹			現状（植生）		境内地・山林（アカマツ、コナラ）	
東西規模	600m	南北規模	600m	標高（比高差）	250（150）m	平坦面面類	A+C1-D
沿革	弘仁8（817）年に創建。開基は最澄。最澄が杖で池田山の温泉の湯を混ぜると馬頭観音像が浮き上がってきた。そこで最澄は、同像の百倍の木像を作り、湯の中から出た小像を胎内仏として本尊に納め。小堂を作り、温泉に因んで湯華寺と名付けた。後年温泉の湧出は止んで弓削寺と名を変えた。 (池田町 1978) 標高 200m の山腹にあり弘仁8年（817）、最長の創建と伝えられ、慶長7年（1602）焼失、現在の場所に移ったといわれる。（池田町教育委員会 1991）						
遺構	石積み、石段、参道						
遺物	灰釉陶器、山茶碗、古代瓦、常滑三筋壺、古漬戸四耳壺						
有形文化財等	一						
参考文献	池田町 1978『池田町史』通史編、池田町教育委員会 1991『池田町遺跡地図』（改訂版）						
備考	寺での憩い取りで、現本堂の南西に釣り鐘を造る場所（金鉢場：カナイバ）と伝説があった。 北東に平安寺が隣接している。						

調査所見 池田山北端の揖斐川町との境の粕川に近い急斜面の中腹で、清水谷北の扇状地に坊院が展開する。旧境内は現境内の北と西に残存する。扇状地の奥に墓域と本堂跡等の中心施設を設け山裾に向かって、旧跡は尾根上に、次期は扇状地の中央に位置し東へ一直線に参道が伸びる。時期の違いで3時期あり、それぞれ本堂跡を中心に坊院が展開する。3時期目に範囲を最も大きく広げている。

最も古い時期のものが一番北側（現境内の北）にあり、舌状に伸びる尾根上に展開する。本堂跡・塔跡等の主要な堂宇、湧水地点が西奥にあったものと推定され、尾根上の参道を中心に坊院が展開する。本堂跡より下の平坦面上には石列が残り池であった可能性がある。坊院を挟んで北と南の両側に墓域が展開すると推定される。南の墓域の北斜面下に五輪塔部材が散在する。全般に遺構の残存状況が良い。

2時期目の本堂は、現境内より高い西側で、伝觀音堂跡を中心として扇状地上に東へほぼ一直線に参道が伸び、参道の両脇に階段状に平坦面を配置する坊院が展開する。この参道は、現本堂の参道の南側にあたる。本堂跡裏（西側）に石塔部材が散在し墓域がある。また、本堂跡付近の平坦面に金鉢場があった可能性があるが、一部林道で改変を受けており詳細は不明である。

3時期目は、現弓削寺本堂を中心に扇状地上に東へほぼ一直線に下る参道が伸び、参道の両側に坊院が展開する。参道の南側に一部古い時期の石積が残る。標高 125～160m の範囲にある坊院の平坦面群は、地形の影響で比高差がある。



図69 弓削寺・弓削寺旧境内 地形観察図（1）、平安寺位置図

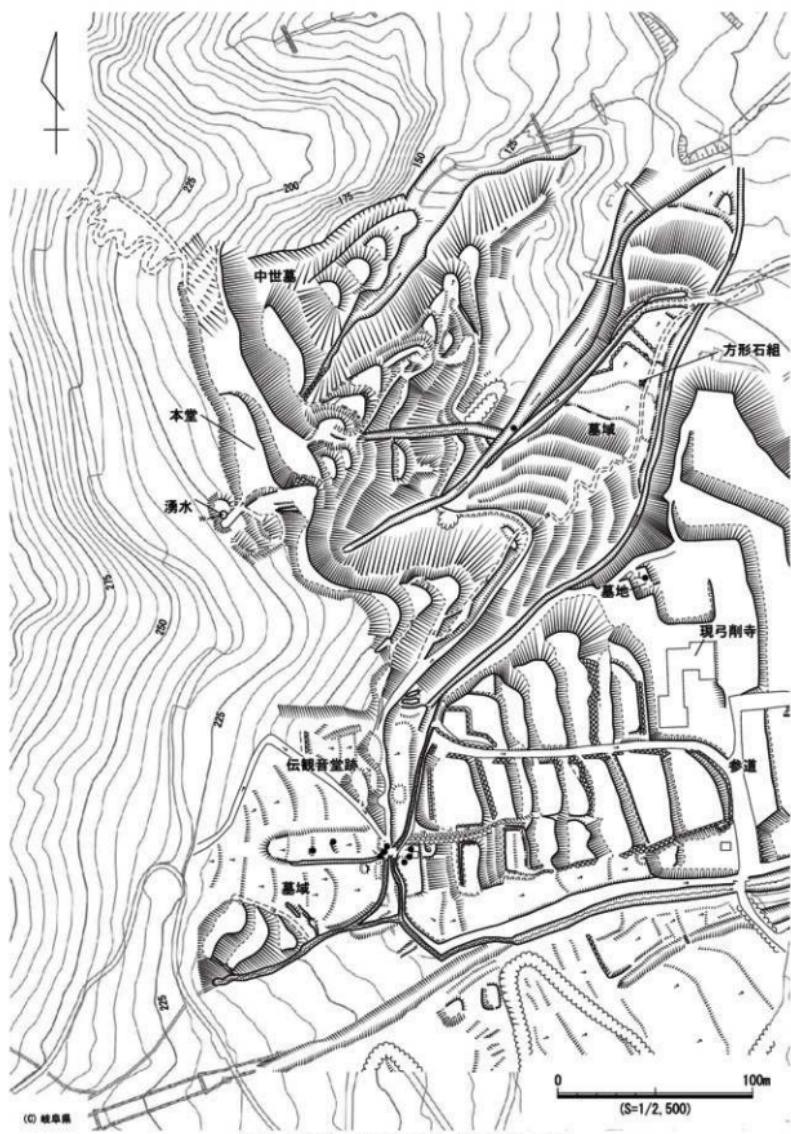


図70 弓削寺・弓削寺旧境内 地形観察図（2）



図 71 弓削寺・弓削寺旧境内 地形観察図（3）

地区	西濃	寺院番号	32029	県遺跡番号	—	分布図番号	M3
ふりがな	どうかいざんへいあんじ			所在地		池田町舟子	
寺院名 (史跡・遺跡名)	洞海山平安寺						
時代区分	古代（平安）～			宗派		天台宗→臨済宗	
立地	山麓			現状(植生)		境内・山林（アカマツ）	
東西規模	200m	南北規模	235m	標高(比高差)	103(32)m	平坦面面積	A+C1+D
沿革	応徳年間（1084～1087）、白河法皇が谷汲山参詣の折に発病され、32026 阿梨耶山弓削寺で湯治平癒されたので、平安殿を建てたことが開山と言われている。創建当時は天台宗であったが、萬治元（1658）年快伝和尚が衰退していたのを再建して禅宗に転派した。寛文七（1667）年に大垣城主戸田氏より境内山林免許の黒印が寄せられた。（池田町 1978）						
遺構	石積み						
遺物	五輪塔、一石五輪塔、宝鏡印塔、石仏						
有形文化財等	—						
参考文献	池田町 1978『池田町史』通史編						
備考	南西に弓削寺が隣接する。寺での聞き取りで、本堂等の具体的な位置は定かではないが、平安寺の旧跡が裏山にあるとのことで図化範囲に含めた。						

調査所見 池田山の東側の山麓にある、平安時代創建の寺院で、32026 阿梨耶山弓削寺旧跡が、当寺の谷を挟んですぐ南側にあるという立地条件や、当寺の創建に至る沿革からも、両寺の関係の深さがうかがえる。現本堂裏の山麓に沿って参道と平坦面を確認し、現本堂周辺にも平坦面が複数残る。山麓に沿って参道のうち、一番西側の道は、高さ 1m の土壠を作った箇所が 40m 続いている。北に行くと、谷地形の地点に 1 か所、尾根上に 1 か所の平坦面を確認できる。

現本堂の南側には、尾根上に東西方向の平坦面を 5 段確認した。これらの平坦面の西側の尾根上には、緩やかな傾斜のある平坦面があり土葬の跡が残り以前の墓地であったと思われる。旧墓地の西側の緩斜面の東端に、石積みが階段状に 4 段残っている。

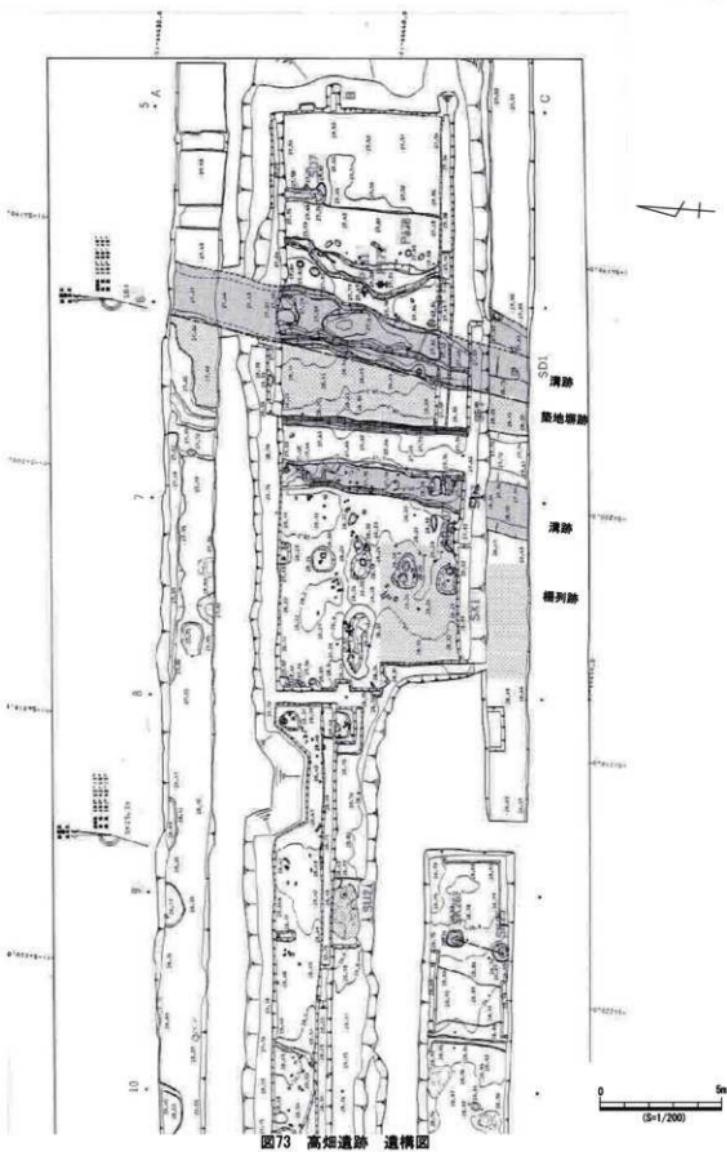


図 72 洞海山平安寺 地形観察図

地区	西濃	寺院番号	32042	県遺跡番号	21404-8764	分布図番号	M3
ふりがな		(たかばたいせき)		所在地	揖斐郡池田町大字片山高畠		
寺院名 (史跡・遺跡名)		(高畠遺跡)					
時代区分	古代（奈良・平安）、中世			宗派		不明	
立地	扇状地			現状(植生)		水田	
東西規模	200m	南北規模	150m	標高(比高差)	28(5)m	平坦面分類	一
沿革	7世紀末の創建で、12世紀の廃絶。						
遺構	埴地跡跡、溝跡、土坑、ピット、遺物集積						
遺物	須恵器、灰釉陶器、青磁、白磁、中近世陶磁器、奈良三彩、獸足、輪羽口、線刻唐文線單弁七葉蓮華文軒丸瓦、重弧文軒平瓦、丸瓦、平瓦、淨瓶、墨書き土器						
有形文化財等	一						
参考文献	財団法人岐阜県文化財保護センター2000『高畠遺跡』、岐阜県文化財保護センター2000『南高野古墳・二ノ井遺跡・市場遺跡』						
備考	軒丸瓦は8世紀初頭。三彩・淨瓶・鉄鉢・硯・刀子などの出土遺物から寺院跡の可能性がある。隣接する二ノ井遺跡では、寺院跡と関連する構1条が確認されている。						

遺構の概要 池田山南東麓にあり、金地谷や井振谷によって形成された扇状地縁辺部に位置する。池田山地と平野部の境にあたる。平成7年度に主要地方道岐阜関ケ原線道路改良に伴う発掘調査により発見された奈良時代創建の寺院である。圃場整備での削平を受け、主要堂宇の位置は不明であるが、東辺築地跡跡と外側の溝跡を検出している。

遺物の概要 南北方向の溝跡から古代瓦が、屋根に葺かれた状態のまま西から東に流れ込むように検出された。単弁七葉軒丸瓦の瓦当文様から時代は奈良時代初頭、奇数の花弁から渡来系氏族の氏寺と推定する。包含層からの出土だが、築地跡の西で淨瓶が1点ほぼ完形で出土したほか、奈良三彩破片が出土している。須恵器には「笠」の墨書きがある壺、硯、鉄鉢、獸足等、寺院跡と思われる遺物が出土している。



西濃圏域参考文献

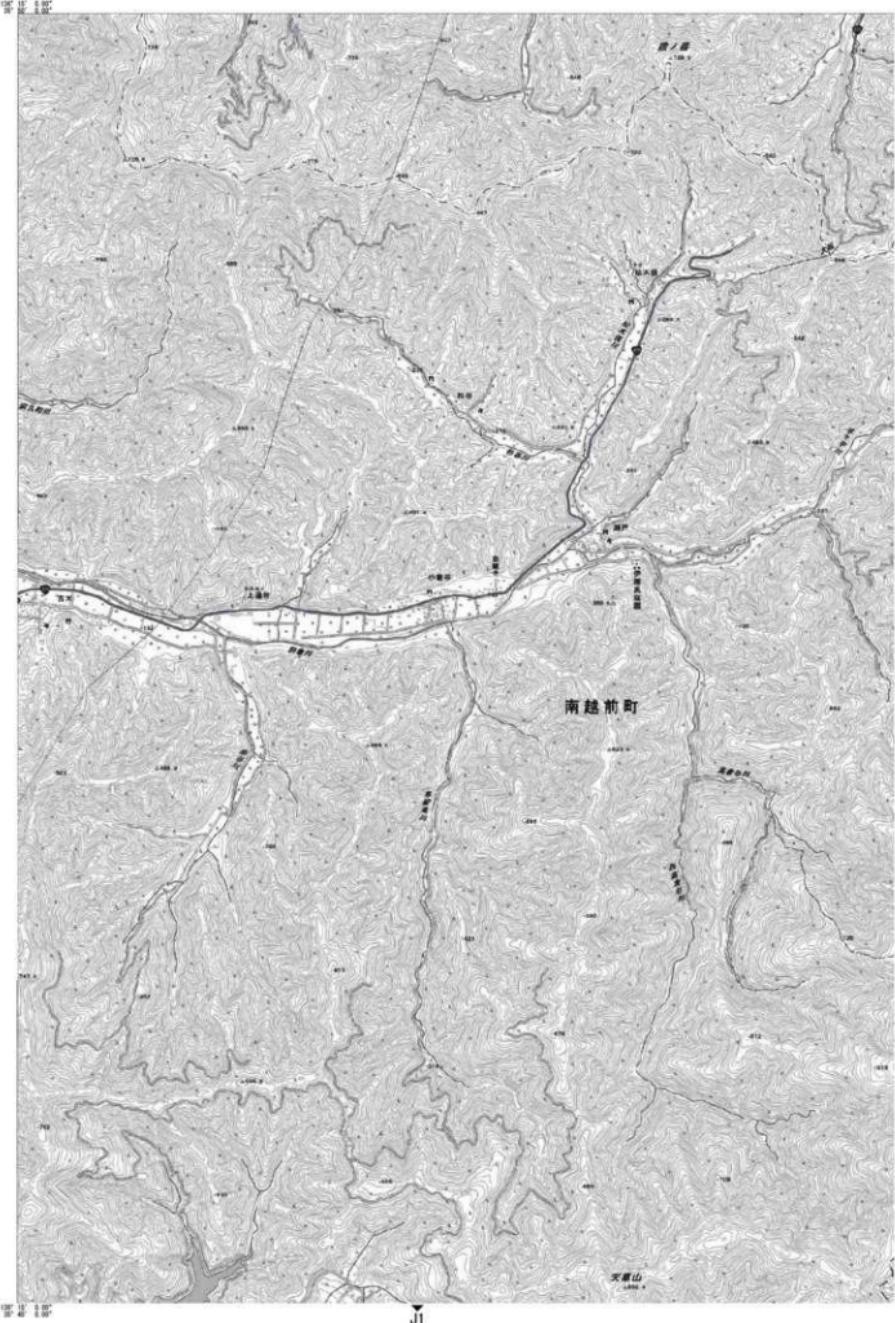
- 赤坂町史編纂委員会 1953『赤坂町史』赤坂町役場
- 安八町 1975『安八町史』通史編
- 安八町役場企画調整課 1996『安八町—歴史と地名をたずねて』
- 池田町 1978『池田町史』通史編
- 掛斐川町 1971『掛斐川町史』通史編
- 掛斐川町史編集委員会 2005『掛斐川町史』追録編 掛斐川町
- 掛斐川町文化財保護協会 1987『いび川の史跡をたずねて』掛斐川町
- 掛斐川町歴史民俗資料館 2001『掛斐川町の文化財』掛斐川町教育委員会
- 掛斐郡教育會 1924『掛斐郡志』
- 掛斐郡教育會 1992『岐阜県掛斐郡ふるさとの地名』
- 掛斐郡久瀬村 1973『久瀬村史』
- 大岡明臣 1982『閑ヶ原町遺跡調査報告』
- 大垣市 2013『大垣市史』通史編 自然・原理～近世
- 大垣市 1968『新修大垣市史』通史編一
- 大垣市 1977『大垣市史』青墓編
- 大垣市 1990『大垣市遺跡詳細分布調査概要報告書』(II)
- 大垣市 1997『大垣市遺跡詳細分布調査報告書』一解説編一
- 大垣市 2013『大垣市史』通史編 自然・原理～近世
- 大垣市上石津文化財保護協会 2010『かみいしづの地名』
- 大垣市教育委員会 2005『史跡美濃国分寺跡』
- 大垣市教育委員会 2005『美濃国分寺跡—国分寺遺跡（伽藍南面隣接地の調査）一』
- 大垣市役所 1930『大垣市史』中巻
- 大野町教育委員会 2009『大野町遺跡詳細分布調査報告書』資料（考古）編
- 大牧治子 1985『地域研究 漆原村』『美濃徳山村通信』
- 小川榮一 1940「宮廬寺跡」『岐阜県史蹟・名勝・天然紀念物調査報告書』第9輯、岐阜県
- 海津町 1984『海津町史』通史編下巻
- 上石津町役場 1975『上石津町史』史料編
- 上石津町役場 1979『上石津町史』通史編
- 上石津町教育委員会 2004『新修 上石津町史』
- 上石津町教育委員会 1990『史料にみる上石津のあゆみ』
- 春日村史編纂委員会 1983『春日村史』上巻、春日村
- 春日村史編纂委員会 1983『春日村史』下巻、春日村
- 川並秀賢（岐阜市日置江自治会連合会）2006『日置江の歴史』
- 岐阜県 1971『岐阜県史』通史編古代
- 岐阜県掛斐郡大野町 1985『大野町史』通史編

- 岐阜県揖斐郡西郡村志編纂委員会 1957『西郡村志』
- 岐阜県海津郡教育振興会 1978『新郷土海津』
- 岐阜県海津郡平田町役場 1964『平田町史』上巻
- 岐阜県海津郡平田町役場 1964『平田町史』下巻
- 岐阜県海津郡南濃町 1982『南濃町史』通史編
- 岐阜県海津郡役所 1923『海津郡要覽』
- 岐阜県教育委員会 1957『岐阜県指定文化財調査報告書』第一巻
- 岐阜県教育委員会 1971『岐阜県文化財調査報告書』第14巻
- 岐阜県教育委員会 1985『揖斐川上流域徳山ダム・杉原ダム水没地区埋蔵文化財分布調査報告書』
- 岐阜県教育委員会 1998『岐阜県文化財図録』
- 岐阜県教育委員会・垂井町教育委員会 1973『宮代廃寺跡発掘調査報告書』
- 岐阜県郷土資料研究協議会 2006『廃寺名簿〔明治十一年七月抄録〕』
- 岐阜県総務国際課 1992『岐阜県宗教法人名簿』
- 岐阜県地方改良協会養老郡支会 1925『養老郡志』
- 岐阜県地方改良協会養老郡支会 1970『養老郡志』、岐阜日日新聞社・県郷土資料刊行会
- 岐阜県仏教会 2001『寺院名鑑』
- 岐阜県仏教連合会 1957『岐阜県寺院名鑑』
- 岐阜県文化財保護センター2000『南高野古墳・二ノ井遺跡・市場遺跡』
- 岐阜県文化財保護センター2021『国分寺遺跡』
- 岐阜県養老郡養老町 1978『養老町史』通史編上巻
- 岐阜県養老郡養老町 1978『養老町史』通史編下巻
- 郷土史研究会 1960「敷原を語る座談会」
- 久保田萬歩 1979『義基村』ふるさとシリーズII
- 神戸町 1980『郷土の歴史ごうど』
- 神戸町 1969『神戸町史』
- 神戸町教育委員会 1993『神戸町の文化財』
- 財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『寺平遺跡』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター1994『合本 寺屋敷調査だより No. 1~18』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター1998『上原遺跡I』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2000『上原遺跡II』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2000『高畠遺跡』
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2001『寺屋敷遺跡・磯谷口遺跡』
- 財団法人岐阜県教育文化財団 2003『寺平遺跡』
- 坂内村教育委員会 1988『坂内村誌』民俗編、坂内村
- 敷原村 1980『愛そう敷原』
- 須田勉 2001「ここまでわかってきた国分寺」『～千年の時流れて～遠江国分寺発掘50周年記念シンポジウム資料集』磐田市・磐田市教育委員会

- 墨俣町史編纂委員会 1956『墨俣町史』、墨俣町
- すのまたのあゆみ編集委員会 1982『すのまたのあゆみ』墨俣町教育委員会
- 閑ヶ原町 1990『閑ヶ原町史』通史編上巻
- 閑ヶ原町 1993『閑ヶ原町史』通史編別巻
- 閑ヶ原町 1984『閑ヶ原町史』史料編一
- 閑ヶ原町 1988『閑ヶ原町史』史料編二
- 閑ヶ原町 1988『閑ヶ原町史』史料編三
- 高田康成 2004『美濃国分尼寺の研究 その伽藍地の範囲について』『「かにかくに」八賀晋先生先生古稀記念論文集』、三星出版
- 高田裕治郎 1930『現在の大垣市誌』中央新聞社
- 竹内理三 1980『角川日本地名大辞典』(21 岐阜県) 株式会社角川書店
- 谷汲村 1977『谷汲村史』
- 垂井町 1996『新修垂井町史』通史編
- 垂井町教育委員会 1984『垂井のむかし話』
- 垂井町教育委員会 1973『史跡宮代廃寺跡発掘調査報告』
- 垂井町教育委員会 2010『美濃国分尼寺跡発掘調査報告』
- 垂井町教育委員会タリイビアセンター 2017『垂井町遺跡詳細分布調査報告書(1)』
- 垂井町史編さん委員会 1969『垂井町史』通史編、岐阜県不破郡垂井町役場
- 土山公仁 1992『宮代寺跡』『第9回東海埋蔵文化財研究会岐阜大会資料集I「古代仏教東へ—寺と窯」・寺院』、東海埋蔵文化財研究会岐阜大会実行委員会
- 土山公仁 1992『美濃国分尼寺跡』『第9回東海埋蔵文化財研究会岐阜大会資料集I「古代仏教東へ—寺と窯」・寺院』、東海埋蔵文化財研究会岐阜大会実行委員会
- 土山公仁 1992『宮代廃寺』『第9回東海埋蔵文化財研究会岐阜大会資料集I「古代仏教東へ—寺と窯」・寺院』、東海埋蔵文化財研究会岐阜大会実行委員会
- 土山公仁 1997『14宮代寺跡』『第42回埋蔵文化財研究集会 古代寺院の出現とその背景』、埋蔵文化財研究集会第42回研究集会実行委員会
- 坪井富美子 1974『ふるさと今須』、今須小学校開校百年記念事業委員会
- 富永樹之 2006『東国の「村落内寺院」の諸問題—千葉県以外を主体として—』『在地社会と仏教』、独立行政法人国立文化財機奈良文化財研究所編
- 徳山村の歴史を語る会 1984『徳山村のあけぼのを求めて』
- 徳山村史編集委員会 1973『徳山村史』、徳山村
- 徳山村史編纂委員会 1986『徳山村史』、岐阜県揖斐郡徳山村役場
- 中西淳一 1931『時村史』
- 海津町 1984『海津町史』通史編下巻
- 林周教 1961『岐阜県真宗史』、美濃文化研究所
- 林誠一 1983『仁坂村の姿』
- 平井政夫 1964『郷土誌たにぐみ』、谷汲村役場

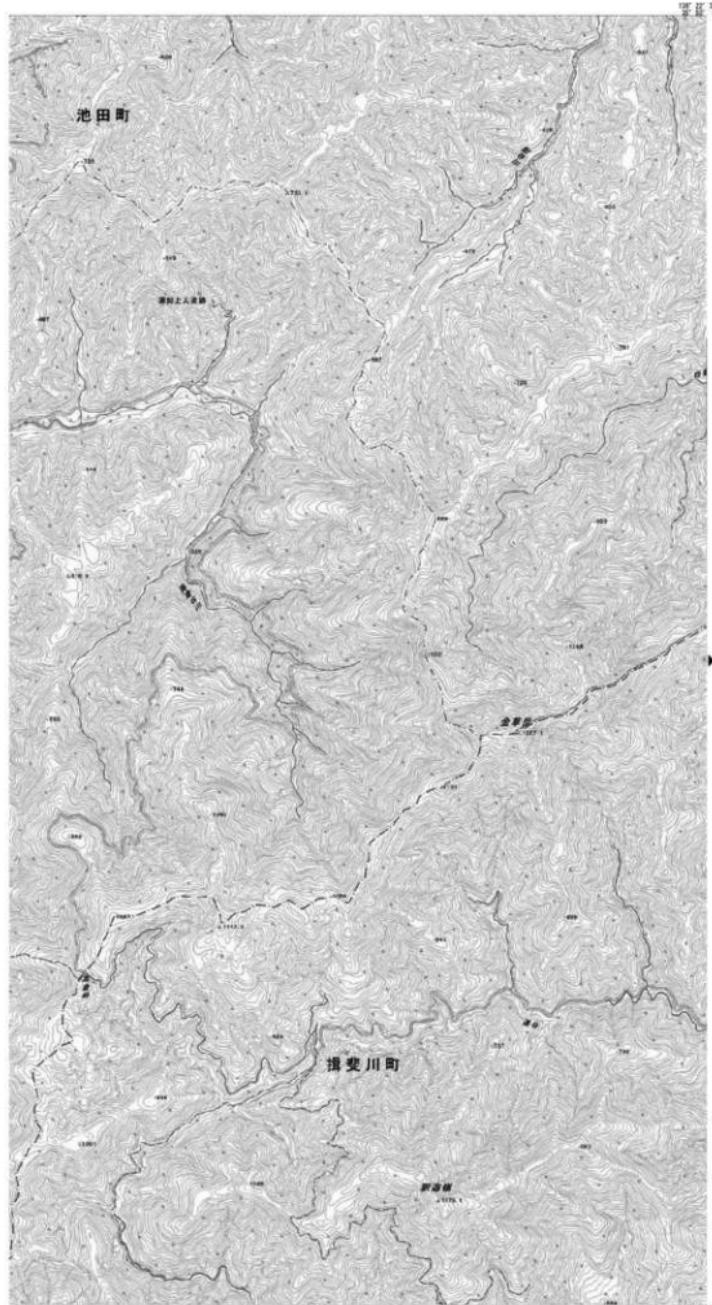
- 藤橋村編集委員会 1982『藤橋村史』上巻、藤橋村
- 不破郡教育會 1926『不破郡史』上巻
- 不破郡教育會 1927『不破郡史』下巻
- 細川道夫 2000『岐阜県大垣市外渕町史』、碧還寺
- 松浪久哉 1992『曾根町百年史』
- 水資源開発公團・財團法人岐阜県文化財保護センター 1994『長吉遺跡・普賢寺跡』（徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査報告書第5集）
- 道下淳他 1987『岐阜県百寺』、郷土出版社
- 名城大学理工学部住宅研究会古建築班 1971『南宮神社建造物総合調査報告書』第1部
- 安福彦七 1976『栗原山九十九坊 象鼻山別所寺の歴史を尋ねて』
- 養老町教育委員会 2007『養老町遺跡詳細分布調査報告書』
- 横山文四郎 1968『長瀬誌』、谷汲村長瀬財産区
- 米山清一 1992『墨俣歴史探訪』補足再版号
- 輪之内学研究会 2015『輪之内学研究』第4号
- 輪之内町史編纂委員会 1981『輪之内町史』

第 4 節 寺 院 分 布 図

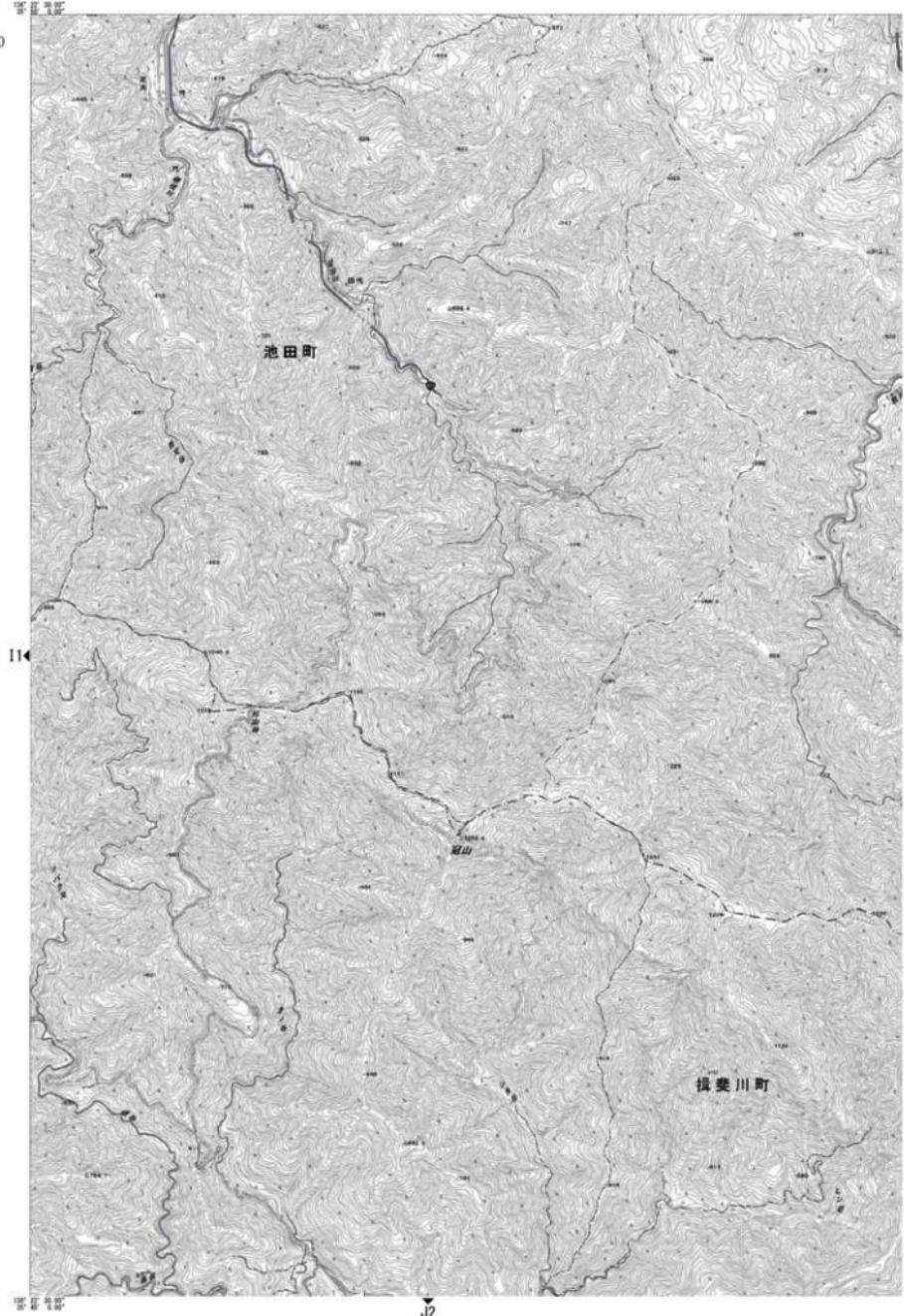


I1 古木

169



I1 古木	I2 冠山	
J1 広野	J2 美濃徳山	



12 冠山

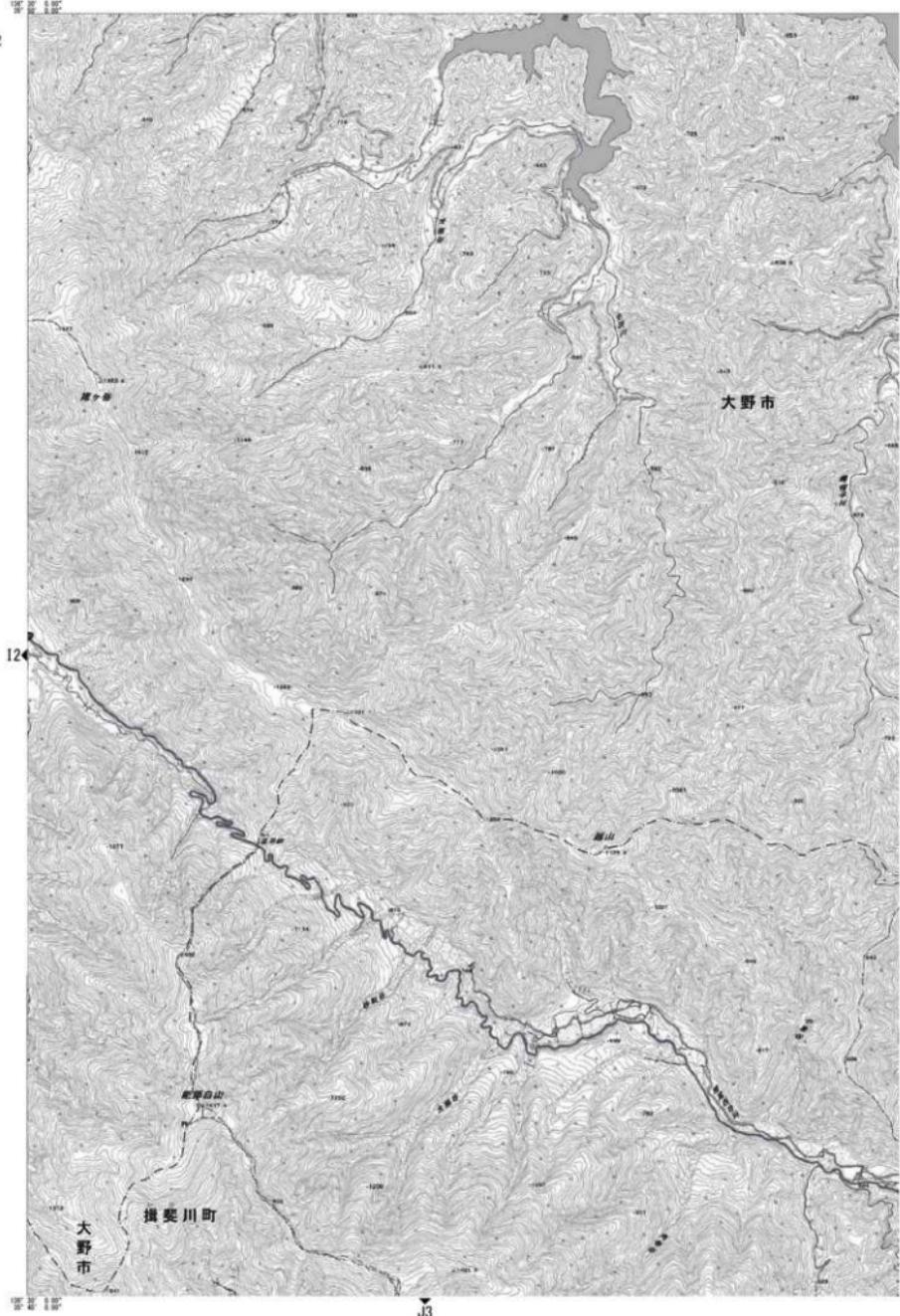
171

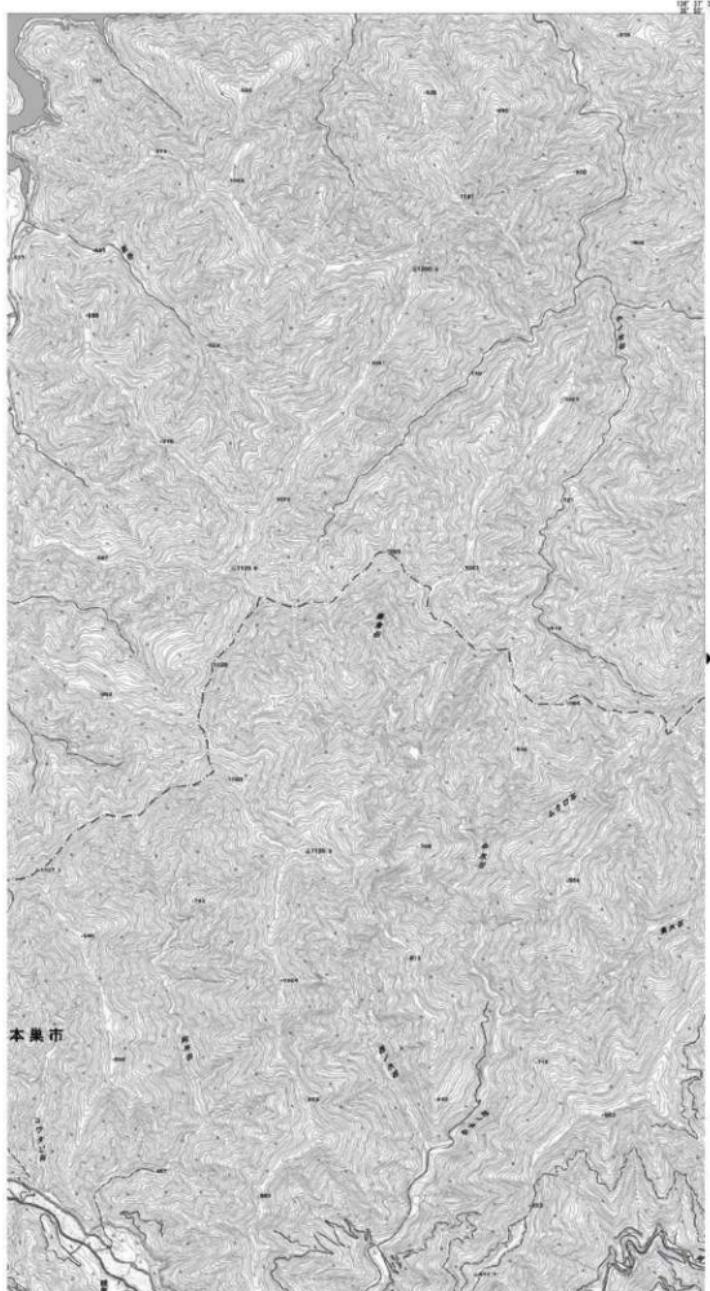
大野市

13

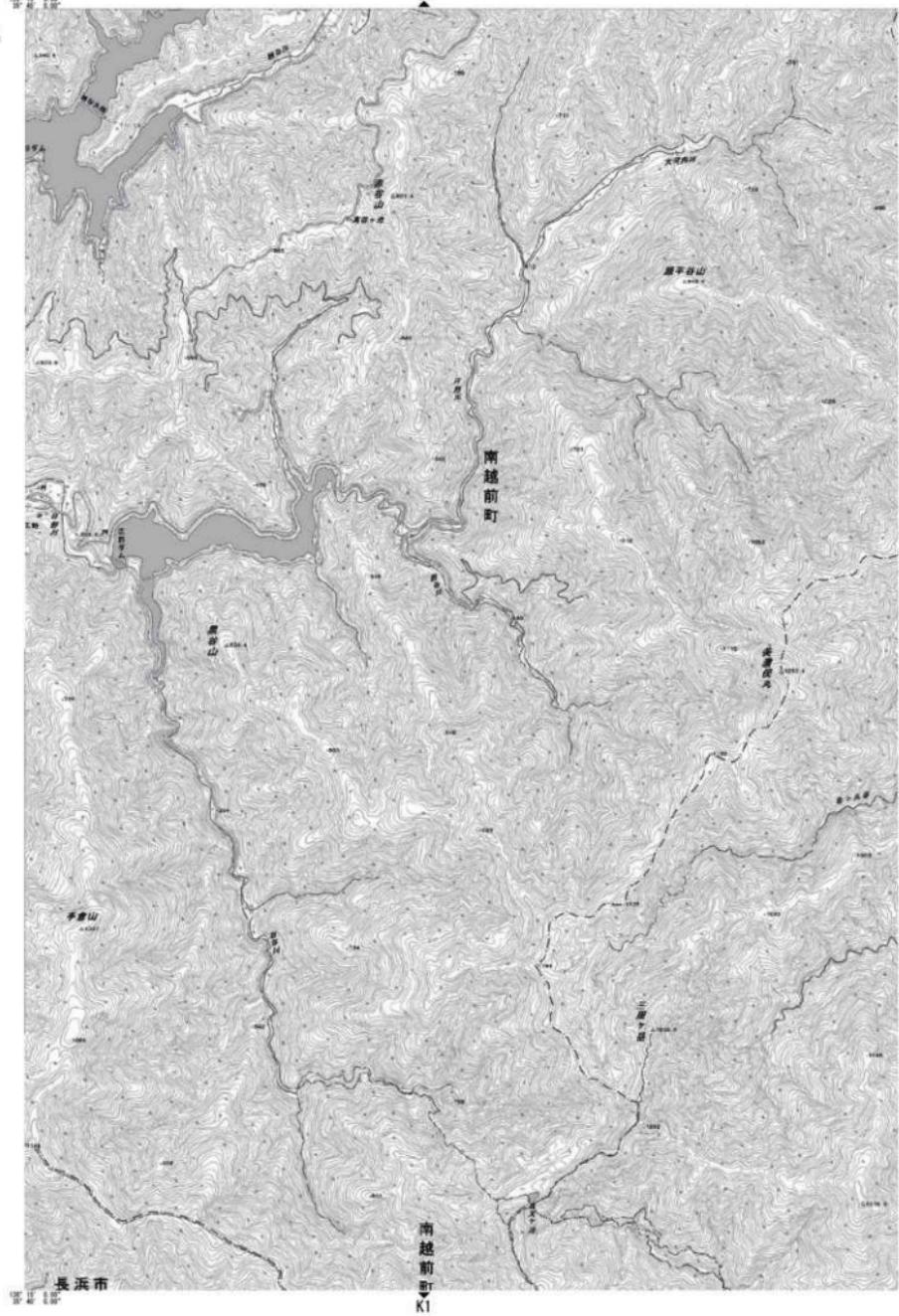
J2

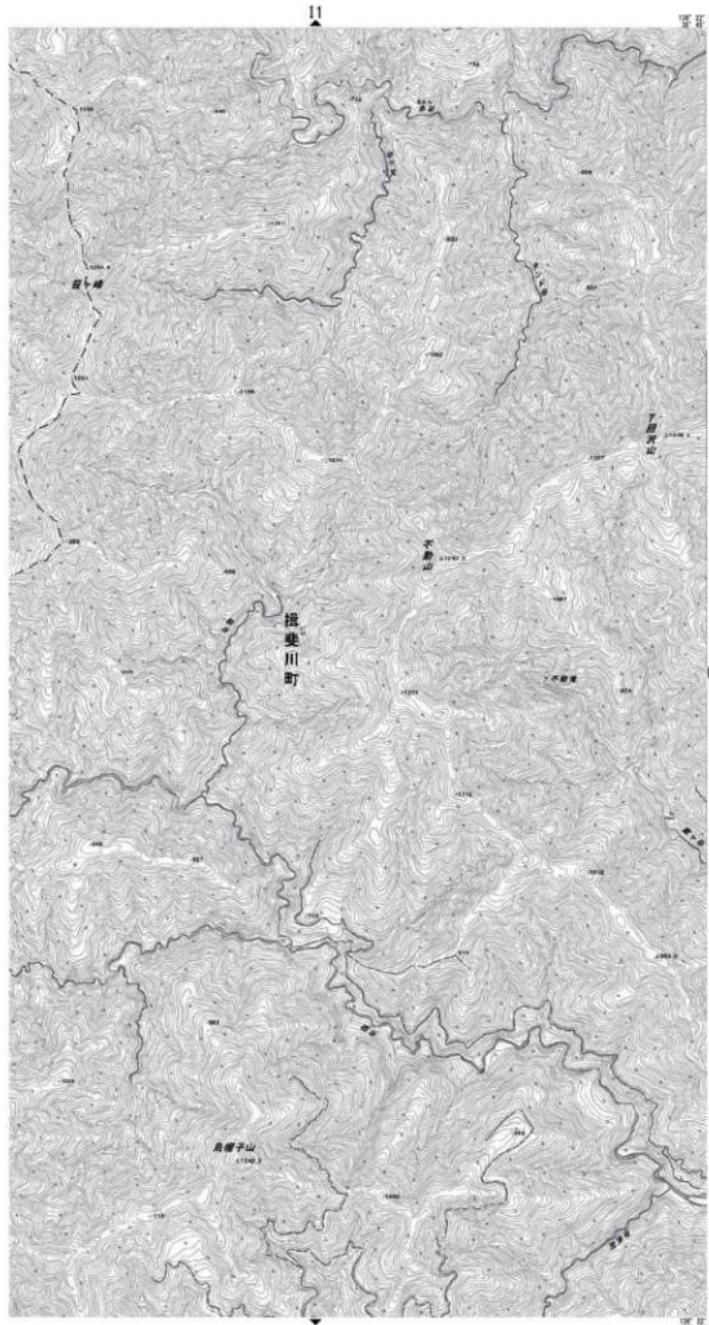
I1 古木	I2 冠山	I3 能郷白山
J1 広野	J2 美濃徳山	J3 能郷





12 冠山	13 能郷白山	14 平家岳
J2 美濃徳山	J3 能郷	J4 下大須





J1 広野

175

	J1 古木	J2 冠山
	J1 広野	J2 美濃徳山
	K1 美濃川上	K2 美濃広瀬

KI



揖斐川町

- 18065b 増徳寺旧境内
30094 (普賢寺跡)
30095 (寺懸敷道路)
30096 (寺平道路)
30127 (上原道路)

30095 (寺懸敷道路)

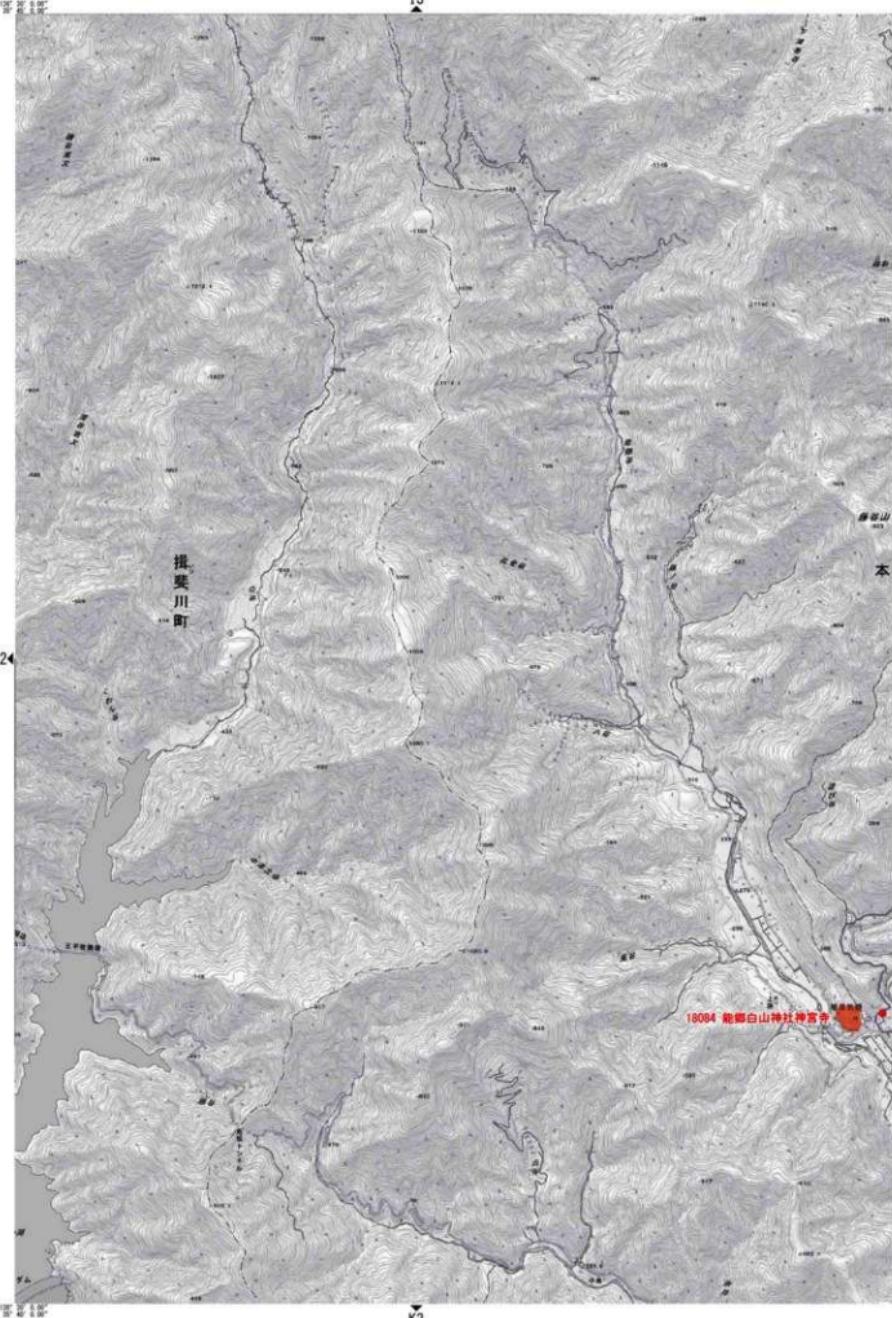
30127 (上原道路)

18065b 増徳寺旧境内

30094 (普賢寺跡)

J3

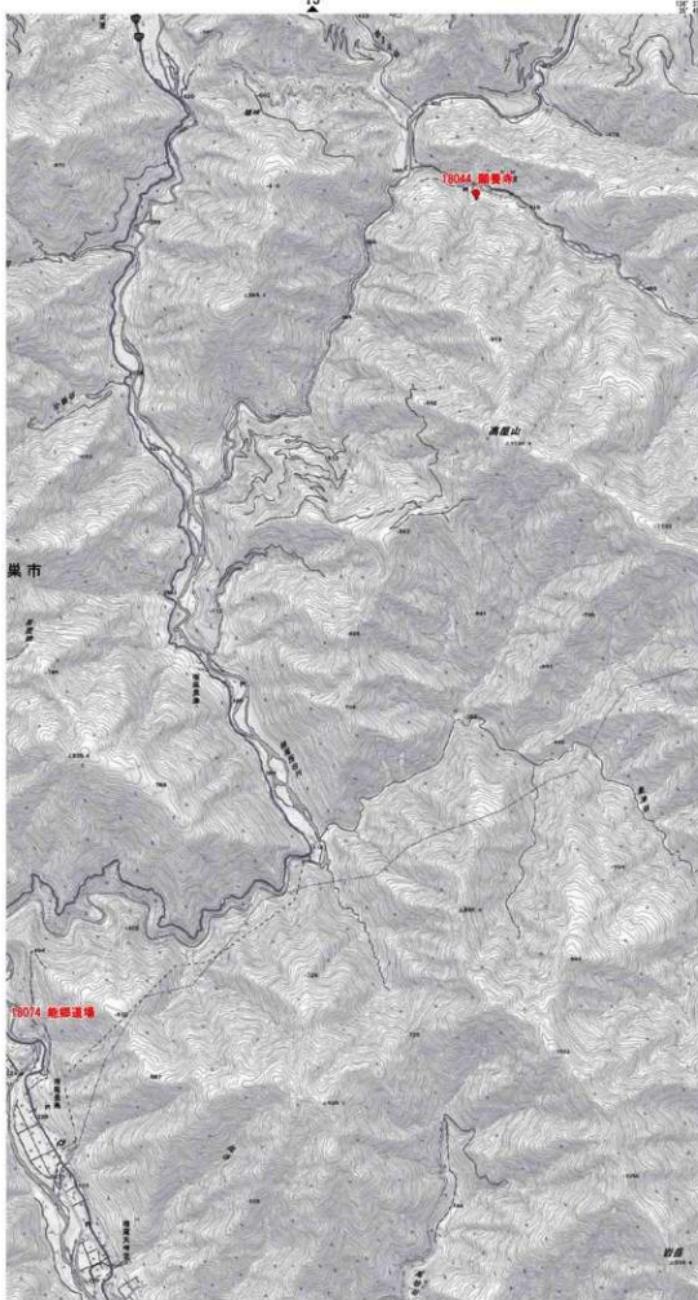
I1 古木	I2 冠山	I3 能郷白山
J1 広野	J2 美濃徳山	J3 能郷
K1 美濃川上	K2 美濃広瀬	K3 樽見



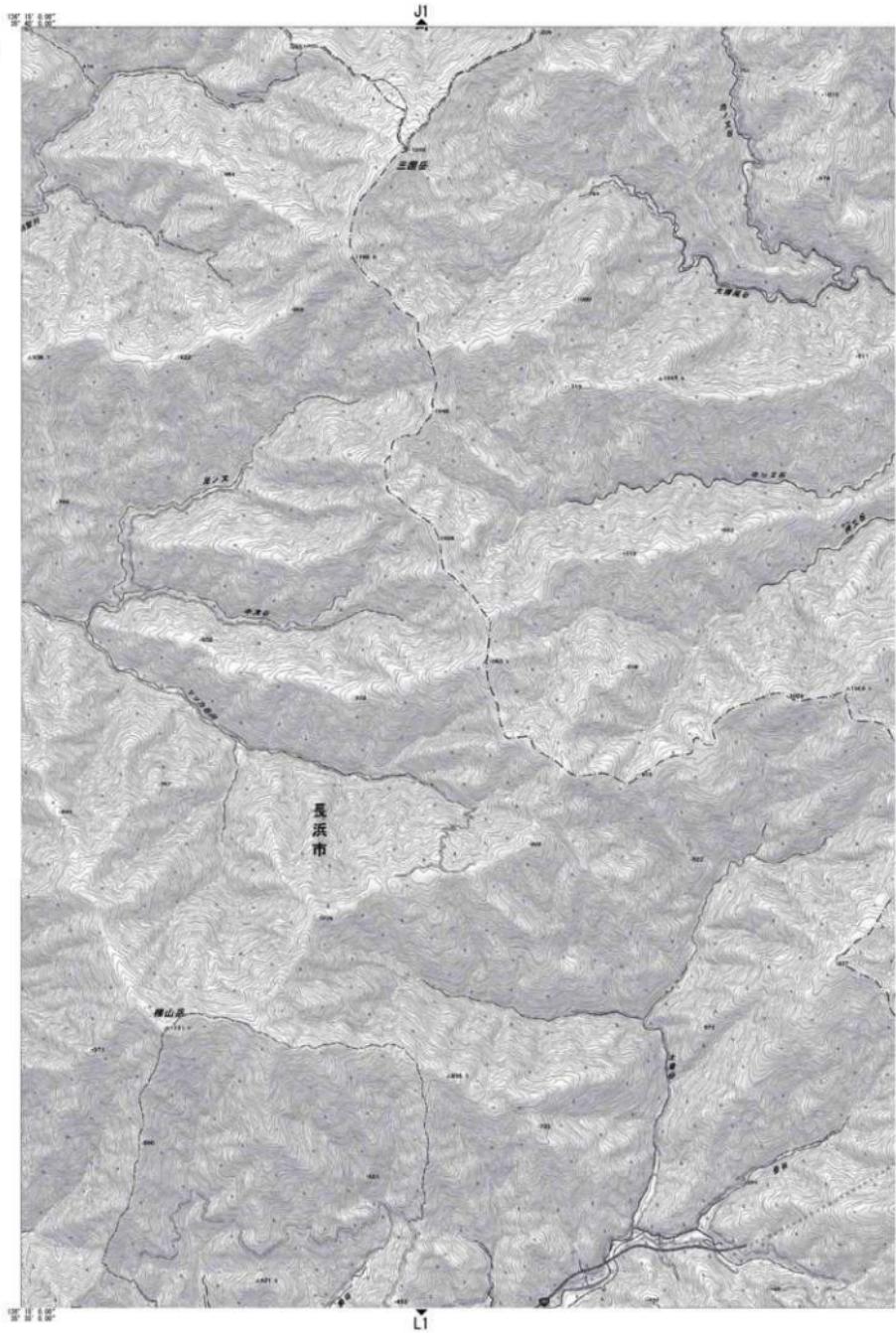
J3 能郷

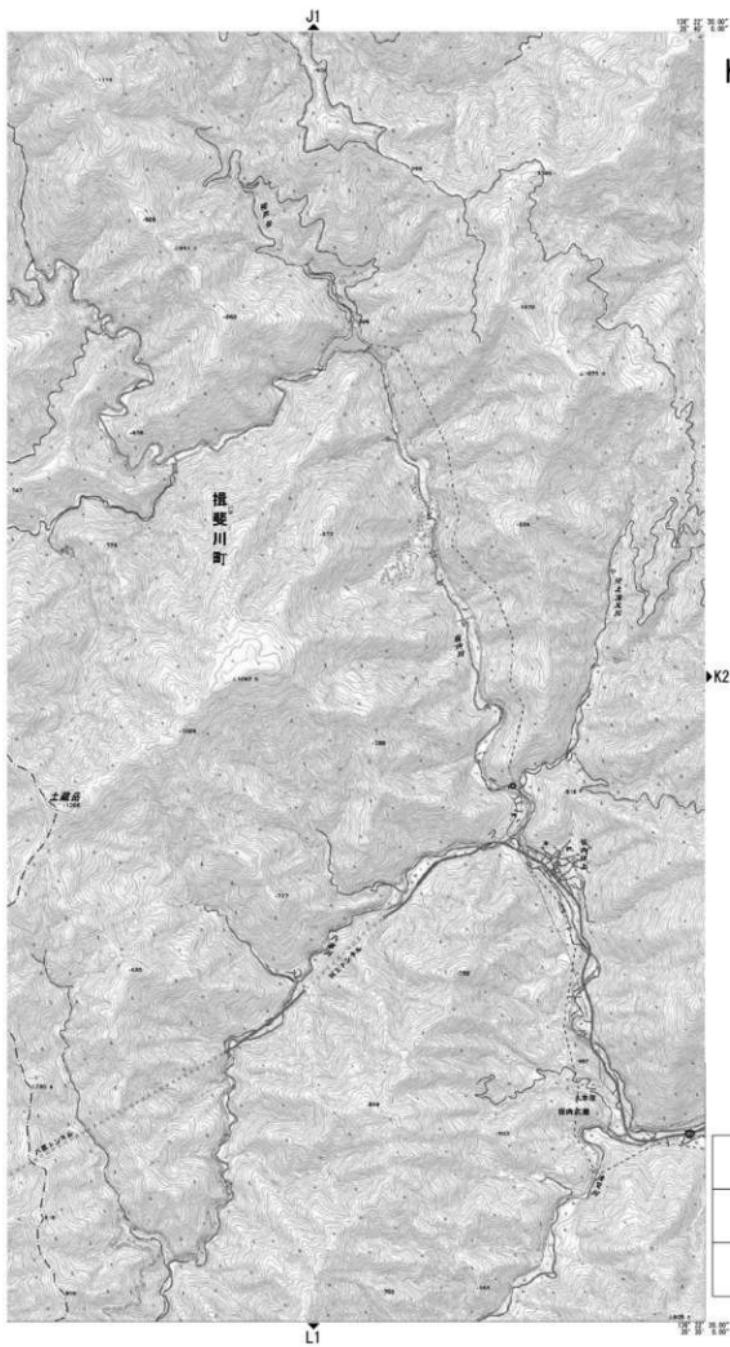
本巣市

18044 開善寺
18074 能郷道場
18084 能郷白山社神宮寺

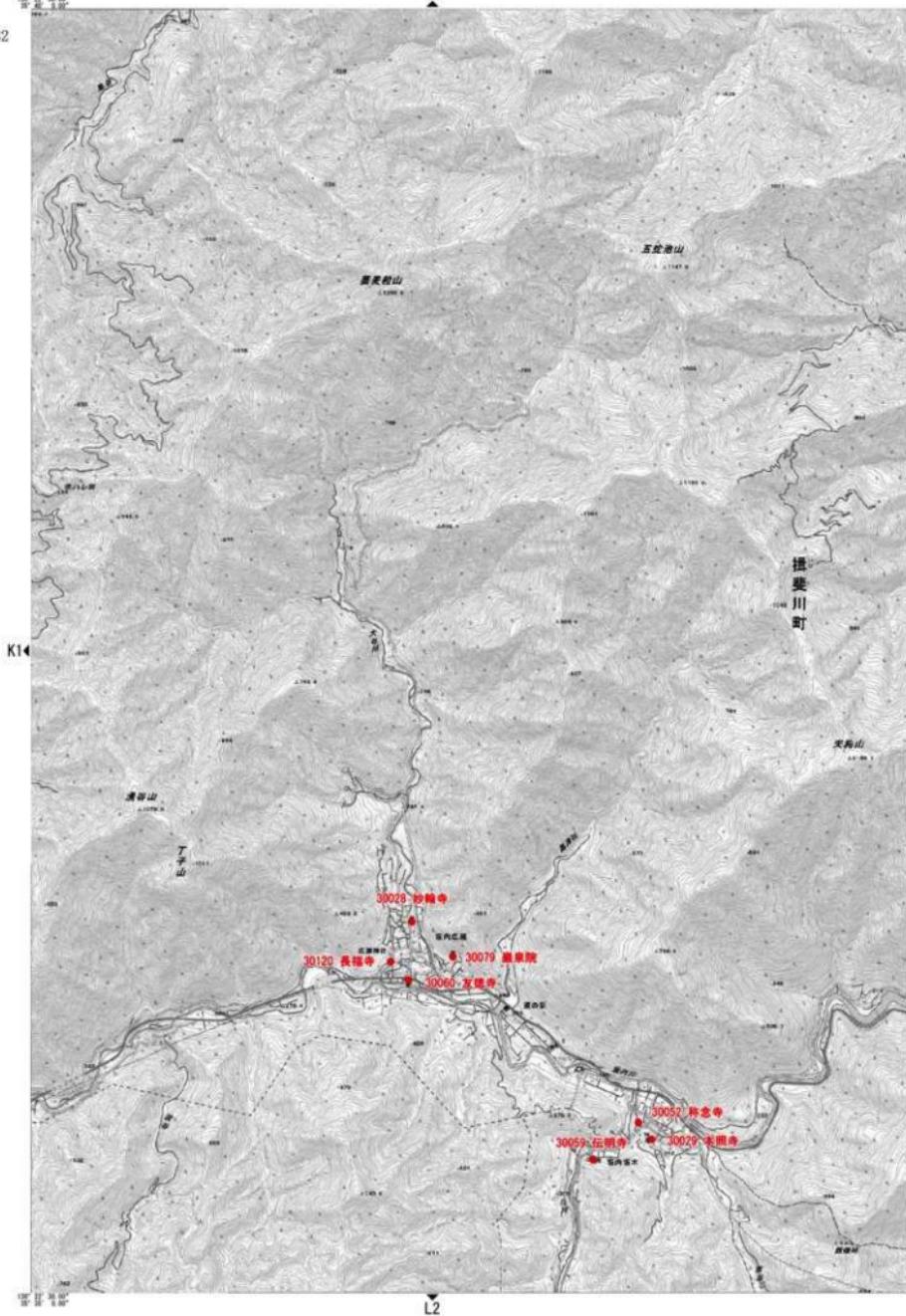


I2 冠山	I3 能郷白山	I4 平家岳
J2 美濃徳山	J3 能郷	J4 下大須
K2 美濃広瀬	K3 榛見	K4 谷合



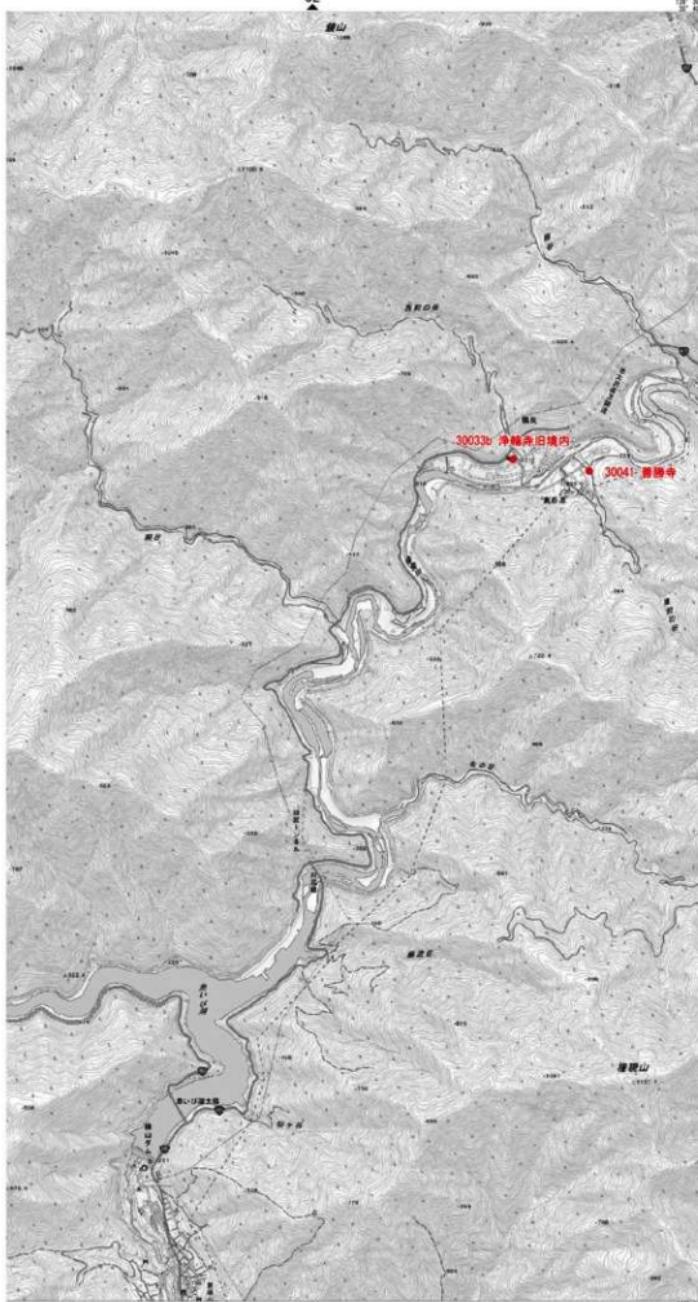


J1 広野	J2 美濃山
K1 美濃川上	K2 美濃広瀬
L1 近江川合	L2 横山



揖斐川町

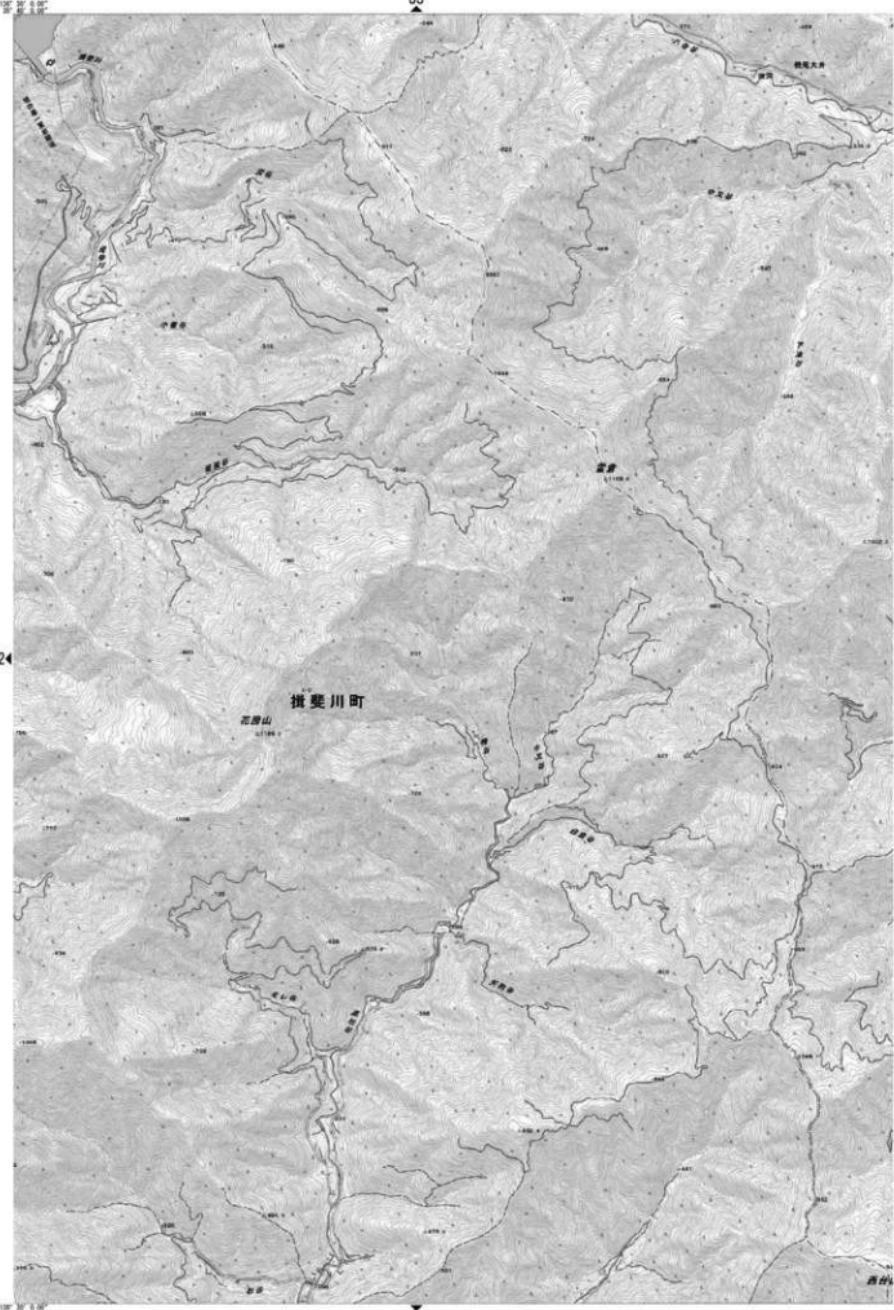
- 30028 沙輪寺
- 30029 本照寺
- 30033b 泽輪寺旧境内
- 30041 香勝寺
- 30052 称念寺
- 30059 伝明寺
- 30060 友徳寺
- 30079 藤泉院
- 30120 長福寺



J1 広野	J2 美濃庵山	J3 能郷
K1 美濃川上	K2 美濃広瀬	K3 樹見
L1 近江川合	L2 横山	L3 谷汲

184

J3



K24

L3

K3 樽見

本巣市

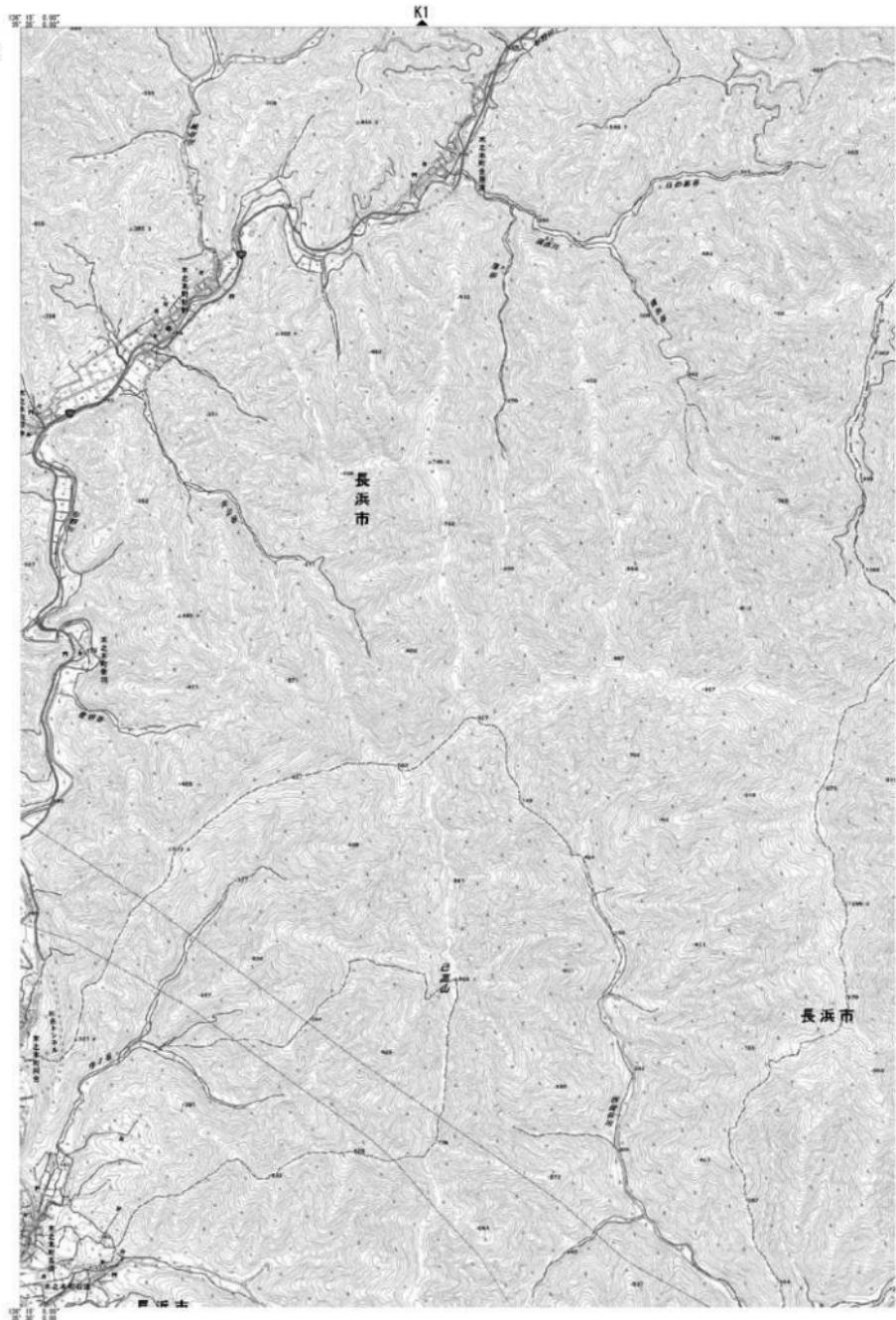
18032 西光寺
18043 審念寺
18085 (神所蓮華寺跡)

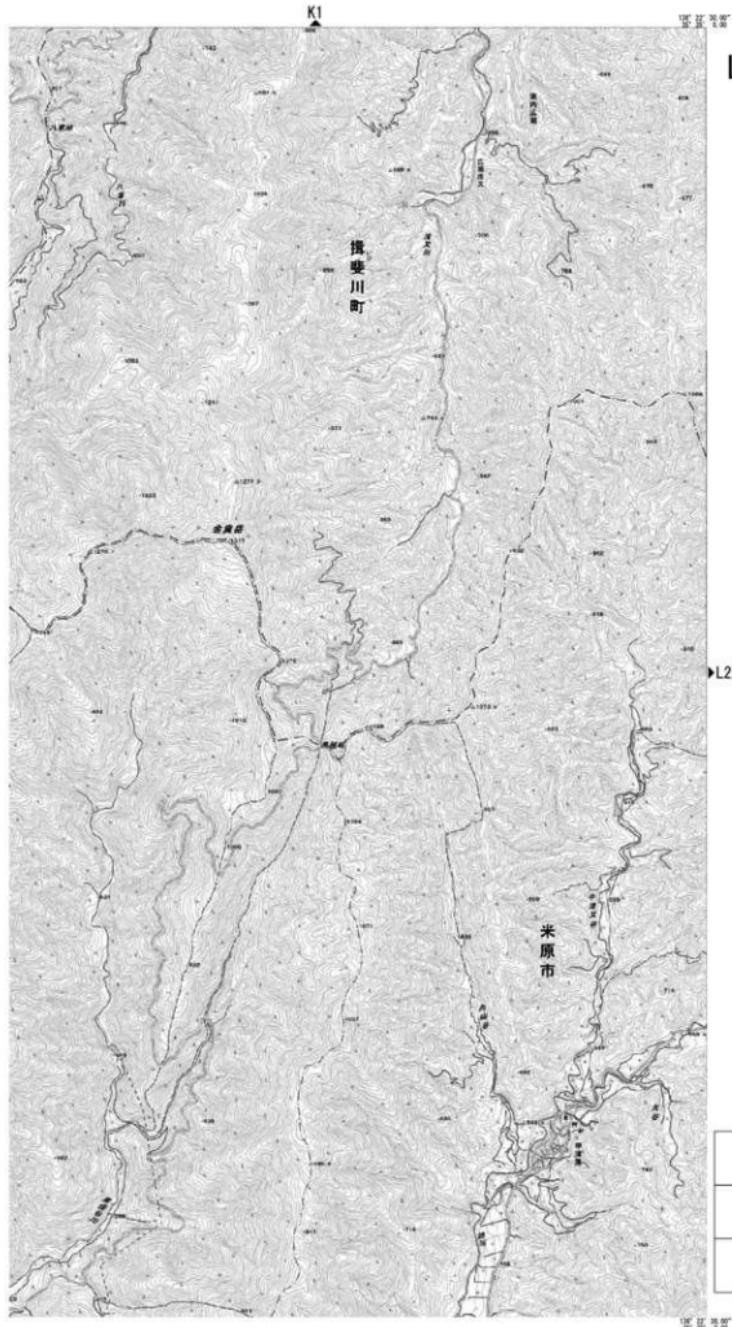
本巣市

K4

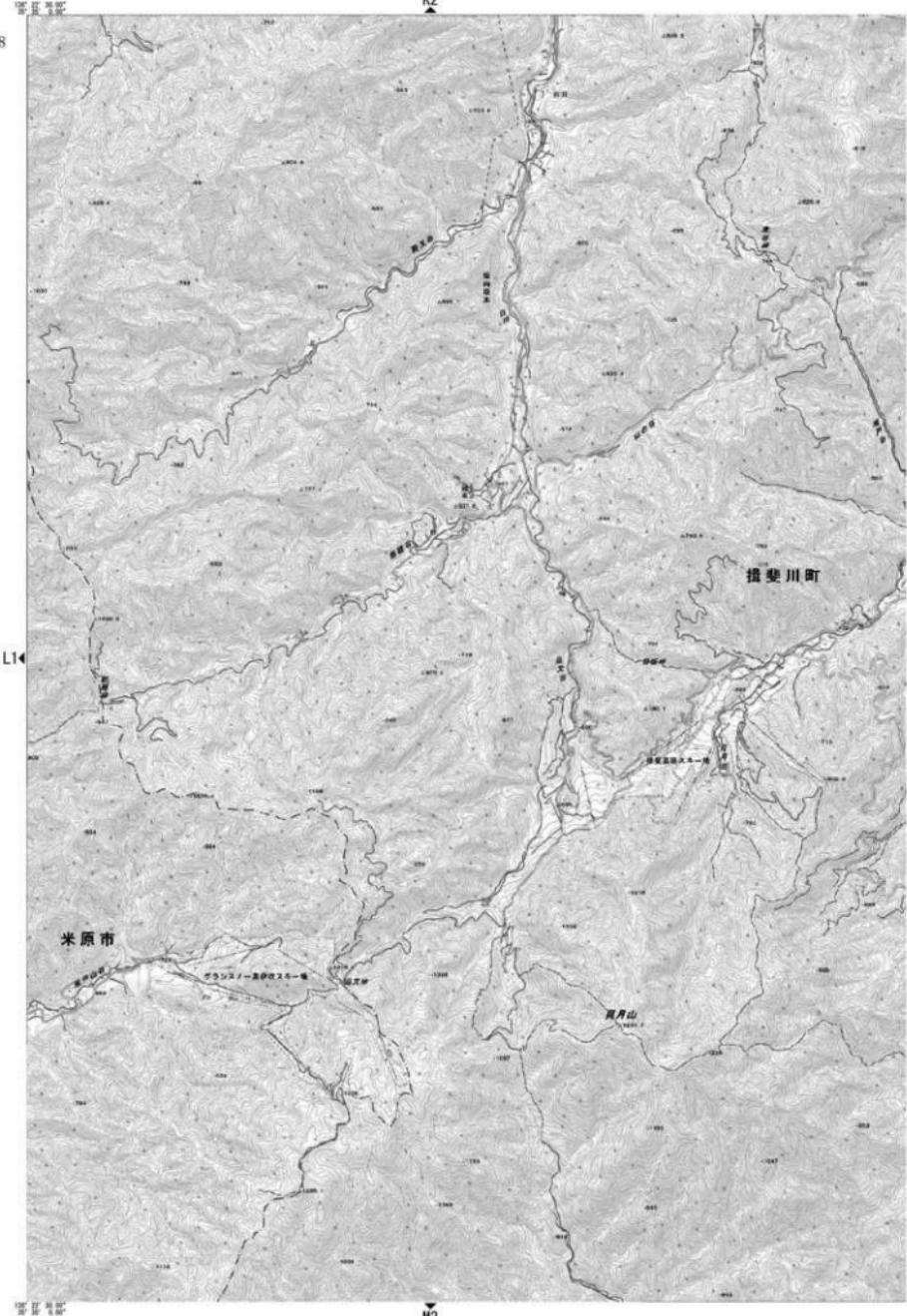
18032 西光寺

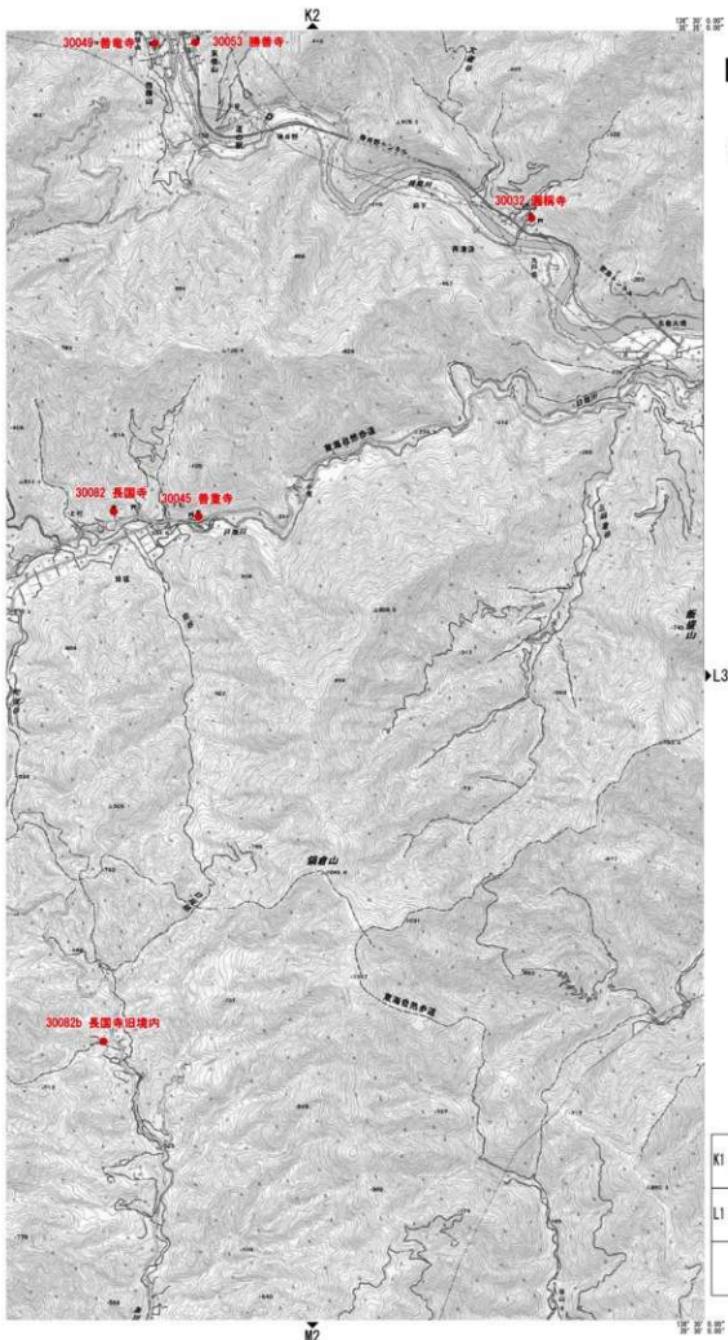
J2 美濃徳山	J3 能郷	J4 下大須
K2 美濃広瀬	K3 樽見	K4 谷合
L2 横山	L3 谷汲	L4 美濃神海





K1 美濃川上	K2 美濃広瀬
L1 近江川合	L2 横山
	M2 美東



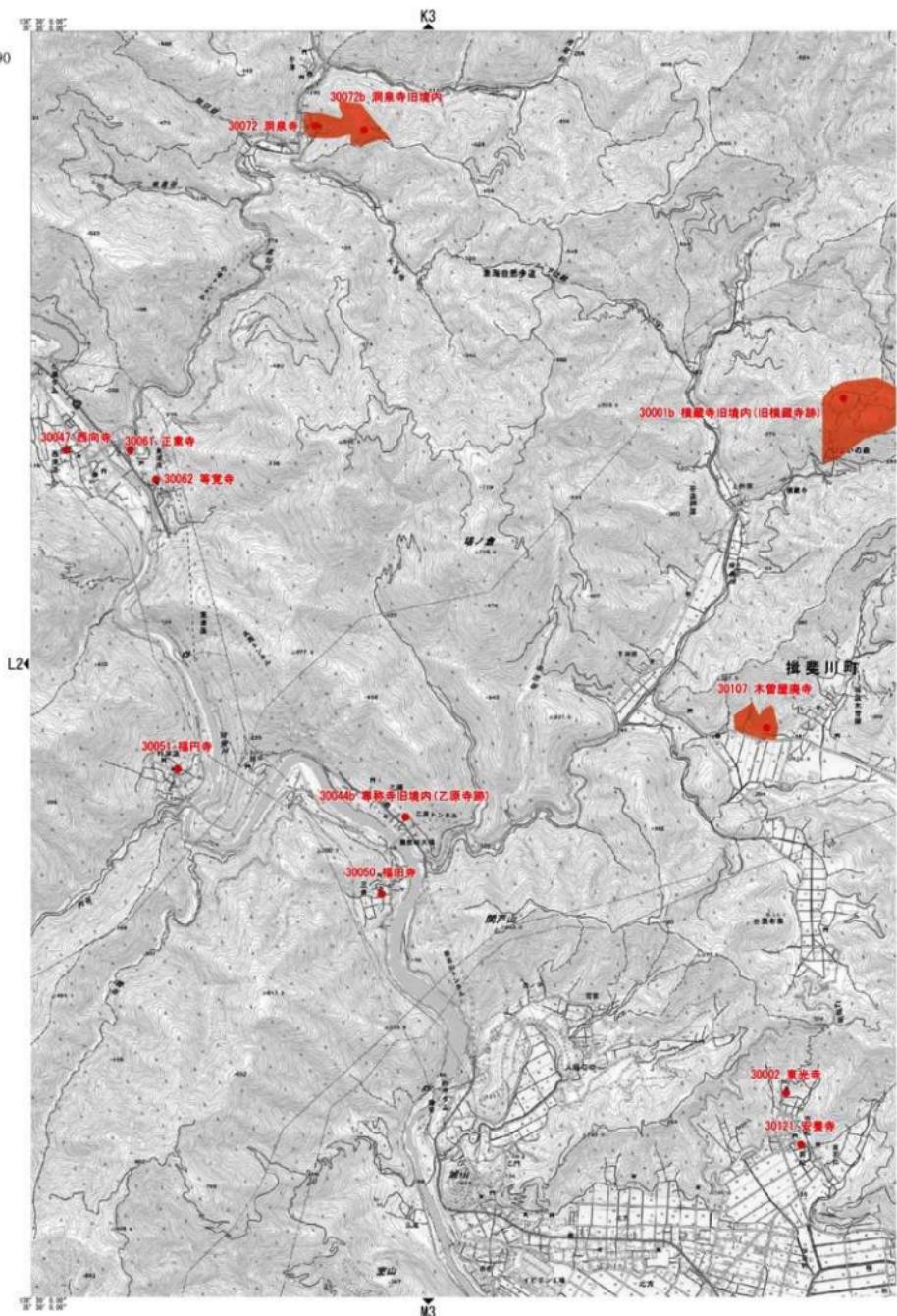


L2 橫山

揖斐川町

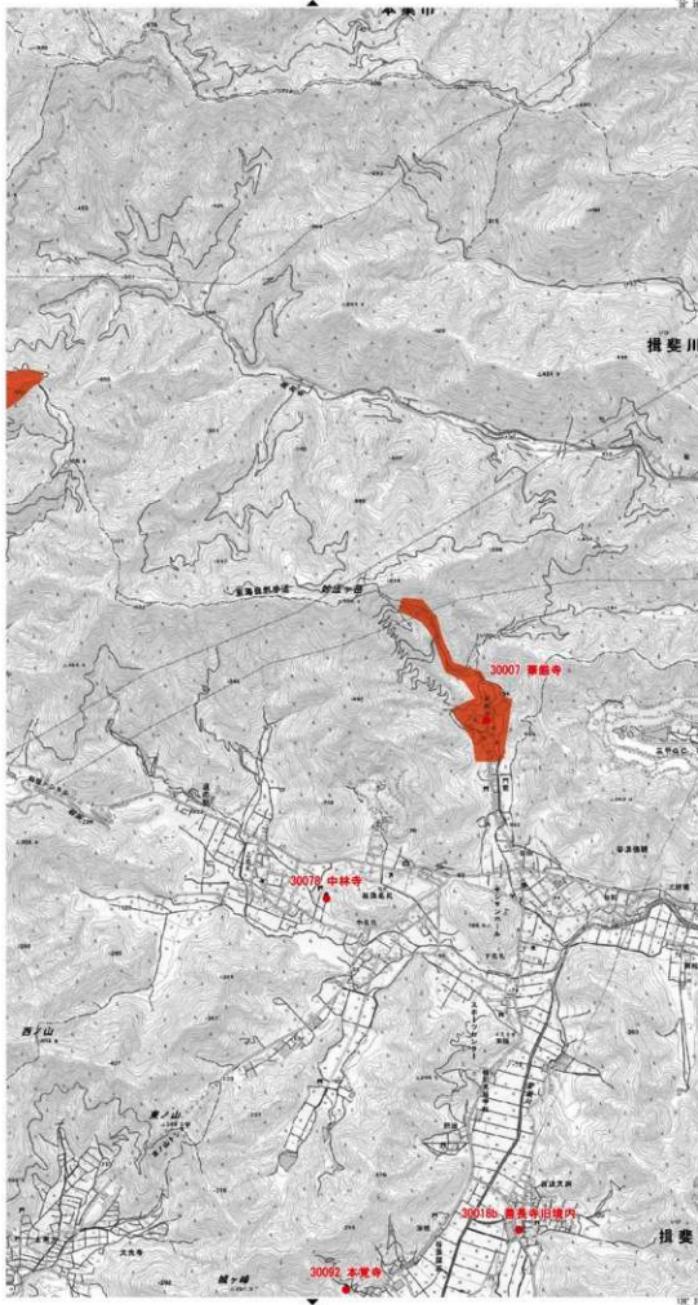
- 30032 聖福寺
 - 30045 善重寺
 - 30049 善巌寺
 - 30053 勝善寺
 - 30082 長國寺
 - 30082b 長國寺旧境内

K1 美濃川上	K2 美濃広瀬	K3 榛見
L1 近江川合	L2 横山	L3 谷汲
	M2 美東	M3 池野

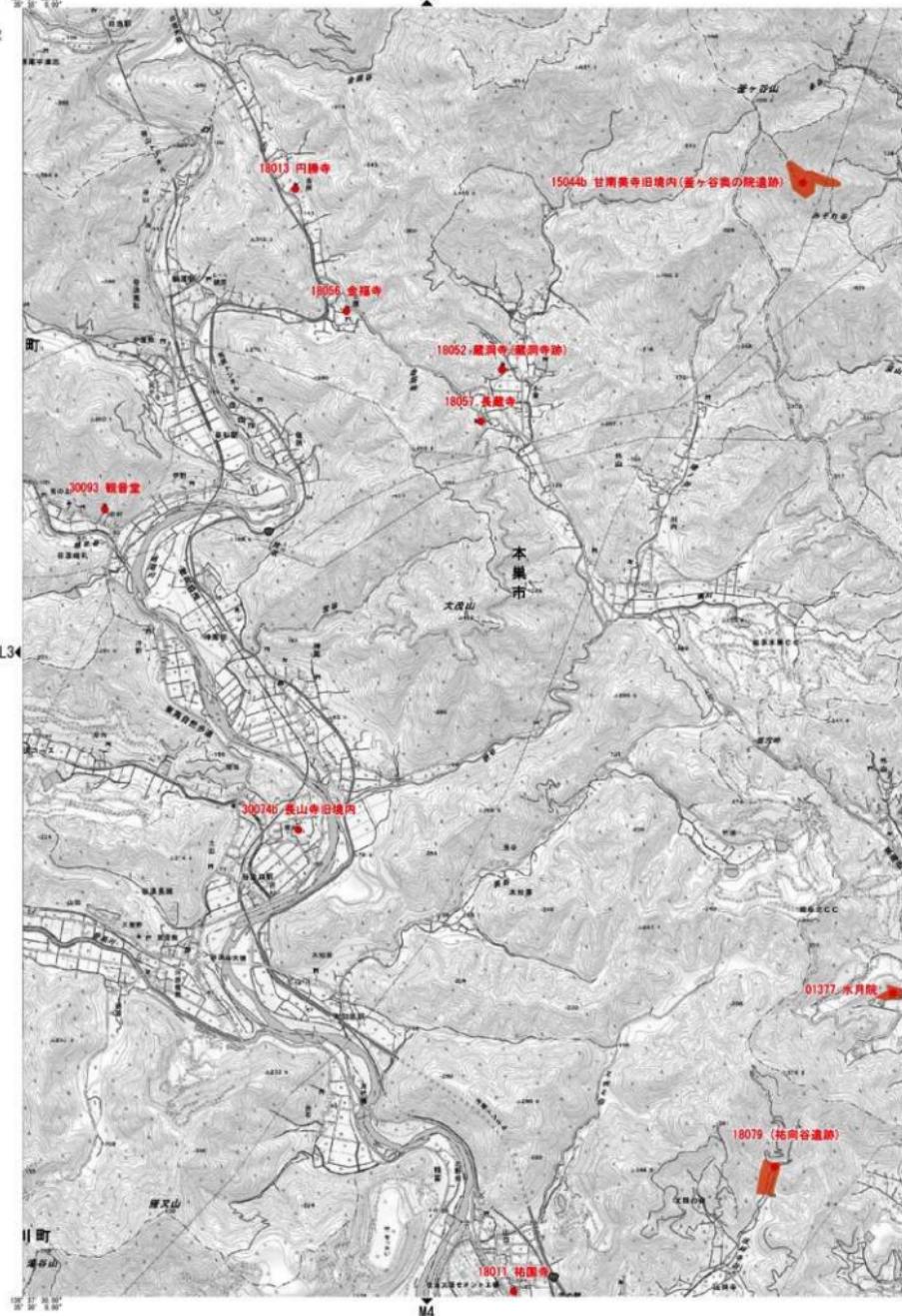


揖斐川町

- 30001b 横蔵寺旧境内(旧横蔵寺跡)
 30002 東光寺
 30007 菩薩寺
 30016b 香長寺旧境内
 30044b 尊勝寺旧境内(乙西寺跡)
 30047 西向寺
 30050 福田寺
 30051 福円寺
 30061 正業寺
 30062 等寛寺
 30072 清泉寺
 30072b 清良寺旧境内
 30076 中林寺
 30092 本覚寺
 30107 木曾屋廣寺
 30121 安養寺



K2 美濃広瀬	K3 榎見	K4 谷合
L2 横山	L3 谷汲	L4 美濃神海
M2 美東	M3 池野	M4 北方



L4 美濃神海 193

岐阜市

- 01218 安樂寺
01265b 阿弥陀寺旧境内
01377 本願院

山県市

- 15004b 三光院旧境内
15015 香教寺
15018 大性寺
15021 金延寺
15044 甘南美寺
15044b 甘南美院旧境内
(垂ヶ谷美院の廃道跡)
15045 番林寺
15048 道賀寺
15051 東光寺
15104 東禪寺
15114 明音寺

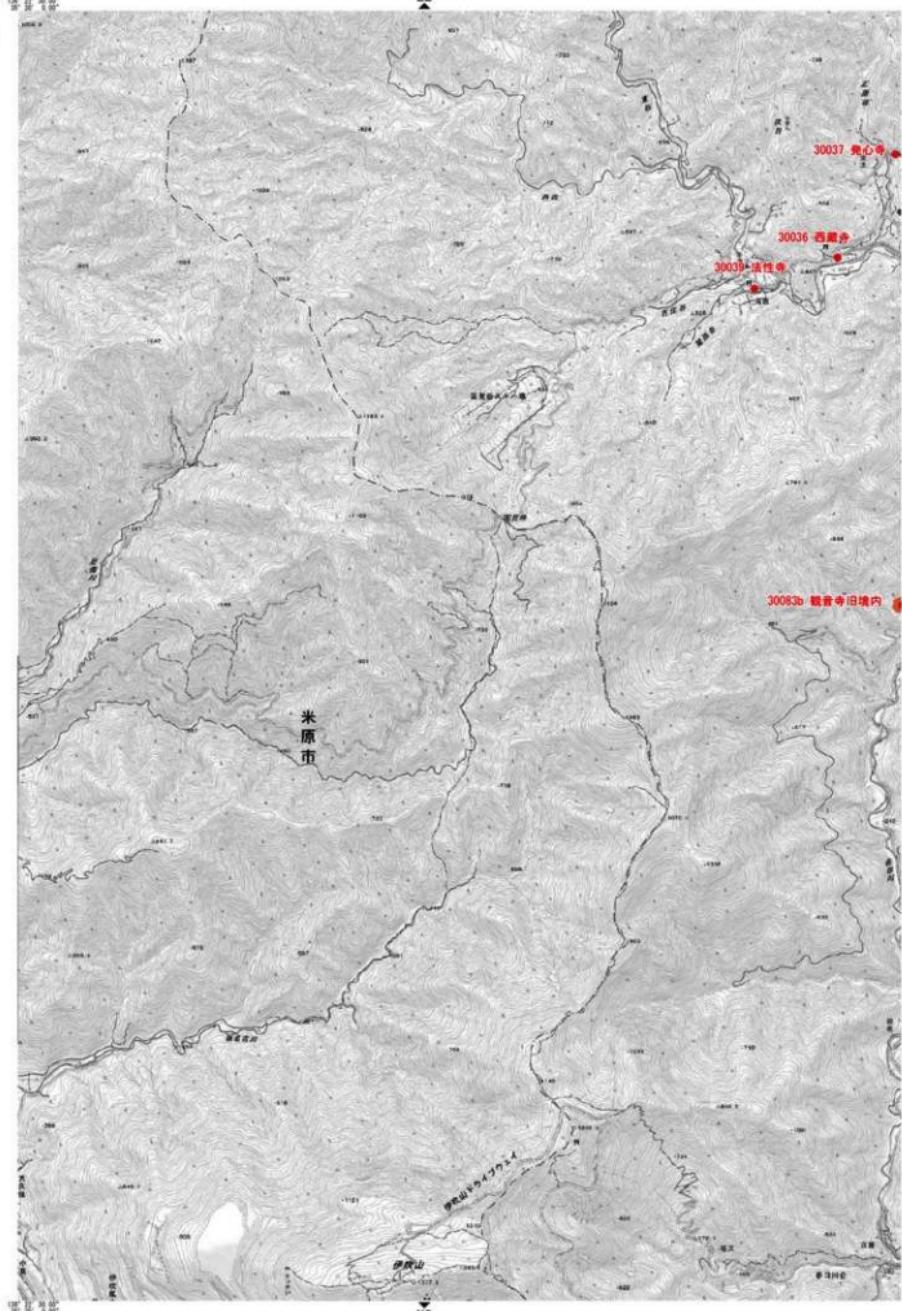
本巣市

- 18011 祐國寺
 - 18013 円勝寺
 - 18052 鹰洞寺（鷹洞寺跡）
 - 18056 金福寺
 - 18057 長慶寺
 - 18079（祐向谷遺跡）

揖斐川町

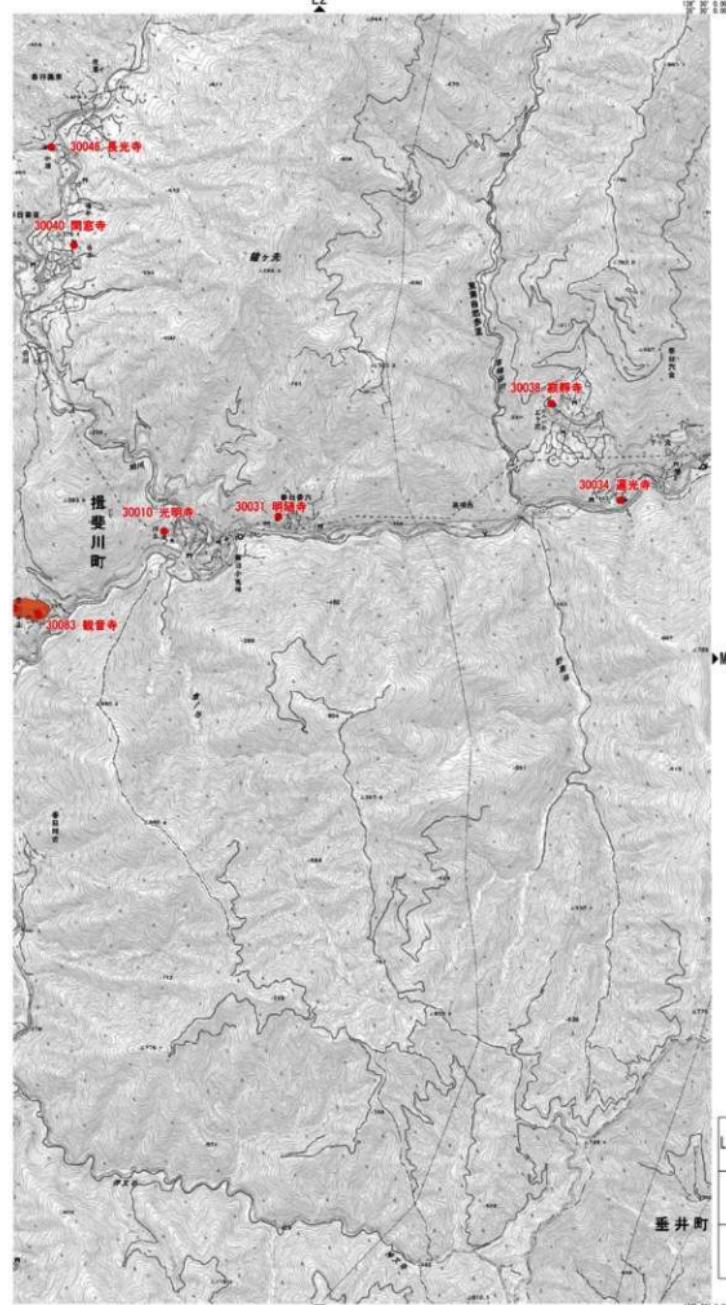
- 30074b 長山寺旧境内
- 30093 観音堂

K3 榛見	K4 谷合	K5 洞戸
L3 谷汲	L4 美濃神海	L5 岩佐
M3 池野	M4 北方	M5 岐阜北部



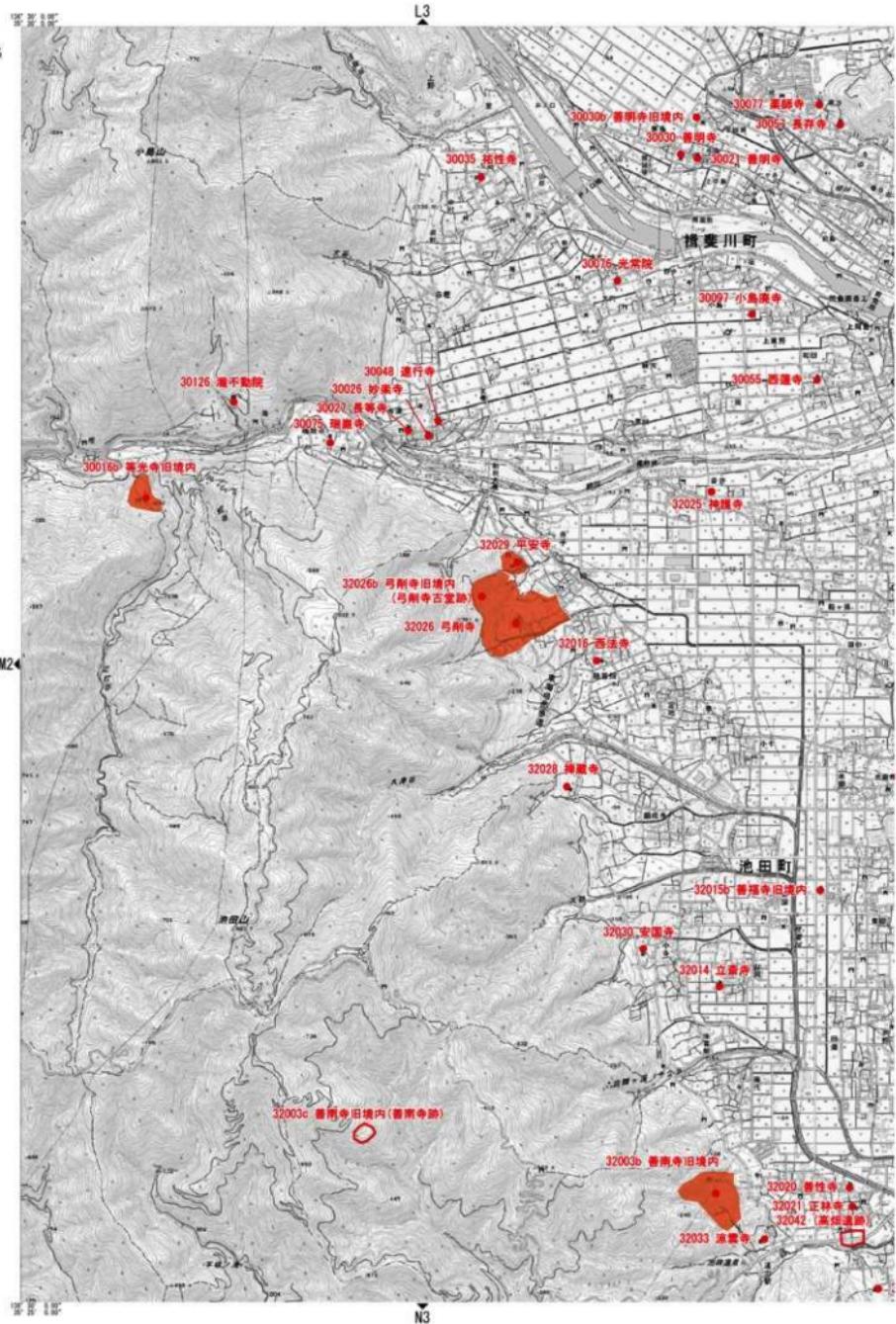
揖斐川町

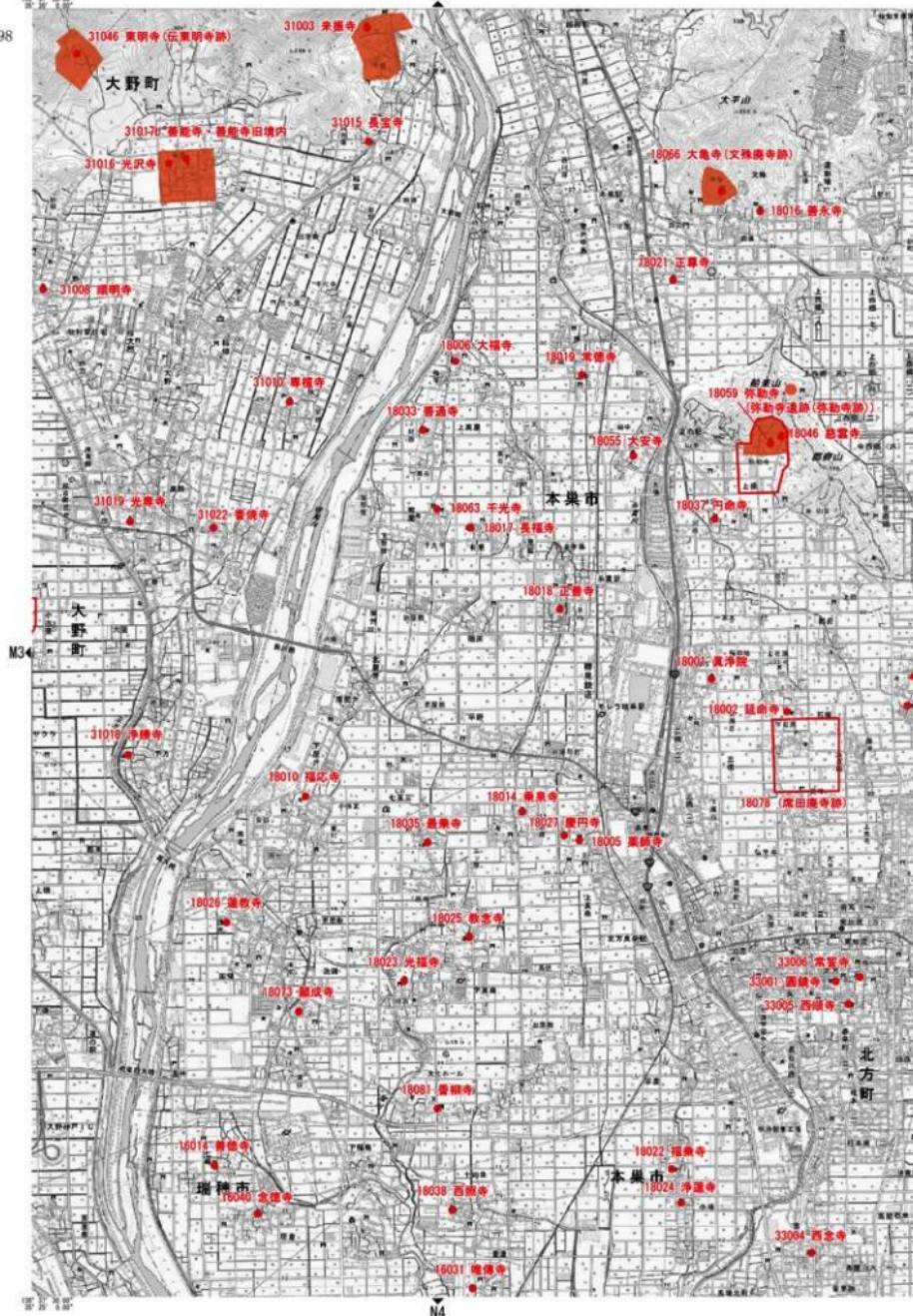
- 30010 光明寺
 30031 明隨寺
 30034 達光寺
 30036 西嚴寺
 30037 先心寺
 30038 家靜寺
 30039 法性寺
 30040 関慈寺
 30046 長光寺
 30083 駍音寺
 30083a 駍音寺旧境内

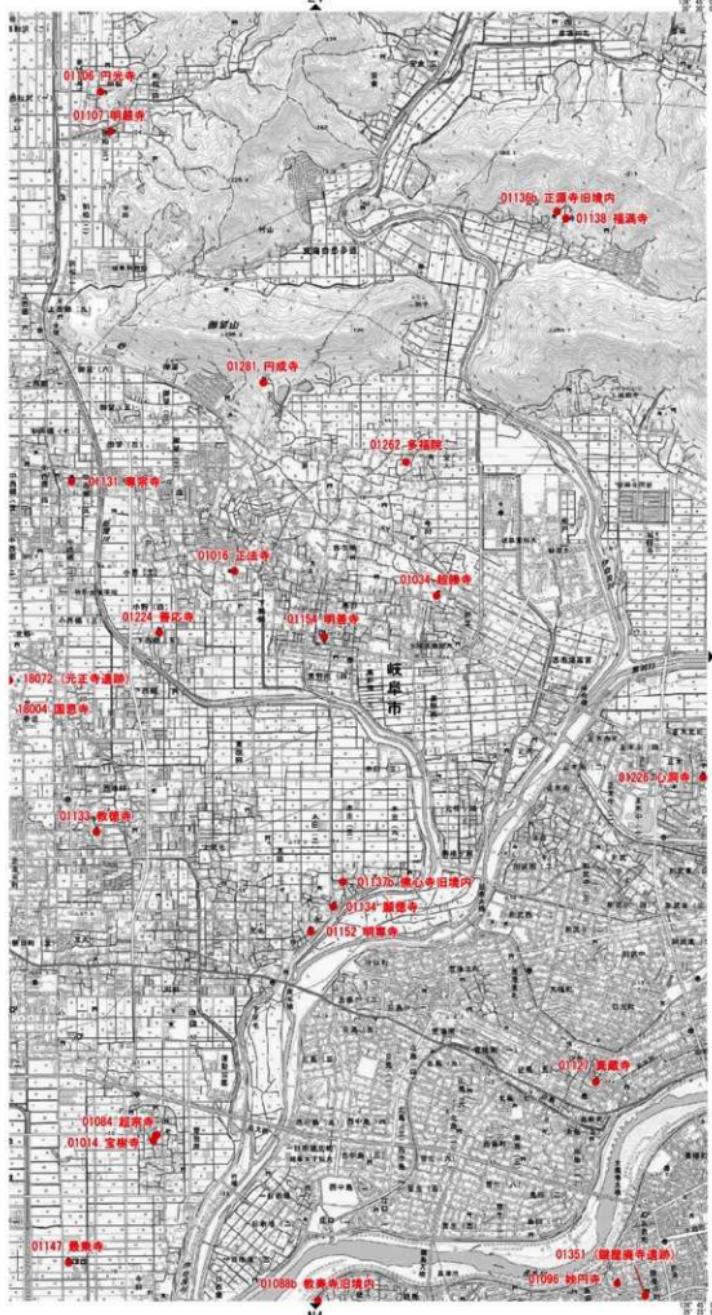


垂井町

L1 近江川合	L2 横山	L3 谷汲
M2 美束	M3 池野	
N2 関ヶ原	N3 大垣	







岐阜市

0101 正樂寺	31003 美濃寺
0104 正法寺	31008 雷興寺
0104 興善寺	31010 真慶寺
0108 光円寺	31015 真定寺
0108b 佛母寺旧境内	31016 光沢寺
0109 光円寺	31017 善教寺旧境内
0110 光円寺	31018 光勝寺
0110 興善寺	31019 光華寺
0112 真慶寺	31022 佛母寺
0113 真慶寺	31044 朝明寺
0113 敦惠寺	(伝東御寺跡)
0113b 正源寺旧境内	32001 長慶寺
0117 佛母寺旧境内	33001 本光寺
0133 福満寺	33002 金福寺
0141 真慶寺	33003 美智寺
0152 佛母寺	33004 美智寺
0154 明善寺	01224. 善定寺
01225 心潤寺	01262. 多福院
01263. (元成寺道跡)	01351. (願成寺道跡)

大野町

31003 美濃寺
31008 雷興寺
31010 真慶寺
31015 真定寺
31016 光沢寺
31017 善教寺旧境内
31018 光勝寺
31019 光華寺
31022 佛母寺
31044 朝明寺
(伝東御寺跡)
32001 長慶寺
33001 本光寺
33002 金福寺
33003 美智寺
33004 美智寺

北方町

33001 本光寺
33002 金福寺
33003 美智寺
33004 美智寺
0154 明善寺
01224. 善定寺
01262. 多福院
01351. (願成寺道跡)

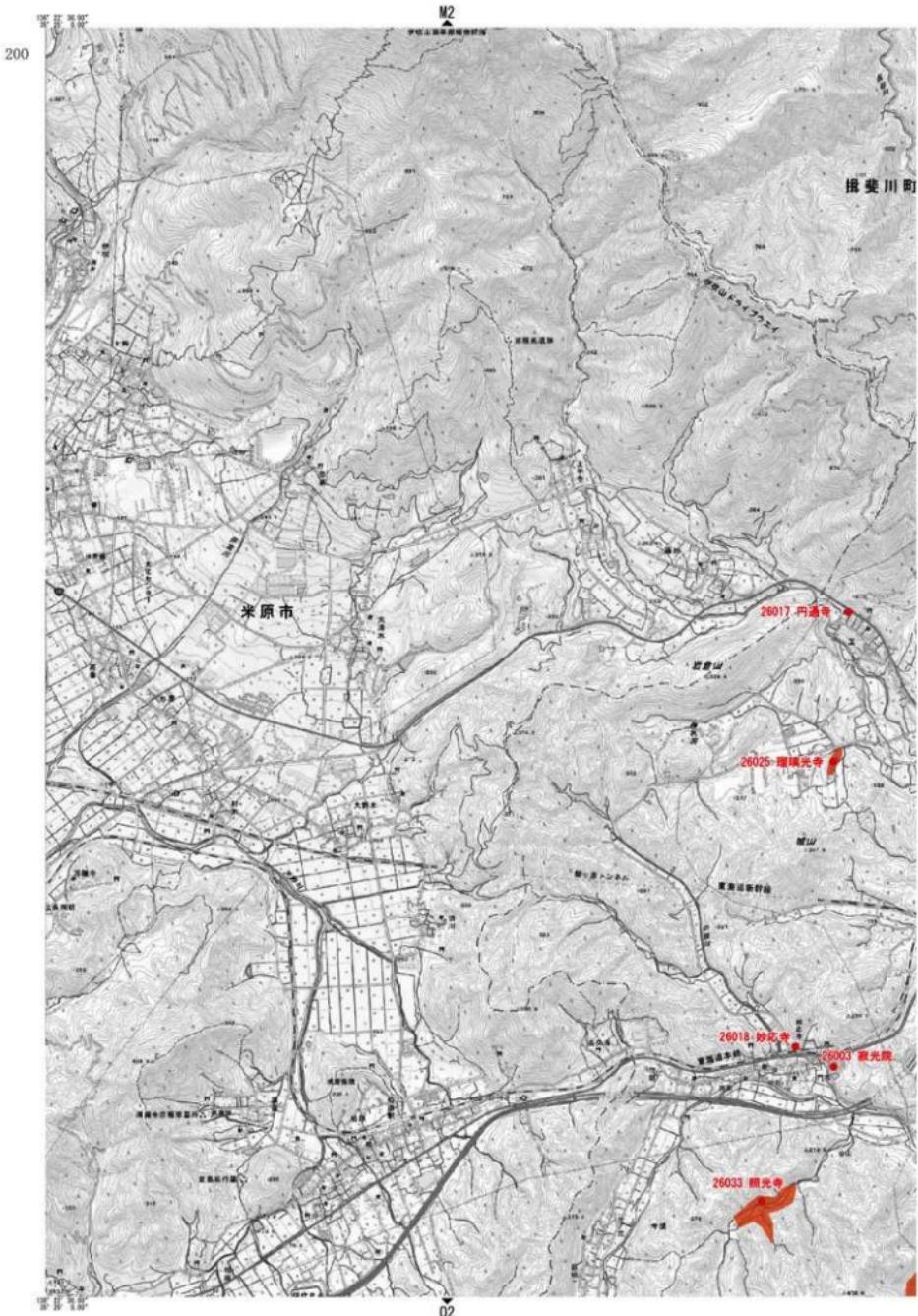
瑞穗市

16014 美淨寺
16031 本應寺
16040 金福寺

本巣市

18001 真淨院
18002 真忍寺
18004 真忍寺
18005 真忍寺
18006 大福寺
18010 光成寺
18011 真泉寺
18012 真泉寺
18013 真泉寺
18014 真泉寺
18015 真空寺
18025 真空寺
18027 善教寺
18031 香雲寺
18032 真乗寺
18033 真乗寺
18034 真圓寺
18054 真圓寺
18055 真空寺
18057 善教寺
18057 光円寺
18059 金福寺 (移動寺跡)
18060 光元寺
18064 大龜寺 (金持庵跡)
18072 (元成寺道跡)
18073 真成寺
18076 (願成寺道跡)
18081 善印寺

L3 谷汲	L4 美濃神海	L5 岩佐
M3 池野	M4 北方	M5 岐阜北部
N3 大堤	N4 岐阜西部	N5 岐阜



大垣市

- 02107b 善性寺旧境内
02206 法雲寺
02211 宝聚院
02287 (上野唐跡)

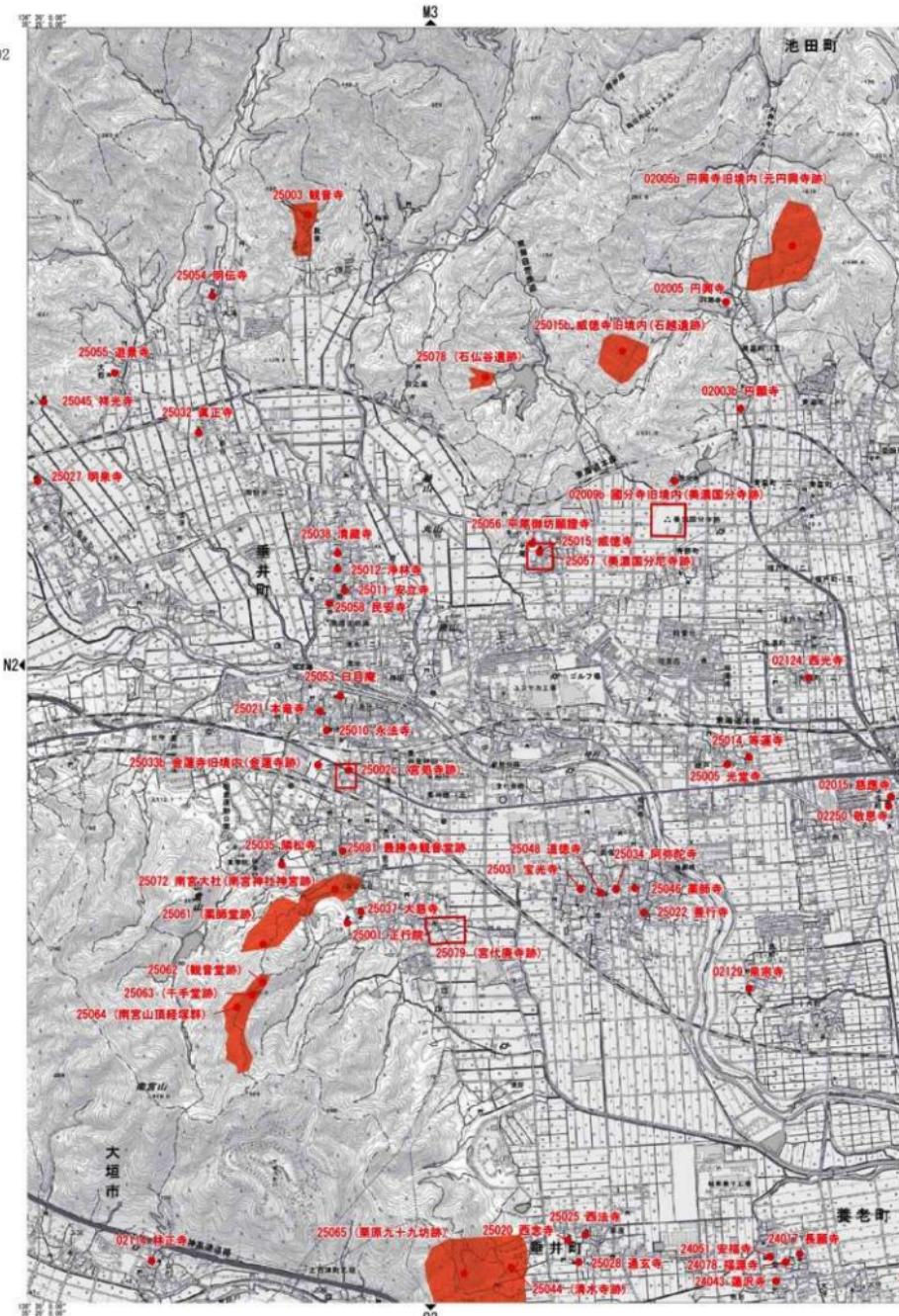
垂井町

- 25003 善提寺
25004 真護寺
25018 真正寺
25025 淨休寺
25056 神維寺
25071 伊富岐神社奥の院 (伊富岐神社跡)
(伊富岐神社跡)

関ヶ原町

- 26003 聰光院
26004 聰蓮寺
26006 宗徳寺
26008 法忍寺旧境内
26010 三徳寺
26015 真意寺
26017 円通寺
26018 妙応寺
26025 墓横光寺
26027 密蔵院
26033 聰光寺
26036 祖宝寺
26040 野上奥寺跡

	M2 美東	M3 池野
N2 関ヶ原	N3 大垣	
02 靈仙山	03 養老	



N3 大垣

大綱

源井町

- This map displays the locations of various temples in the Kōtoku-in area of Kamakura, Japan. The temples are marked with red dots and labeled with their names and addresses. The map also shows the city boundaries of Kamakura City (鎌倉市) and the surrounding areas.

Key labels visible on the map include:

 - 神戸市 (Kobe City)
 - 大磯市 (Ogiso City)
 - 秦野市 (Kiyone City)
 - 横浜市 (Yokohama City)
 - 鎌倉市 (Kamakura City)

Temple addresses (partial list):

 - 02041 石教寺
 - 02022 淳度寺
 - 02046 作雲寺
 - 02001 依藏寺 (密蔵寺) 学院路
 - 02019 正願寺
 - 02016 金林寺
 - 02028 瑞寶寺
 - 02023 善林寺
 - 02258 明星総本山
 - 02139 西園寺
 - 02004 用覺寺
 - 02149 円徳寺
 - 02444 満慈寺
 - 02246 满広寺
 - 02021 定慧寺
 - 02007 法舟寺
 - 02255 東光寺
 - 02236 紗法寺
 - 02022 正福寺
 - 02128 正安寺
 - 02033b 安樂寺
 - 02360 净福寺
 - 02085 駿福寺
 - 02571 芝福寺
 - 02154 善昌寺
 - 02153 黄円寺
 - 02169 萬圓寺
 - 02054 修善寺
 - 02050 寶光寺
 - 02138 顯性寺
 - 02080 久遠寺
 - 02253 砂水寺
 - 02115 正安寺
 - 02132 道正寺
 - 02116 騰光寺
 - 02058 用覺寺
 - 02261b 神宮寺
 - 02262 勇松寺
 - 02260 芳那院
 - 02021 立源寺
 - 02082 駿勝寺
 - 02056 了信寺
 - 02099 正中寺
 - 02225 雅慈寺
 - 02162 真照寺
 - 02077 淳度寺
 - 02057 道成寺
 - 02016 沙田寺
 - 02226 浄妙寺
 - 02060 道勝寺
 - 02089 延立寺
 - 02088 浄宝寺
 - 02058 道成寺
 - 02142 星明寺
 - 02004 宝光院
 - 24042 蓮生寺旧境内

大綱而

野井輝

- | | | |
|-------|----------|------------------|
| 02030 | 円筒中子 | 25001 正形圓 |
| 02040 | 六方柱 | 25004 六方錐 |
| 02050 | 円柱中子 | 25005 圓柱 |
| 02055 | 円柱中子建物 | 25050 燈籠等 |
| | (丸柱中子) | (丸柱中子) |
| 02060 | 円柱中子建物 | 25051 宮室等 |
| | (萬葉山形分母) | (萬葉山形分母) |
| 02070 | 多角柱 | 25101 多角錐 |
| 02074 | 多角柱 | 25102 多角錐 |
| 02078 | 多角柱 | 25103 多角錐 |
| 02080 | 六方柱 | 25201 六方錐 |
| 02084 | 六方柱 | 25202 六方錐 |
| 02087 | 直方柱 | 25301 本龜等 |
| 02090 | 円柱 | 25302 番龜等 |
| 02095 | 圓柱 | 25303 西法等 |
| 02100 | 圓柱 | 25304 韓制等 |
| 02104 | 圓柱 | 25305 金剛等 |
| 02107 | 圓柱 | 25306 真正等 |
| 02110 | 圓柱 | 25307 真光等 |
| 02112 | 圓柱 | 25308 阿彌陀等 |
| 02115 | 圓柱 | 25309 阿彌陀等 |
| 02118 | 圓柱 | 25310 大意等 |
| 02120 | 圓柱 | 25311 延命等 |
| 02124 | 圓柱 | 25404 (東方)延命等 |
| 02125 | 圓柱 | 25405 (西)延命等 |
| 02126 | 圓柱 | 25406 (北)延命等 |
| 02127 | 圓柱 | 25501 具安等 |
| 02129 | 圓柱 | 25502 (萬葉)具安等 |
| 02132 | 圓柱 | 25503 (萬葉)寶鏡等 |
| 02134 | 圓柱 | 25601 (萬葉)山形等 |
| 02136 | 圓柱 | 25602 (萬葉)九十九大通等 |
| 02137 | 圓柱 | 25603 (萬葉)九十九大通等 |
| 02138 | 圓柱 | 25604 (萬葉)九十九大通等 |
| 02143 | 圓柱 | 25605 (萬葉)九十九大通等 |
| 02145 | 圓柱 | 25606 (萬葉)九十九大通等 |
| 02147 | 圓柱 | 25607 (萬葉)九十九大通等 |
| 02149 | 圓柱 | 25608 (萬葉)九十九大通等 |
| 02151 | 圓柱 | 25609 (萬葉)九十九大通等 |

神戸町

- 27001 慈惠寺
- (慈惠寺勸學院跡)
- 27011 正福寺
- 27014 净智寺
- 27016 念慈寺
- 27021 菩提寺

七

- 養老町
24017 長慶寺
24042b 蓮生寺(田舎内)
24043 蓮光寺
24051 安福寺

100

1

M3

10

1

N3

1

13 2411

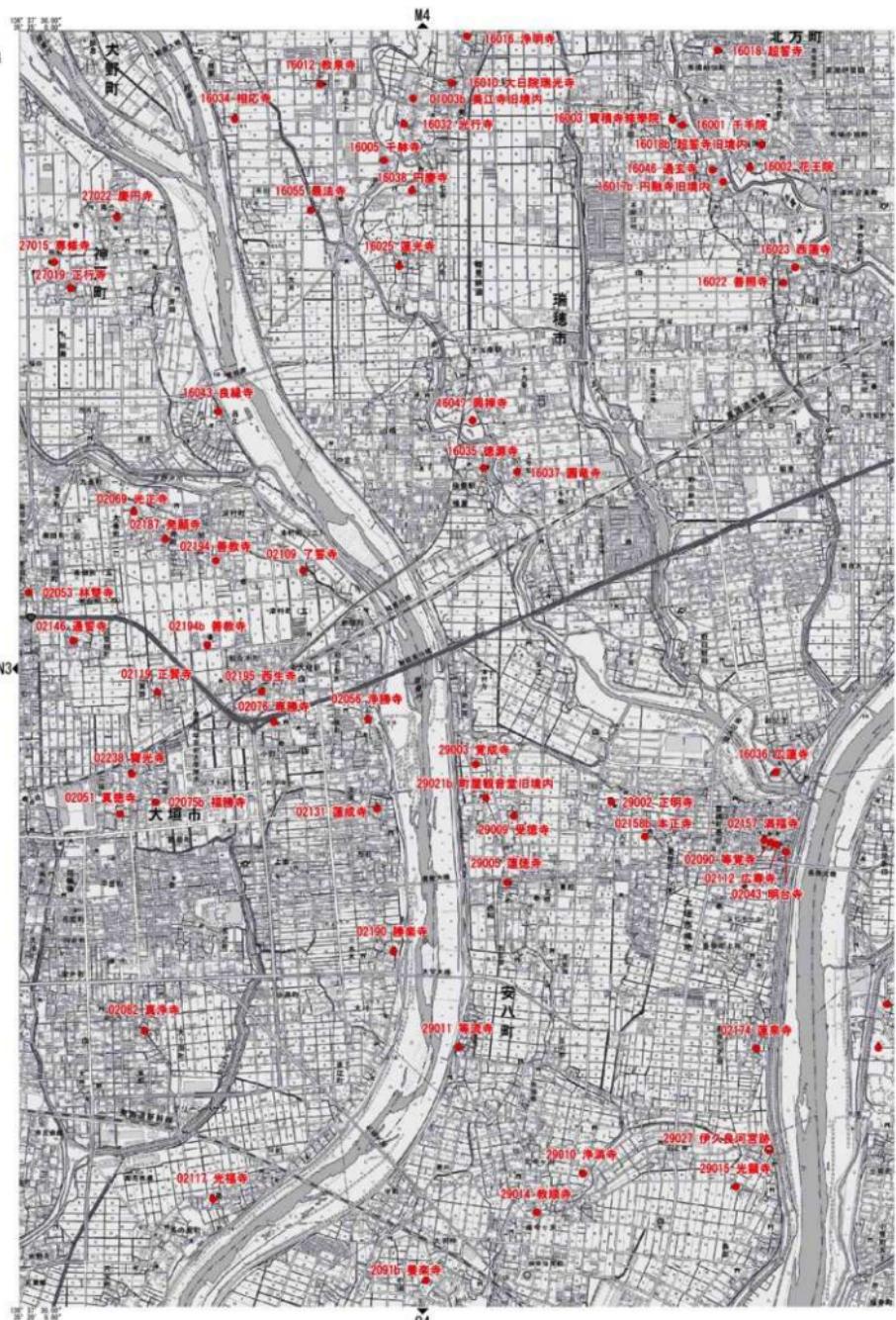
03

92 盒仙山

03

1

1



- This map shows the northern part of the Kita-ku area in Nagoya, Japan, with numerous historical sites marked by red dots and labeled in red text. The labels include:

 - 01073 円成寺
 - 01205 乙涂寺
 - 01229 駿寺
 - 011426 住吉寺旧境内
 - 01278b 猛毒寺旧境内
 - 01098
 - 01250 立政寺
 - 01173 西勝寺
 - 01183 駿多寺
 - 01116 越前寺
 - 01099
 - 01164 駿子寺
 - 01211 丹福寺
 - 01160 廉安寺
 - 01157 光慶寺
 - 01192 七福寺
 - 01155b 落庄寺旧境内
 - 01122 廉宗寺
 - 01194 正應寺
 - 01194c 正應寺旧境内
 - 01196 寺光寺
 - 01197 湯進寺
 - 01166 駿音寺
 - 23021 弘清寺
 - 01253 慈恩寺
 - 09024c 駿教寺旧境内
 - 09028 西方寺
 - 09026 宝壽寺
 - 02070 了應寺
 - 23005 慶應寺
 - 09031 立公院
 - 09031 大惠寺
 - 09009 駿雲寺
 - 09005 正應寺
 - 09002 法應寺
 - 09047 宝慶寺
 - 09048 宝慶寺

精良而

- 羽島市
09009 賴寺
09021 法勝寺
09022 恵立寺
09023 明照寺
09024b 須磨院寺
09025 智勝寺
09028 西方寺
09034 永羽寺
09047 実慶寺
09063 御願寺
09065 正壽寺
09070 了應寺
09071 大惠寺
09074 一乘寺

五
四

- 01003b 麻江寺塔境内
16001 半手院
16002 芳王院
16003 實驗寺佛學院
16005 千尋寺
16010 大日院瑞光寺
16012 慈惠寺
16013 瑞光寺
16016 淨明寺
16017b 元融寺塔境内
16018 超聖寺
16019b 超聖寺塔境内

大類言

- | | | | |
|-------|----------|-------|------------|
| 02041 | 明日市 | 16025 | 蓬光火 |
| 02051 | 徳徳寺 | 16026 | 舟火 |
| 02053 | 林徳寺 | 16027 | 舟火 |
| 02054 | 津徳寺 | 16028 | 船火 |
| 02069 | 光正寺 | 16035 | 惟徳寺 |
| 02076 | 圓徳寺(日隈山) | 16036 | 廣徳寺 |
| 02078 | 圓徳寺 | 16037 | 圓徳寺 |
| 02087 | 真淨寺 | 16038 | 円淨寺 |
| 02090 | 圓寔寺 | 16043 | 圓通寺 |
| 02109 | 了智寺 | 16044 | 通智寺 |
| 02112 | 廣應寺 | 16047 | 圓應寺 |
| 02119 | 正賀寺 | 16050 | 惟賀寺 |
| 02131 | 圓成寺 | 16056 | 圓成寺 |
| 02146 | 通善寺 | 23005 | 圓通寺 |
| 02157 | 圓滿寺 | 23021 | 圓滿寺 |
| 02158 | 圓正寺 | | |
| 02174 | 圓惠寺 | | |
| 02187 | 覺圓寺 | | |
| 02190 | 勝圓寺 | 22015 | 勝圓寺 |
| 02194 | 普教寺 | 22019 | 正行寺 |
| 02196 | 勝參寺 | 22022 | 圓參寺 |
| 02195 | 西生寺 | | |
| 02214 | 聖參寺 | | |
| 02216 | 聖參寺 | | |
| | | | 笠松町 |
| | | 23005 | 圓通寺 |
| | | 23021 | 圓滿寺 |
| | | | 神戸町 |
| | | 22015 | 勝圓寺 |
| | | 22019 | 正行寺 |
| | | 22022 | 圓參寺 |
| | | | 安八町 |

第10章

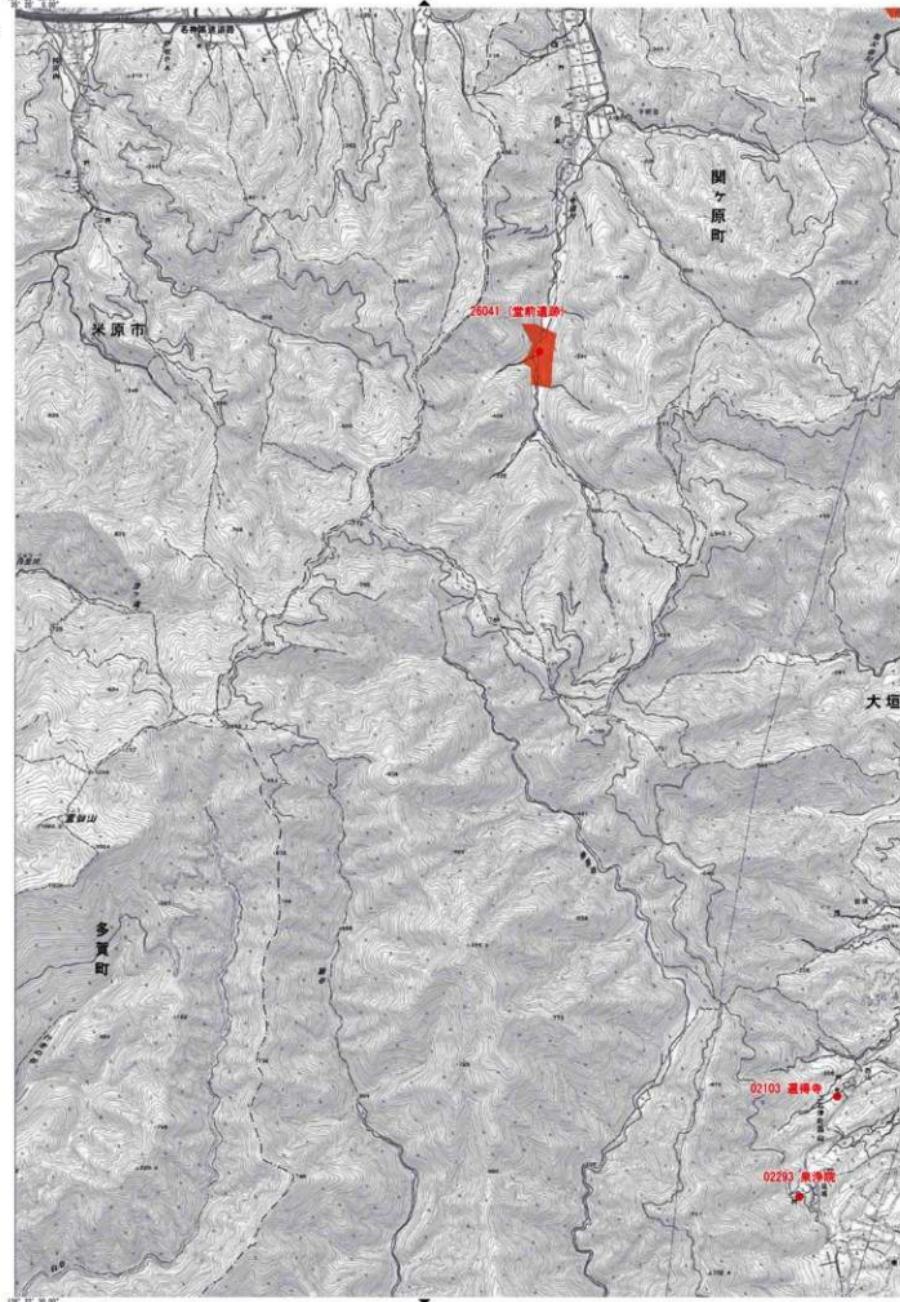
- 神戸町**

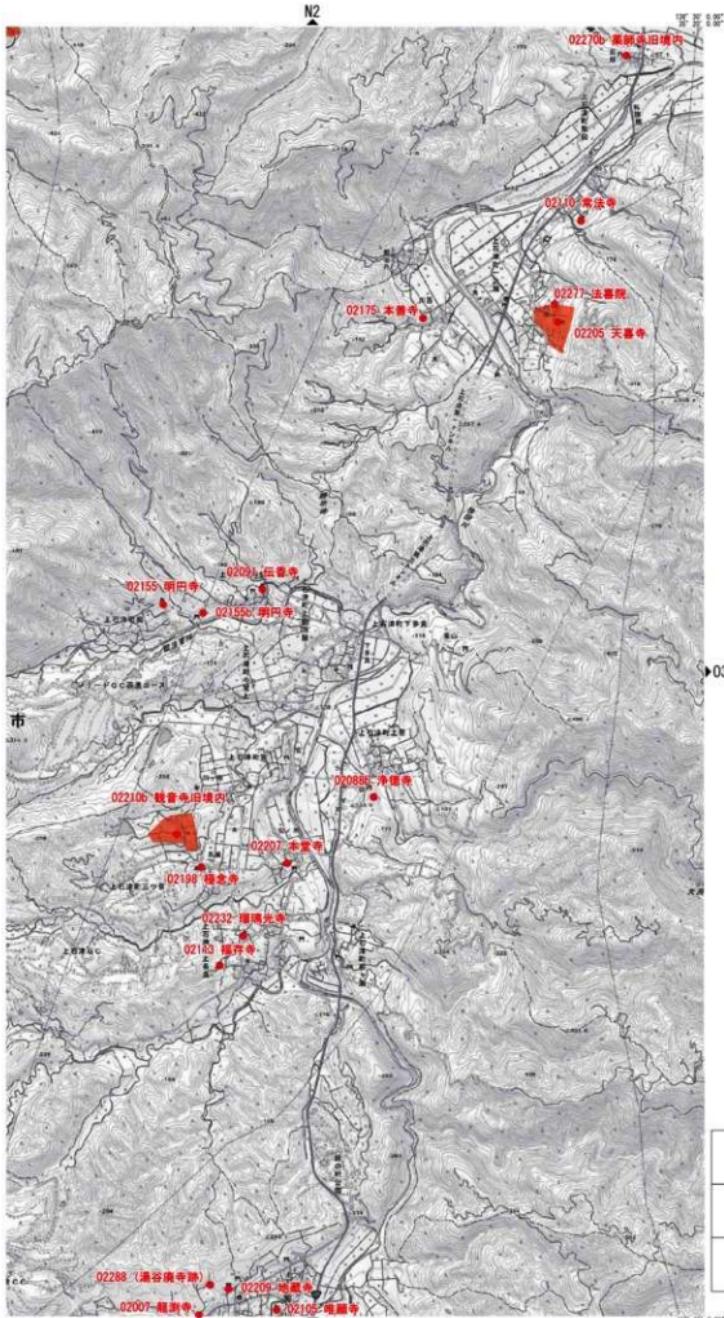
 - 27015 審藤寺
 - 27019 正行寺
 - 27022 岩円寺

安八町

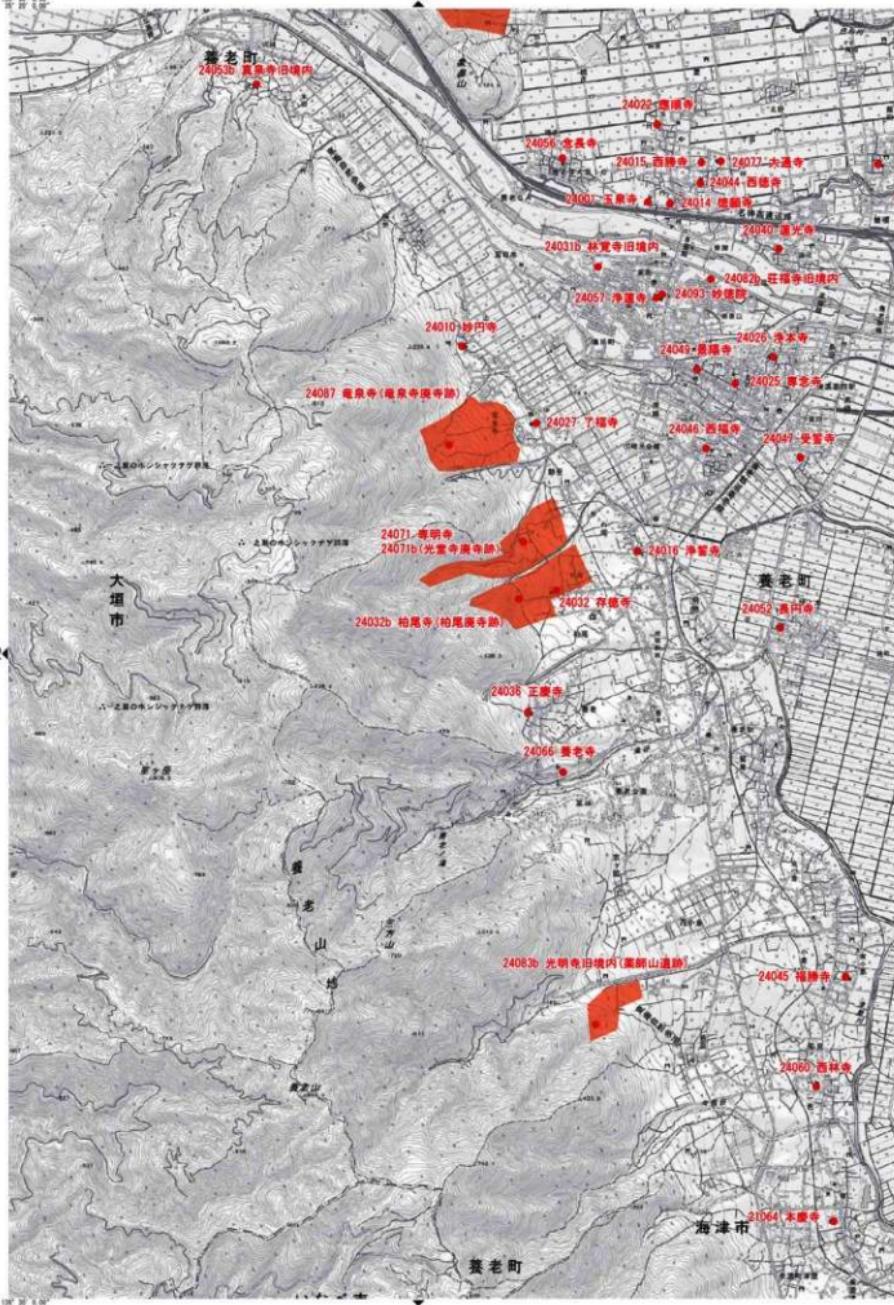
 - 29002 正明寺
 - 29003 宽成寺
 - 29005 達磨寺
 - 29009 聖福寺
 - 29010 淨满寺
 - 29011 等流寺
 - 29014 教藏寺
 - 29015 光顯寺
 - 29021 朝里觀音堂
 - 29027 伊久良河東院
 - 29016 菩薩寺

M3 池野	M4 北方	M5 岐阜北部
N3 大垣	N4 岐阜西部	N5 岐阜
03 養老	04 竹鼻	





	N2 関ヶ原	N3 大垣
	O2 雪仙山	O3 養老
	P2 摂立	P3 駒野



03 養老

大垣市

- 02094 正安寺
- 02100 作経寺
- 02133 聰美寺
- 02176 長乗寺
- 02177 長徳寺
- 02181 宝寺
- 02184 善安寺

海津市

- 21061 本慶寺
- 21110 海勝寺

養老町

- 24001 玉泉寺
- 24010 開円寺
- 24011 善了寺
- 24012 黄林寺
- 24014 長圓寺
- 24015 長勝寺
- 24016 長智寺
- 24022 長源寺
- 24025 長住寺
- 24026 淳祐寺
- 24027 了福寺
- 24031 長寛寺
- 24032 長徳寺
- 24032 長尾寺 (桔尾寺奥寺跡)
- 24033 正慶寺
- 24034 長智寺
- 24035 長圓寺
- 24040 長光寺
- 24041 長利寺
- 24043 長徳寺
- 24045 長勝寺
- 24046 長福寺
- 24047 長智寺
- 24049 長徳寺
- 24050 長寛寺
- 24052 長円寺
- 24053 長泰寺
- 24053b 真圓寺旧境内
- 24054 長寛寺
- 24055 長源寺
- 24056 長徳寺
- 24057 長圓寺
- 24058 長勝寺
- 24059 長徳寺
- 24060 長圓寺
- 24061 長圓寺
- 24064 法宣寺
- 24068 達願寺
- 24069 西源寺
- 24070 淨智寺
- 24071 淨智寺
- 24072 明鏡寺
- 24073 長圓寺
- 24074 長徳寺
- 24075 長圓寺
- 24076 長徳寺
- 24077 長圓寺
- 24078 長徳寺
- 24079 長徳寺
- 24080 淨智寺
- 24081 淨智寺
- 24082 淨智寺
- 24083 智通寺
- 24084 智通寺
- 24085 智通寺
- 24086 智通寺
- 24087 智通寺
- 24088 智通寺
- 24089 智通寺
- 24090 智通寺
- 24091 智通寺
- 24092 智通寺
- 24093 智通寺
- 24094 智通寺
- 24095 智通寺
- 24096 智通寺
- 24097 智通寺
- 24098 智通寺
- 24099 智通寺
- 24100 智通寺

04

- 24054 法宣寺
- 24055 長圓寺
- 24056 長徳寺
- 24057 長圓寺
- 24058 長徳寺
- 24059 長圓寺
- 24060 長徳寺
- 24061 長圓寺
- 24062 長徳寺
- 24063 長圓寺
- 24064 長徳寺
- 24065 長圓寺
- 24066 長徳寺
- 24067 長圓寺
- 24068 長徳寺
- 24069 長圓寺
- 24070 長徳寺
- 24071 長圓寺
- 24072 長徳寺
- 24073 長圓寺
- 24074 長徳寺
- 24075 長圓寺
- 24076 長徳寺
- 24077 長圓寺
- 24078 長徳寺
- 24079 長圓寺
- 24080 長徳寺
- 24081 長圓寺
- 24082 長徳寺
- 24083 智通寺
- 24084 智通寺
- 24085 智通寺
- 24086 智通寺
- 24087 智通寺
- 24088 智通寺
- 24089 智通寺
- 24090 智通寺
- 24091 智通寺
- 24092 智通寺
- 24093 智通寺
- 24094 智通寺
- 24095 智通寺
- 24096 智通寺
- 24097 智通寺
- 24098 智通寺
- 24099 智通寺
- 24100 智通寺

輪之内町

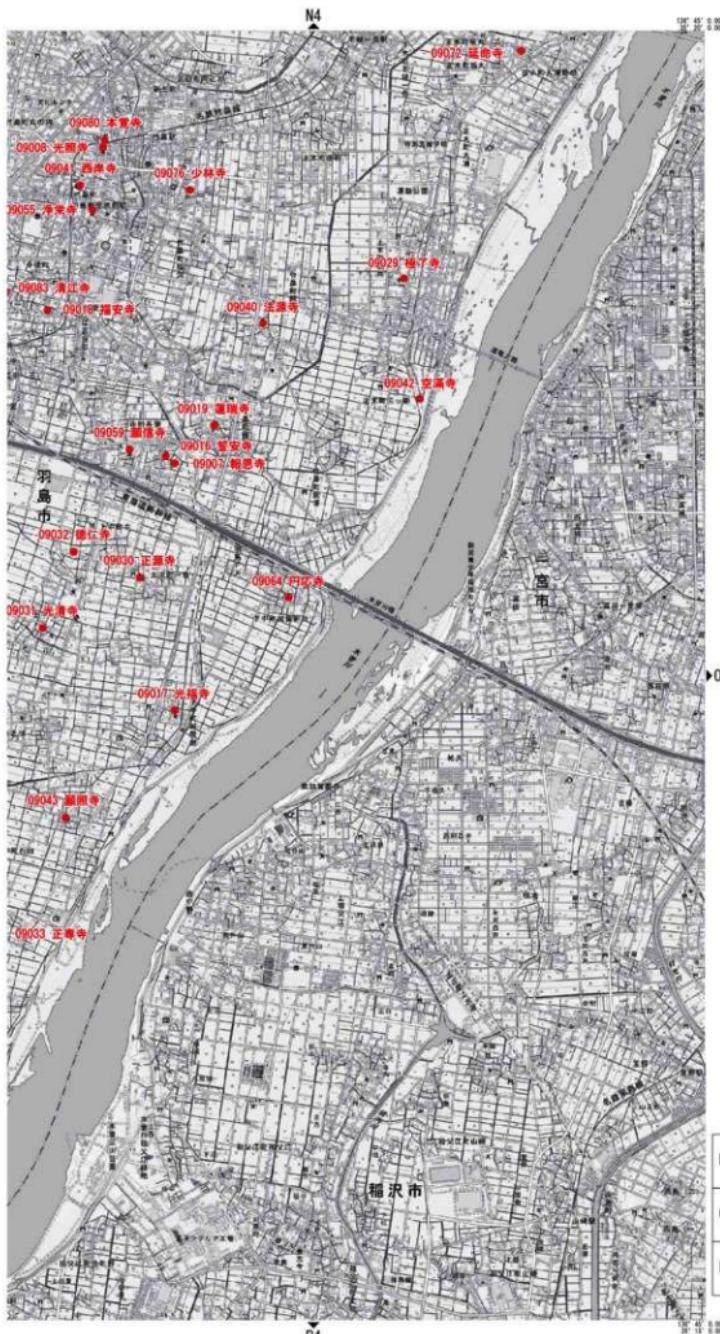
- 28009 龍満寺旧境内
- 28010 龍満寺 (萬那山遺跡)

輪之内町

- 28011 龍満寺

N2 関ケ原	N3 大垣	N4 岐阜西部
02 雪仙山	03 養老	04 竹鼻
P2 篠立	P3 駒野	P4 津島

04 竹鼻



羽島市

- 09006 願智寺日蓮内
09007 慶恩寺
09002 天國寺
09017 天福寺
09018 天安寺
09019 天源寺
09027 正明寺
09028 了了寺
09030 天源寺
09031 天廣寺
09032 天仁寺
09033 正善寺
09040 天源寺
09041 西善寺
09042 天滿寺
09043 天照寺
09044 佐世寺
09051 天福寺
09052 天德寺
09053 海安寺
09054 露頂寺
09055 露頂寺
09056 善信寺
09061 善教寺
09062 善忍寺
09063 善化寺
09064 善西寺
09072 善合寺
09073 金寶寺
09076 少林寺
09080 善愛寺
09083 道江寺
09093 江吉良神宮道路

海津市

- 21017 善福寺
21074 正興寺
21077 正明寺
21078 正香寺
21079 万吉寺
21080 万休寺
21081 西靈寺
21085 五般寺
21088 勉勝寺
21091 善休寺
21094 善福寺
09005 亂林寺日蓮内（亂林寺跡）

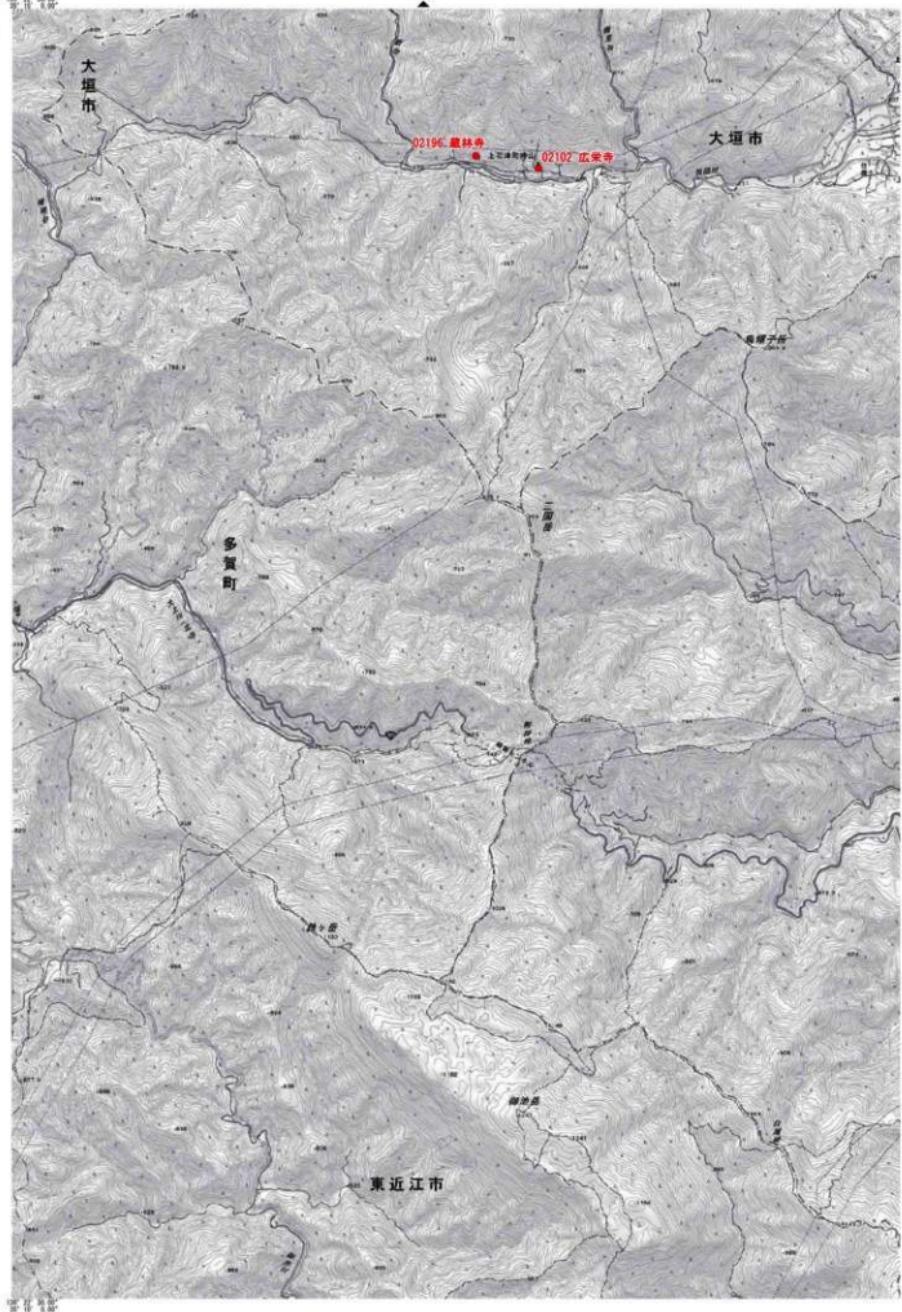
輪之内町

- 28003 善明寺
28007 正興寺
28011 第光寺
28012 四廣寺
28014 正福寺
28021 本慶寺
28022 本應寺
28024 本法寺
28025 本法寺
28029 善正寺

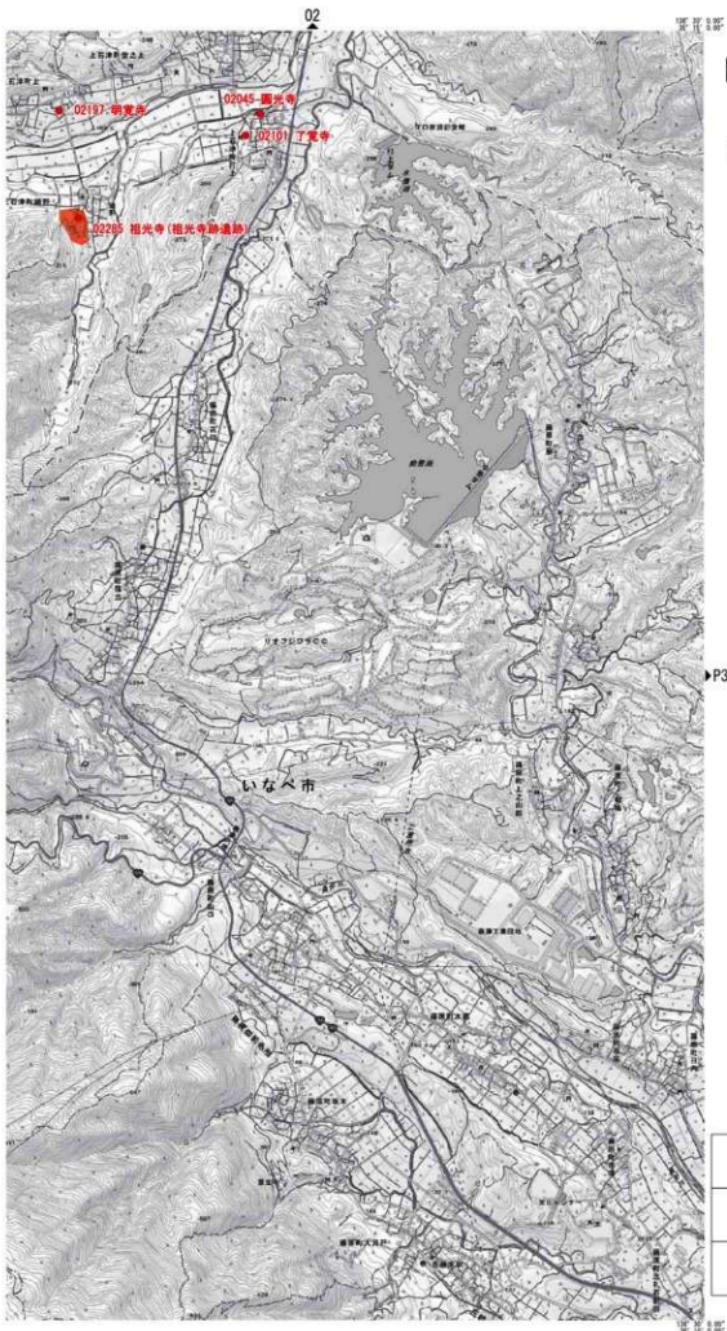
安八町

- 29004 円長寺
29006 本善寺
29017 久承寺
29018 道性寺
29023 森御葉跡室

N3 大垣	N4 岐阜西部	N5 岐阜
03 奈老	04 竹鼻	
P3 駒野	P4 津島	



P2 篠立

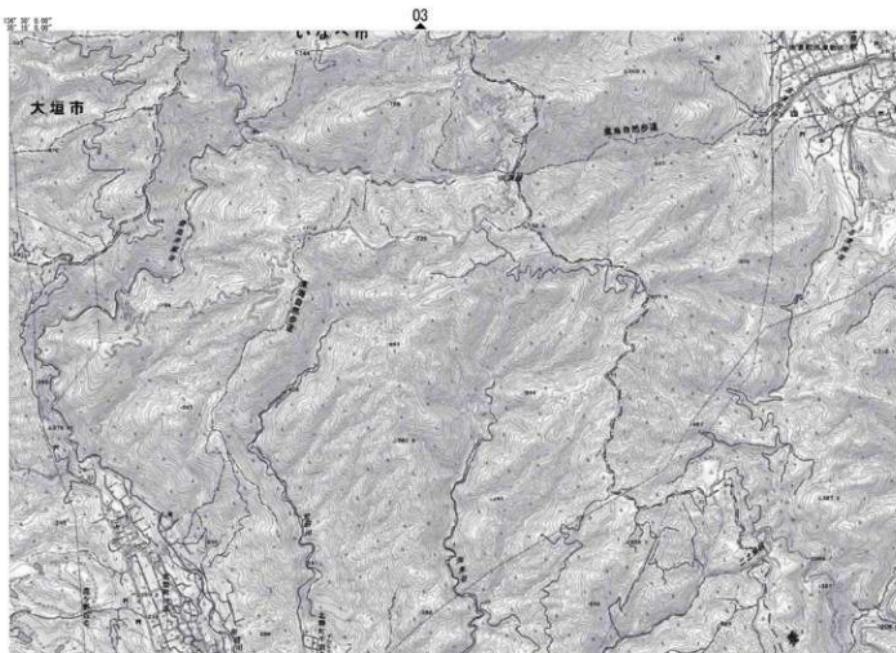


大垣市

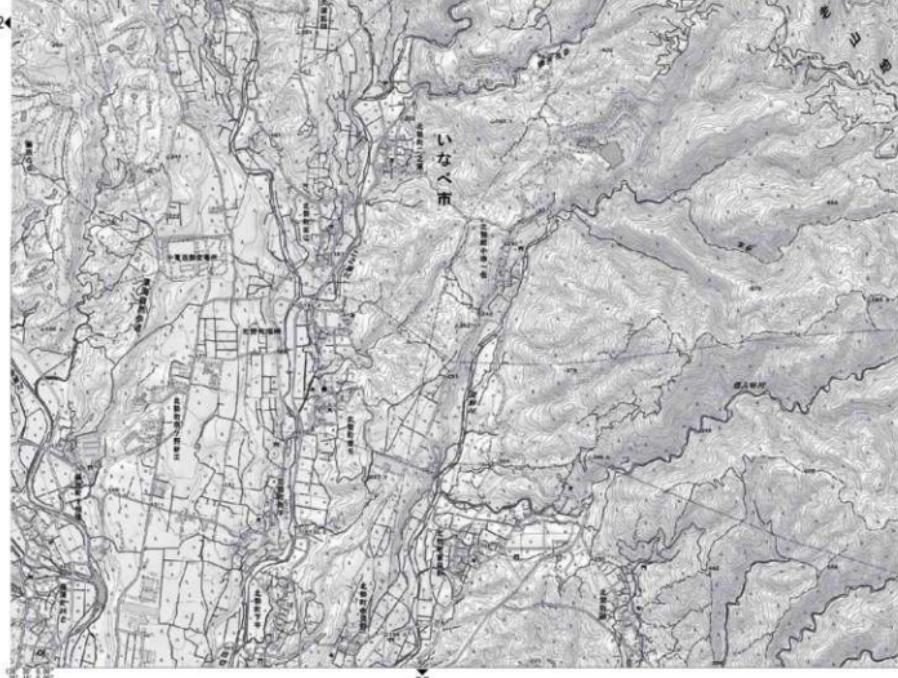
- 02045 祖光寺
- 02101 了寛寺
- 02102 広栄寺
- 02196 鶴林寺
- 02197 明覚寺
- 02285 祖光寺(祖光寺跡遺跡)

	02 雪仙山	03 養老
P2 篠立	P3 駒野	
	03 阿下喜	

214



P24



03

P3 駒野

215

海津市

- 21004 行基寺
 21004c (行基寺跡)
 21008 円満寺
 21009 善教寺
 21018 淨国寺
 21020 桂林寺
 21031 蓮応寺
 21049 来入寺
 21051 南明寺
 21068 清淨寺
 21071 西淨寺
 21072 大壽寺
 21073 龍芳寺
 21095 凈雲寺

P4

21004 - 21004c 行基寺 (行基寺跡)

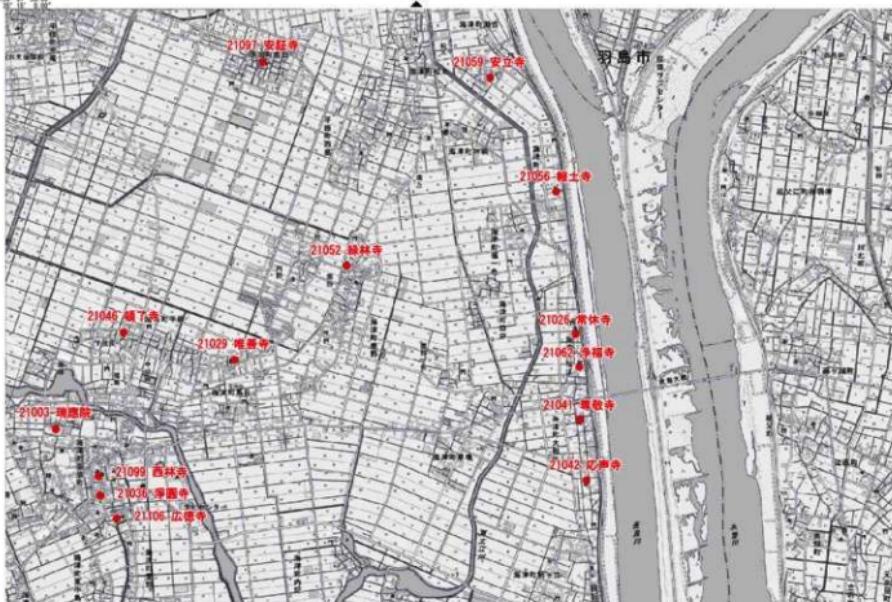
21073 龍芳寺

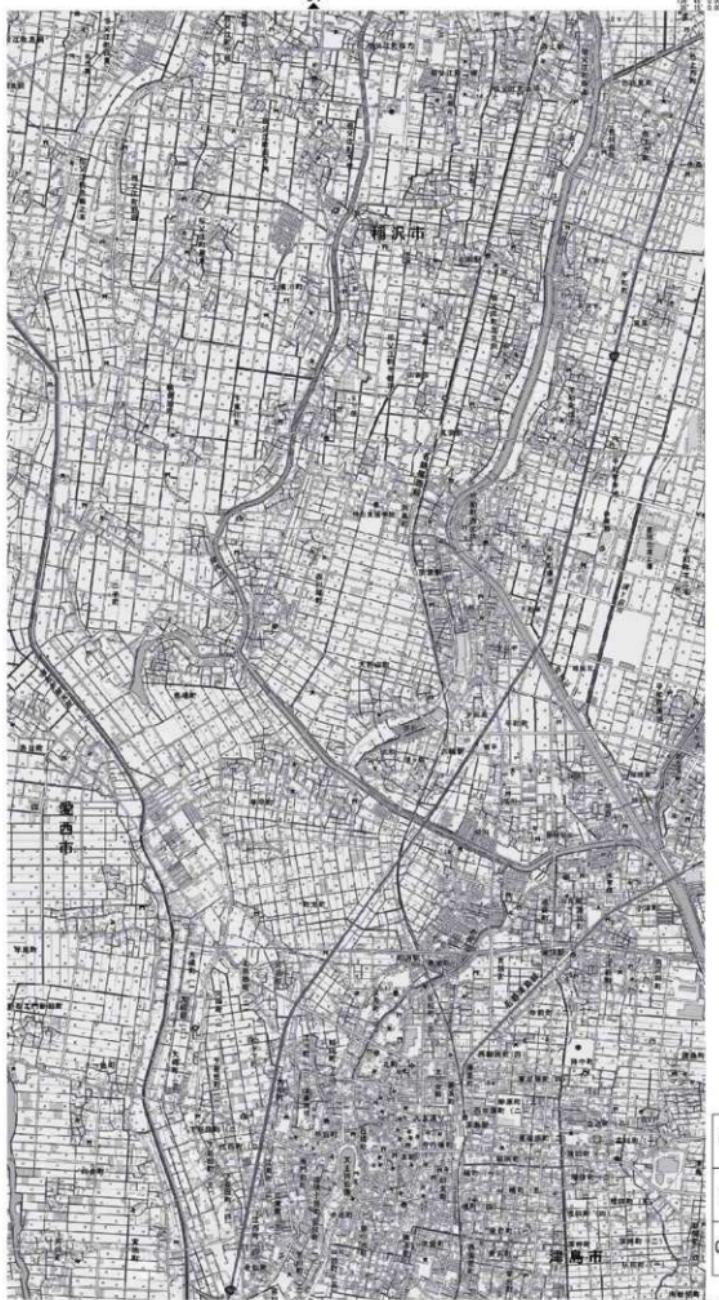
21098 淨國寺

21068 海津寺

桑名市

02 靈仙山	03 養老	04 竹鼻
P2 篠立	P3 駒野	P4 津島
03 阿下喜	04 弥富	





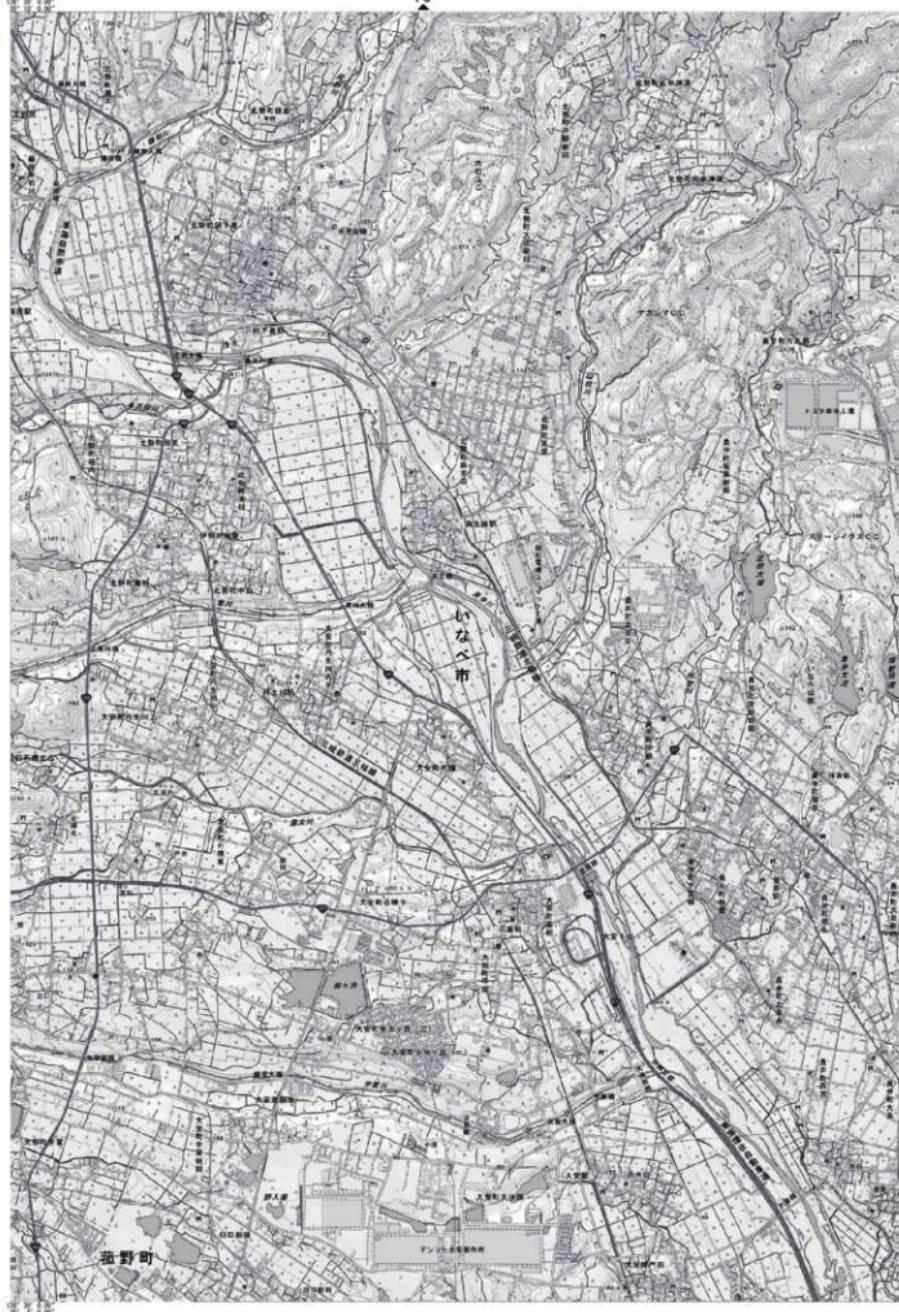
P4 津島

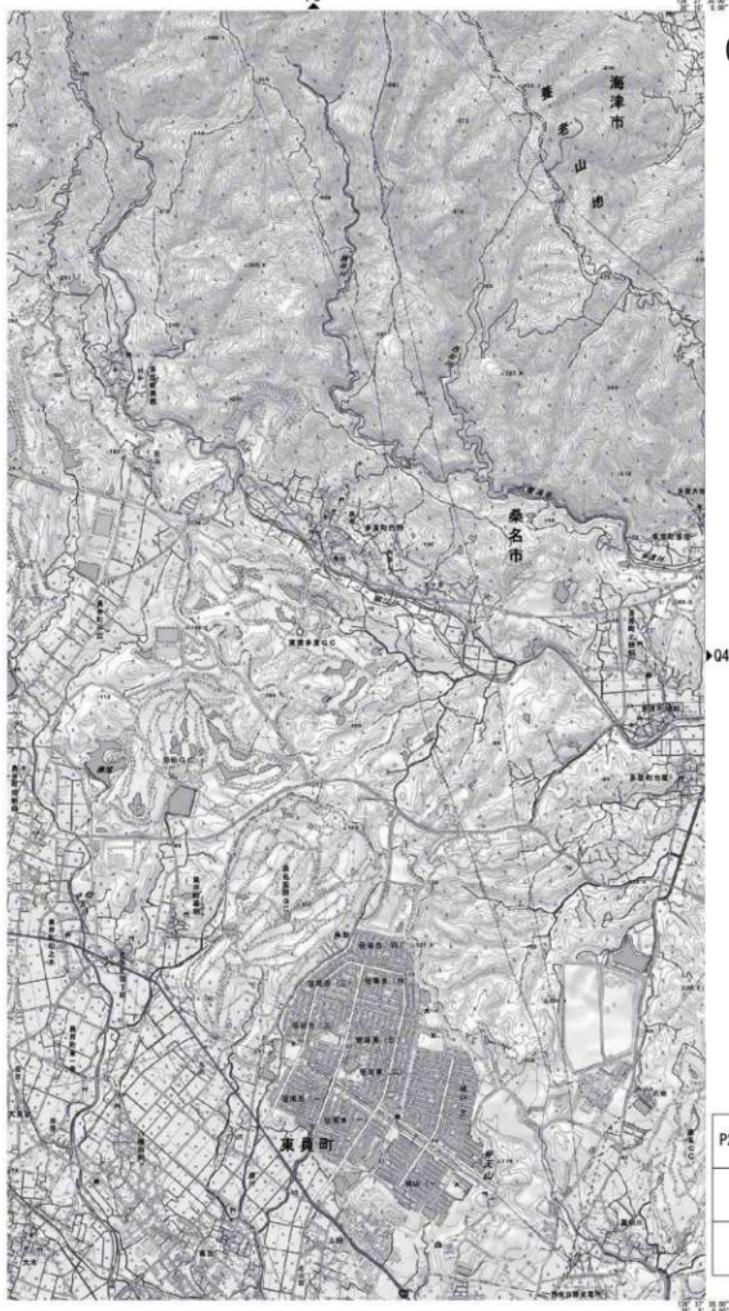
217

海津市

- 21003 球應院
- 21022 観福寺
- 21023 宗道寺
- 21026 常休寺
- 21029 唯善寺
- 21036 靜圓寺
- 21038 覧念寺
- 21039 賴得寺
- 21041 尊敬寺
- 21042 忍芦寺
- 21046 積了寺
- 21052 錦林寺
- 21056 輓土寺
- 21057 菩賢寺
- 21059 安立寺
- 21061 龍船寺
- 21062 洋福寺
- 21065 鶴壽寺
- 21087 中鳥寺
- 21097 安証寺
- 21099 西林寺
- 21106 広徳寺

03 蒼老	04 竹鼻	05 一宮
P3 駒野	P4 津島	
Q3 阿下喜	Q4 弥富	

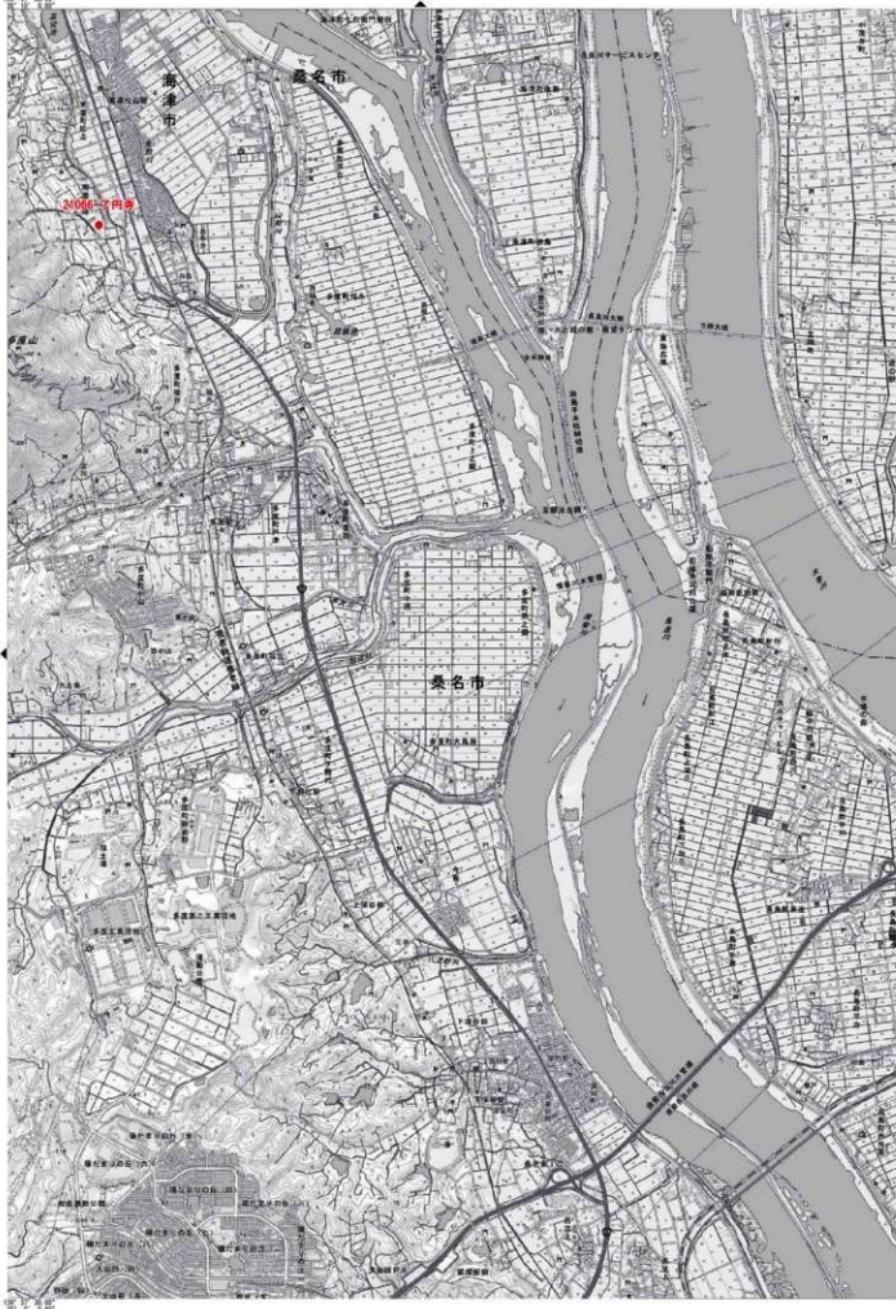




P2 篠立	P3 駒野	P4 津島
Q3 阿下喜	Q4 弥富	

220

P4



03

海津市

21068 了円寺



P3 駒野	P4 津島	
Q3 阿下喜	Q4 弥富	

第5節 西濃圏域のまとめ

本節では、西濃圏域の寺院数を旧郡単位で集計し、時代・時期ごとの成立数や立地を検討した上で、古代と中世の寺院について整理する。

1 概要

(1) 西濃圏域の旧郡

本節では、旧郡単位の寺院（以下、寺院跡を含む。）の寺院数や分布を検討する。西濃圏域は、延喜式における多芸郡・石津郡・不破郡・安八郡・池田郡・大野郡と尾張国海西郡の一部（現在の大垣市・瑞穂市・本巣市の一部・海津市・養老町・垂井町・閑ヶ原町・神戸町・輪之内町・安八町・揖斐川町・大野町・池田町）・伊勢国桑名郡の一部が含まれる¹⁾。本節における旧郡名及び郡域の取り扱いについては、第1章第3節に記載のとおりである。

(2) 寺院数（表57）

1,012ヶ寺を対象として調査した結果、古代成立寺院142ヶ寺、中世成立寺院460ヶ寺、合計602ヶ寺を確認した²⁾。奈良時代以前には、多芸郡、石津郡、不破郡など西濃圏域でも南西部で寺院の成立が目立ち、平安時代になると安八郡、池田郡、大野郡など広い範囲で成立されるようになる。一方、中世には寺院数がかなり増え、特に不破郡や安八郡などの平野部で多く成立されている。なお、古代から中世を通して、美濃国府や国分寺、国分尼寺が所在する不破郡と安八郡において寺院の成立が多く、これらの地域では中世に引き続き近世に成立された寺院も多い。

(3) 時期毎の成立時期等の検討（表58）

ここでは、市町村史等に成立年代等の記載がある寺院を選択し、成立・開基（以下、成立と記載する。）、転宗、移転、廃絶等を50年単位で集計し、寺院の消長やその関連性を検討する³⁾。なお、詳細な時期比定は、本来ならば発掘調査等によって明らかとなった年代観で検討すべきであるが、現状では寺院の発掘調査等がほとんど進んでおらず、ここでは文献における記載を参考に検討した。しかし、その取扱いについては十分に考慮すべきである。

①成立時期の記録

寺院の成立記録は、8世紀から9世紀前半までは一定数認められるが、9世紀後半から12世紀前半まではやや少なく、特に11世紀前半から12世紀前半までは少ない。しかし、12世紀後半以降は成立数が一定数認められ、15世紀後半になると飛躍的に数が多くなり、それ以後17世紀後半まで多い状態が続いている。

②転宗時期の記録

寺院の転宗記録は、12世紀後半までは少なく、13世紀前半以降に一定数あり、15世紀後半に多くなる。この15世紀後半の87ヶ寺の転宗の内訳は、浄土真宗への転宗85ヶ寺、天台宗への転宗1ヶ寺、臨濟宗への転宗1ヶ寺であり、浄土真宗への転宗寺院が圧倒的に多いことがわかる。このような浄土真宗への転宗の記録は、本願寺8世蓮如が浄土真宗の美濃への布教を15世紀中頃以降に行ったことの影響とされている（岐阜県2002）ことと矛盾しない。また、前述したように、寺院の成立数は15世紀

後半に多くなり、その大半の宗派が浄土真宗であることとも合致している。なお、16世紀前半以降は転宗した寺院数がやや少くなり、浄土宗や曹洞宗への転宗寺院も散見される。

③移転・廃絶時期の記録

寺院の移転の記録³⁾は、主に11世紀後半から散見でき、15世紀後半に数が増え、16世紀後半から17世紀後半までが最も多い。一方、寺院の廃絶の記録は少ないものの、16世紀後半には火災（多くは戦火）による廃絶の記録が29ヶ寺で認められ、16世紀後半に移転した寺院が多いことと関連すると考えられる。また、15世紀後半から17世紀後半までは寺院の成立数が多いことも加味すると、西濃圏域では、この頃に寺院の成立・移転が盛んに行われていた可能性が指摘できる。

（4）寺院の立地（表59、図101・102）

西濃圏域の地勢は、およそ南東部に海拔0mの低地を含む濃尾平野、北部から南西部に標高1,000m以上の山々を有する白山山地から伊吹山、養老山地へと繋がる山地が広がる。このような地勢で、寺院は標高15m以内の平地に造営されるものが全体の約半数を占め、標高100m以上の高地に立地する寺院は全体の2割弱である。

ここでは低地から高地まで分布する寺院の立地を、およそ平地、山麓、山腹・山頂（尾根上）に分けて記載する。

時期別の立地状況を概観すると、7世紀代の瓦が出土している寺院は垂井町の宮廻寺跡や宮代魔寺など数ヶ寺しかないもののいずれも平地に造営されており、8世紀前半から9世紀前半までの寺院は山麓や山腹に造営される事例が増え、なかには揖斐川町の横蔵寺旧境内や池田町の善南寺旧境内のように、人里から隔絶した山中に造営される寺院もある。9世紀後半以降は山腹に造営される事例が少なく、例えば11世紀後半に成立された池田町平安寺や大垣市天喜寺などは山腹に造営されるものの、比較的集落に近い場所に位置している。中世には平地に造営される寺院が圧倒的に多く、大垣市墨俣の寺町に所在する満福寺、等覚寺、広専寺、本正寺、明台寺などは、中世後期における平地にまとまって存在した寺院群といえる。その一方で、中世段階には古代から存続した寺院もあり、横蔵寺旧境内や大垣市円興寺旧境内などの山腹の寺院でも多数の中世遺物が採集されている。

以下、立地ごとの詳細について記載する。

① 平地に位置する寺院

丘陵・山地裾部と寺城が接していない、氾濫原、河岸段丘、扇状地上などに位置する寺院である。大垣市墨俣の寺町に所在する明台寺（図101-1）を含む寺院群は、現在の長良川とほぼ同じ標高である氾濫原に位置しており、古来は鎌倉街道と長良川が交差する交通の要衝付近にある（岐阜県2002）。また、大垣市宝聚院（図101-2）は瀬古川によって形成された河岸段丘上に位置し、養老山地の東山麓から垂井町へ抜ける街道（壬申紀の道、伊勢街道）に隣接する寺院であり、大垣市美濃国分寺跡（図101-3）は推定東山道と山地の間の扇状地上に位置する。また、推定東山道と揖斐川の交差する辺りに日吉神社本地堂跡・八坊跡（神戸町）、大野駅付近に実相院（大野町）、根尾川に近い濃尾平野北端部に善能寺（大野町）が位置する。

② 山麓に位置する寺院

丘陵・山地裾部と寺城が接している寺院であり、丘陵・山地との境付近の地形が谷部や河川沿いの狭小地と見晴らしの良い平地などに分かれ。これらの寺院の多くは、濃尾平野周縁部の山地・丘陵帶の

裾部に位置する。垂井町石越遺跡（図 101-4）は山地の谷部に位置する小規模な寺院であり、尾根等に囲まれているために堂跡（以下、本堂、本堂跡、金堂跡などを「堂跡」と記す。）からの眺望はほとんどない。また、洞泉寺（図 101-5）は河川沿いの狭小地に位置し、堂跡からの眺望は良いが、眺望できる範囲は狭い。一方で、養老山地の東山麓に位置する柏尾廃寺跡や竜泉寺廃寺跡（図 101-6・7）などは緩斜面上に位置し、その最高所に位置する堂跡からの眺望は広かつたと考えられる。なお、両寺院が位置する緩斜面には街道が通過し、街道と現在確認できる平坦面との間には現集落が展開している。

③ 山腹・山頂（尾根上）に位置する寺院

山腹に位置する寺院、山腹から山頂（尾根上）付近の鞍部に位置する寺院、山頂や尾根上に位置する寺院に分かれる。海津市行基寺（図 102-9）や池田町弓削寺旧境内（図 102-10）は山腹に位置し、山麓からの比高差が約 80m の位置に堂跡がある。これらの寺院は現集落と比較的近い距離に存在しており、堂跡からの眺望は良好である。一方、円興寺旧境内（図 101-8）や横蔵寺旧境内（図 102-11）は山腹から山頂付近の鞍部に位置する寺院であり、現集落とは隔離された場所にある。現集落から両寺院の堂跡までの平面距離は、円興寺旧境内が約 550m、横蔵寺旧境内が約 900m であり、いずれの堂跡からも平地を眺望することはできないが、円興寺旧境内の三重塔跡からは平地を眺望できる。なお、山頂や尾根上に単独で堂跡を構える事例は少ないものの、揖斐川町寺屋敷遺跡では尾根上に 3 × 4 間の寺院跡と考えられる礎石建物跡が検出されている。

④ 山麓から山腹・山頂（尾根上）に位置する寺院

山麓から山腹まで平坦面が連続して展開する寺院と、連続しない寺院に分かれる。関ヶ原町野上廃寺跡（図 102-12）は谷部から尾根付近の鞍部まで平坦面が連続する小規模な寺院である。栗原九十九坊跡（図 102-13）は標高約 40～70m 付近と標高 150m 付近に多くの平坦面が位置し、その間は比較的急傾斜となるが、山麓から山頂に向かう通路沿いにも平坦面が展開する。勢至寺跡（図 102-14）は山麓に広く平坦面が展開し、その背面の山腹に墓域や窟が存在する。そして、山麓の平坦面から約 200m 上の狭い範囲に独立して小規模な平坦面が展開している。

2 古代寺院の様相（図 103・104）

図 103 の分布図⁴⁾をみると、平安時代に特筆すべきこととして、能郷白山近辺の寺院が挙げられる。これらは揖斐川上流地域では発掘調査によって遺構・遺物が出土し宗教活動の痕跡が確認されている。能郷白山周辺を水源とする揖斐川・根尾川・杭瀬川沿いに平安時代の密教寺院が、また大野郡に能郷白山関連寺院が分布するのも西濃圏域の特徴といえる。また、分布状況から時代を通して連縛と寺院がつくられる地点（行基寺・明星輪寺・大陸寺跡・花王院周辺）があり、これらは、交通の要衝で、濃尾平野から見た山地端部という特質がある。

飛鳥時代成立の寺院は、壬申紀の道や終末期古墳付近に建立されているといえる。近年の発掘調査報告書から抜粋すると、美濃国分寺前身寺院基盤と考えられている軒丸瓦は 7 世紀末葉のもので川原寺式系と考えられ、この瓦は宮廐寺跡でも出土している（大垣市教委 2005）。図 103 には掲載していないが、川原寺式系の軒丸瓦は大野郡大陸寺廃寺跡（複弁八弁蓮華文銀術文縁軒丸瓦）や席田郡席田廃寺跡からも出土している。また、美濃国分尼寺跡及び不破闕跡からは 8 世紀中葉の国分寺成立瓦（細弁十六弁蓮華文軒丸瓦と均整唐草文軒平瓦の組み合わせ）の同范瓦が出土している（大垣市教委 2005、垂井

町 2010)。これらのことから、美濃国分寺跡・美濃国分尼寺跡・不破関跡の同時期性と、同范瓦を使用していることから瓦工房の同一性あるいは范が行き来する交流があったことを示している。

また、図 104 をみると、池田山南麓にある観音寺から南に伸びる南北方向の直線道路は美濃国府跡の東を通り美濃一宮南宮大社東端へと続いている。観音寺の北西 1.7 km にある不破の滝が上流にあり、池田山を水源とする寺川は美濃国府跡の西端を南流する。また、垂井町大字大滝の谷最奥部の開ヶ原町境に近い標高 700m 辺りに平坦面があり、これらはその立地から美濃国府に関係が深いと考える。

なお、3 郡境にある垂井町・大垣市・養老町栗原九十九坊跡からは、古代瓦の破片や須恵器の破片が出土し、瓦が出土した本堂跡の平坦面からは美濃国分寺を目視できることから、同時期性があり何らかの交流があったことが推測される。

3 中世寺院の様相

(1) 寺院の分布（図 105）

西濃圏域において、中世に成立する寺院の多くは平地に位置し、山腹・山頂に新たに成立する寺院は極めて少ない。また、山腹・山頂に成立した寺院でも山麓との比高差が 80m 以内であり、古代に成立される寺院と比較して、集落により近い位置に造営されている。

西濃圏域南部の下石津郡は尾張国と伊勢国に接し、伊勢国から北上して延びる壬申紀の道の西側（養老山地の東山腹）には行基寺が位置する。行基寺は古代に成立された寺院であるが、中世における永和 3 (1377) 年銘の板碑や、初層屋根幅が 90 cm を超える石造層塔 2 基が現存するなど、東海地方においても特筆すべき石塔を有する寺院である。

その北側の多芸郡には、古代から存続する栗原九十九坊跡や柏尾庵寺跡などの多芸七坊と呼ばれる大規模な寺院群が展開する。これらの寺院群は養老山地から南宮山の東山麓に立地し、現在の集落と近接して平坦面が広がり、栗原九十九坊跡は多芸郡・上石津郡・不破郡の郡界付近に位置する。

多芸郡の西側に位置する上石津郡は近江国に接し、天喜寺や宝聚院などは中世において近江国の永源寺の僧が開山・再興している。また、多芸郡の北側に位置する不破郡では東山道と鎌倉街道が横断し、両者が接続する付近の北側には美濃国府が所在する。この周辺には後光厳天皇が垂井行在の際に立ち寄ったとされる民安寺や中世段階に方四町の規模であったとも伝わる金蓮寺が位置する。なお、不破郡と池田郡、安八郡の郡界付近には、久安 4 (1148) 年銘の如法経碑のある明星輪寺と、天文年間以降に触頭として美濃國 30 余ヶ寺の支配役を務めた西圓寺が位置する。

不破郡の北側の池田郡には、池田山東山麓（山腹）に善南寺、安国寺、禅藏寺、弓削寺、瑞岩寺などの大規模な寺院群が展開する。このうち、安国寺は室町幕府の発願により建立された一国一寺で、禅藏寺は美濃国五代守護土岐頼忠が開基、瑞岩寺は美濃国三代守護土岐頼康が堂宇を建立した寺院である。

池田郡の東側の大野郡には、山間部に古代から存続する横藏寺旧境内や草薙寺などがあり、山麓部に土岐頼雄開基の大興寺、稻葉一鉄の菩提寺である月桂院などがある。また、大野郡から安八郡にかけては広い平地が展開する。このうち、本巣郡、安八郡、厚見郡の郡界付近に位置する明台寺とその周辺には中世において複数の寺院が存在している。

(2) 平坦面の配置（図 106・107・108）

ここでは、山麓及び山腹・山頂（尾根上）に位置する寺院の堂跡や門・通路・その他の平坦面などの

配置と、それらが位置する地形などについて記載する。

① 地形の特徴

山麓に位置する寺院は、堂跡背面に山地を背負うもの（栗原九十九坊跡（図106-3）、柏尾庵寺跡（図107-6）など）、堂跡背面と側面の二方向若しくは三方向を尾根等で囲まれるもの（華嚴寺、東光寺など）、山麓の谷間に位置するもの（野上庵寺跡（図106-4）・石越遺跡（図106-5）など）、河川沿いの狭小地にあるもの（祖宝寺跡（図107-7）など）がある。このうち、谷間や河川沿い以外の山麓に位置する寺院では、現在の集落と接して寺院の平坦面が広がる事例が幾つかあり、このような場合は、今回図化した地形観察図の範囲よりも平坦面がさらに広がっていた可能性がある。

一方、山腹に位置する寺院は、深く開析した谷状の崖地内に位置する寺院（横藏寺旧境内（図106-1）など）と、谷状の崖地周辺の平坦地や尾根などに位置する寺院（円興寺旧境内（図106-2）、栗原九十九坊跡など）がある。なお、弓削寺旧境内（図107-8）は、現在の弓削寺本堂の西側にある扇状地上に造営された旧境内（ここでは「弓削寺南旧境内」と仮称する。）と、その北側の山腹の尾根筋を巧みに利用した旧境内（同「弓削寺北旧境内」と仮称する。）に分かれ、後述するように南北の旧境内が機能した時期は異なる可能性がある。

これらは、いずれも堂跡付近に流水が認められる点で共通しており、横藏寺旧境内や野上庵寺、弓削寺北旧境内では湧水点も確認できた。また、巨岩の露頭も幾つかの寺院で確認でき、柏尾庵寺跡や勢至寺跡では岩窟も確認した。

② 堂跡とその周辺

堂跡のある平坦面は広く、平坦面群が展開する最奥の高所に位置することが多い。堂跡において礎石が確認できた寺院は、柏尾庵寺跡、竜泉寺庵寺跡、横藏寺旧境内などであり、建物規模がわかる寺院は、柏尾庵寺跡が 5×3 間以上（礎石の心々間距離は約 13.6×9.1 m以上）、横藏寺旧境内は 5×5 間（同 11.1×9.3 m）である。

また、堂跡と塔跡の位置が推定できる寺院は柏尾庵寺跡や善南寺、横藏寺旧境内などで、いずれも本堂から見て左側に塔跡が位置する。また、円興寺旧境内は、金堂跡の左側に鐘堂跡、金堂跡の前面に塔跡が推定されている（名称は大垣市教育委員会1997に従う）。塔跡の規模は、柏尾庵寺跡の基壇跡が約 5.0 m四方、善南寺の基壇跡が約 $6.5 \text{ m} \times 5.9 \text{ m}$ 、横藏寺旧境内の基壇状の高まりが約 8.5 m 四方である。なお、横藏寺旧境内では、本堂のすぐ左側に池、その奥に塔跡があり、本堂から池と塔が一望できる配置となっている。また、横藏寺旧境内の建物は近世に現在の山麓に移転するが、現在の本堂と塔の規模は旧境内の礎石から推定できる建物規模に近似し、現本堂・池・塔の配置も旧境内と類似する。

横藏寺旧境内や柏尾庵寺跡はその成立が古代とされており、地形観察図や分布調査の結果から、本堂の位置は当初から中世に至るまで大きく移動していない可能性が指摘できる。一方、弓削寺旧境内では中世に本堂が移転している可能性がある。すなわち、弓削寺北旧境内は谷間に細長く伸びる尾根上に小さな平坦面を配し、最奥部に堂跡のある広い平坦面を有するが、この付近には中世石塔類が確認できず、堂跡の北端付近で平安時代末から鎌倉時代初頭頃の蔵骨器（常滑三筋蓋）が発見されていることから、北旧境内は鎌倉時代以前の造営と考えられる。一方、弓削寺南旧境内は墓域や平坦面に中世後期の石塔が散在しており、山寺において15世紀に確立したとされる（藤岡2011）直線通路に沿った方形区画も認められることから、南旧境内は中世後期に成立した可能性が指摘できる。

また、横蔵寺旧境内や円興寺旧境内の堂跡のある平坦面の法面には、長さ60cmを超える石材を用いた石積みが確認でき、横蔵寺旧境内においては、通路から堂跡に至る際に視界に入る法面の石積みの遺存状態が良い。石越遺跡では堂跡から尾根上にかけて面積の広い平坦面が続き、その両側の谷部には面積の狭い平坦面が展開する。そして、尾根上の平坦面の法面には長さ1.0m以上の石材を用いた石積みが認められ、平坦面の立地によって面積や法面成形に違いがある。

③門・通路・平坦面

門跡の礎石が遺存している寺院は、横蔵寺旧境内と円興寺旧境内である。横蔵寺旧境内の門跡は3×2間（礎石の心々間距離は約8.0m×5.0m）、円興寺旧境内の門跡は3×2間（同約6.9m×4.1m）である。また、両寺院では、門跡から堂跡まで等高線に沿うように通路が延び、通路沿いには、通路に平行する方向に長軸をもつ平坦面が展開している。一方、柏尾庵寺や竜泉寺廃寺、華嚴寺、東光寺、弓削寺南旧境内では通路が直線的に延びて堂跡に至り、通路沿いには、通路に直交する方向に長軸をもつ平坦面が展開している。野上庵寺は谷部に位置する小規模な寺院であるが、平地から延びる通路が谷部で直角気味に曲がり、本堂に至るまで直線的に延びている。このように、直線的な通路とそれに直交する平坦面の配置は、寺域規模に関係なく確認できた。

なお、山麓と山腹において広範囲に渡って平坦面が展開する栗原九十九坊跡では、山麓において直線的な通路（通路A・B）とそれに直交する方向に長軸をもつ平坦面群、山腹において等高線に沿うような通路とそれに平行する方向に長軸をもつ平坦面群が確認できる。山麓では直線的に延びる2条の通路が流水を挟んで平行しており、通路Bと流水との間における本発掘調査では、中世の遺構が検出されている（岐阜県文化財保護センター2020）。また、垂井町教育委員会による分布調査の成果では、古代から中世の遺物が山麓と山頂付近で採集されており（図108）、すでに古代の段階から山頂付近の平坦面の利用が為されていた可能性が指摘できる⁶⁾。

⑤ 堂跡と墓域

墓域⁶⁾は堂跡の背面に位置することが多く、円興寺旧境内、野上庵寺跡、柏尾庵寺跡、弓削寺旧境内（南側）などでは背面の山腹に、石越遺跡では背面の谷筋に、栗原九十九坊跡では背面の尾根上に、それぞれ墓域を確認した。一方、横蔵寺旧境内と祖宝寺跡は堂跡と墓域が離れており、横蔵寺旧境内は堂跡から見て丸山を挟んだ場所に墓域のみが単独で存在し、祖宝寺跡は堂跡から見て祖父谷川を挟んだ対岸に墓域が存在する。なお、墓域は等高線に沿って幅の狭い平坦面を造営する場合（円興寺旧境内、野上庵寺跡、石越遺跡、柏尾庵寺跡など）と、尾根等の広い平坦地に造営する場合（横蔵寺旧境内、栗原九十九坊など）がある。

⑥ 宗派

西濃圏域の中世寺院の宗派は時期によって数が異なるものの、中世後期には浄土真宗に属した寺院が圧倒的に多く、禅宗や浄土宗、時宗などの寺院も確認できる。

浄土真宗は、13世紀前半頃に美濃に広まつた（岐阜県 1969）。西濃圏域における初期の成立及び転宗寺院は、建暦2（1212）年成立の養老町淨雲寺と大垣市雲芳寺、建保5（1217）年成立の海津市報土寺などが挙げられる。一方、15世紀中頃以降、本願寺8世蓮如の頃にその教縁は拡大し、美濃国全域に及んだ。西濃圏域では、この頃に成立された寺院や天台・真言宗の寺院が浄土真宗に転宗している寺院が多く、その初期の事例としては長禄元（1457）年成立の揖斐川町速行寺と養老町了覺寺、長禄2（1458）

年成立の養老町尊光寺と神戸町覺養寺などが挙げられる。

禪宗は、14世紀中頃に美濃国守護土岐氏を大壇越として興隆した。西濃圏域において土岐氏が建立した禪宗寺院は、土岐頼康（三代守護）開基の揖斐川町瑞岩寺、土岐頼忠（五代守護）開基の池田町禪藏寺、土岐頼康の弟である土岐頼雄開基の揖斐川町大興寺があり、いずれも臨濟寺院である。また、禪宗寺院は土岐氏以外の武家との関わりも多く、大垣市華溪寺は西美濃三人衆と呼称される稻葉一鉄の成立であり、養老町荘福寺は小笠原長清の孫丸毛六郎兼朝の菩提寺である。なお、室町幕府の発願により建立された池田町安国寺も臨済宗の寺院であり、明応4（1495）年に土岐成頼（八代守護）が剃髪し、天正11年（1583）には織田信雄の禁制が行われた。なお、曹洞宗は臨済宗ほどに広まっていないが、閑ヶ原町今須の城主である長江重景が成立した閑ヶ原町妙応寺などがある。

その他の宗派の寺院として、浄土宗の寺院は鎌倉時代に成立したとされる大垣市安楽寺と大垣市東光寺などがあり、時宗の寺院は垂井町金蓮寺と養老町西光寺などがある。このうち、金蓮寺は方四町であったとも伝わる大規模寺院であり、下総国の結城氏朝らが鎌倉公方足利持氏の遺児である春王・安王を擁して起こした結城合戦の敗北の結果、春王・安王が京都に送られる途中に惨殺された寺としても知られている。なお、美濃における律宗寺院は「西大寺諸国末寺帳」に山田松藏寺、大井長康寺、小松寺、牛藪報恩寺の4か寺記されている（松尾剛次 1995）が、西濃圏域で律宗寺院の具体的な位置や規模等は特定できず（第9章参照）、今後の課題である。

注

- 1) 「角川日本地名辞典」編纂委員会編 1980『角川日本地名辞典 21 岐阜県』、角川書店
- 2) 「行基が成立」と記載のある場合は8世紀前半、「蓮如の時代に成立・転宗」と記載のある場合は15世紀後半に位置付けた。
- 3) 移転の記録は、自治体史等に記載の沿革から移転したことが確認できるものをカウントした。複数回移転している場合は、最初の移転のみカウントした。廃絶の記録は、兵火により焼失したことを確認できるものを「廃絶（火）」としてカウントした。なお、廃絶後に再建されたものを含む。「廃絶（他）」は、廃絶後に再興しない寺院をカウントした。
- 4) 旧東山道等については既存の資料（島方洸一 2012）を参考にした。また、地理情報システム QGIS3.10 を用いて、地理院タイルの背景地図上に米国スタンフォード大学が公開している戦前の五万分の一地形図をジオリファレンサーで読み込み、測図時点の郡界をト雷斯している。なお、第2章第4節以降に使用する他圏域の分布図も同様である。
- 5) 垂井町教育委員会の分布調査遺物を実見し、その時期や位置、敷から図103を作成した。なお、瓦はいずれも平瓦であり、時期の特定は困難である。
- 6) ここでは、主に集石を伴う中世石塔を確認した範囲を墓域として取り扱う。

【引用文献】

- 大垣市教育委員会 1997『大垣市遺跡詳細分布調査報告書』解説編
 大垣市教育委員会 2005『史跡 美濃国分寺跡』
 岐阜県 1969『岐阜県史』通史編 中世
 岐阜県 2002『わかりやすい岐阜県史』、岐阜新聞社
 岐阜県文化財保護センター2020『栗原九十九坊跡』
 島方洸一 2012『地図でみる東日本の古代 律令制下の陸海交通・条里・史跡』、株式会社平凡社

垂井町教育委員会 2010『美濃国分尼寺跡発掘調査報告書』

藤岡英礼 2011「縄張り調査と山寺研究」『佛教藝術』317、毎日新聞社

松尾剛次 1995『勧進と破戒の中世史-中世仏教の実相-』、吉川弘文館

表57 寺院の成立状況

時代	郡名	多 芸 郡	石 津 郡	不 破 郡	安 八 郡	池 田 郡	大 野 郡	海 西 郡	(伊 勢 名 郡)	小 計
飛鳥		0	1	3	1	1	0	0	0	6
奈良		8	5	12	0	3	5	0	0	33
平安		6	8	12	26	10	16	1	0	79
古代(細分不能)		1	2	6	3	4	8	0	0	24
古代寺院小計		15	16	33	30	18	29	1	0	142
鎌倉		6	2	12	7	6	7	1	0	41
室町		26	26	39	70	11	10	12	0	194
安土桃山		6	5	4	19	4	8	4	0	50
中世(細分不能)		16	18	24	56	30	31	0	0	175
中世寺院小計		54	51	79	152	51	56	17	0	460
古代・中世寺院合計		69	67	112	182	69	85	18	0	602
参考寺院等										
近世(江戸)		19	33	40	52	10	26	6	3	187
時期不明		11	28	28	44	16	44	2	0	173
近代以降等		10	0	11	20	4	4	1	0	50
近世以降等寺院小計		40	61	79	116	30	74	9	1	410
対象寺院合計		109	128	191	298	99	159	27	1	1012

注) 時代・時期は次のとおりとした。飛鳥(592年～)、奈良(710年～)、平安(794年～)、鎌倉(1185年～)、室町(1333年～)、安土桃山(1573年～)、江戸(1603年～)。なお、飛鳥時代から平安時代を古代、鎌倉時代から安土桃山時代を中世とし、明治時代以降は寺院以外のものを含めて近代以降等とした。

表58 時期別の成立数等

西暦 内訳	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700
成立	3	18	11	35	4	7	10	2	3	2	16
断続	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	9
移転	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	2
廃絶(火)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1
廃絶(他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

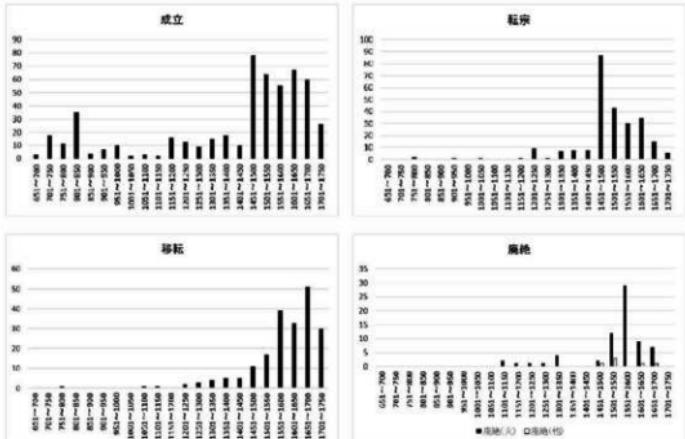


表59 時期別の立地数

西暦	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700										
内容	2	7	4	24	4	7	9	2	2	11	11	7	13	11	9	67	54	46	62	42	21
平地																					
山麓	10	3	4		1	1	5	2	2	1	5	1	8	8	8	4	15	3			
山腹	1	1	5	5		2					2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
不明																					

※山麓から山腹にかけて存在する寺院は山腹に含めた。

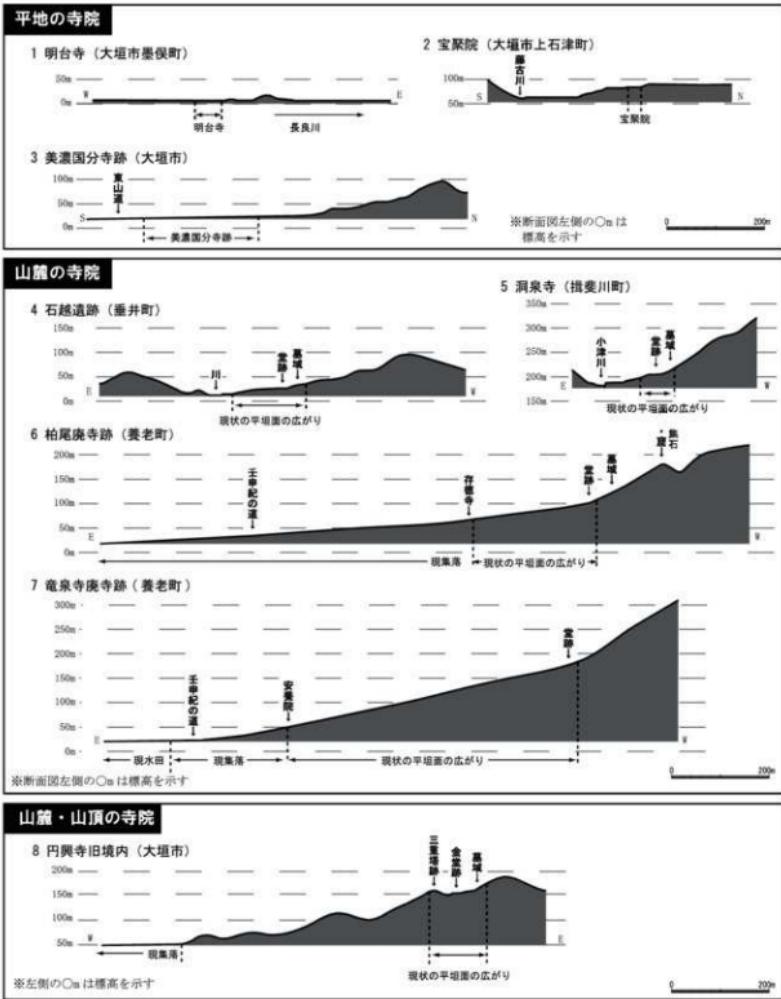


図101 西濃圏域地形断面図（1）

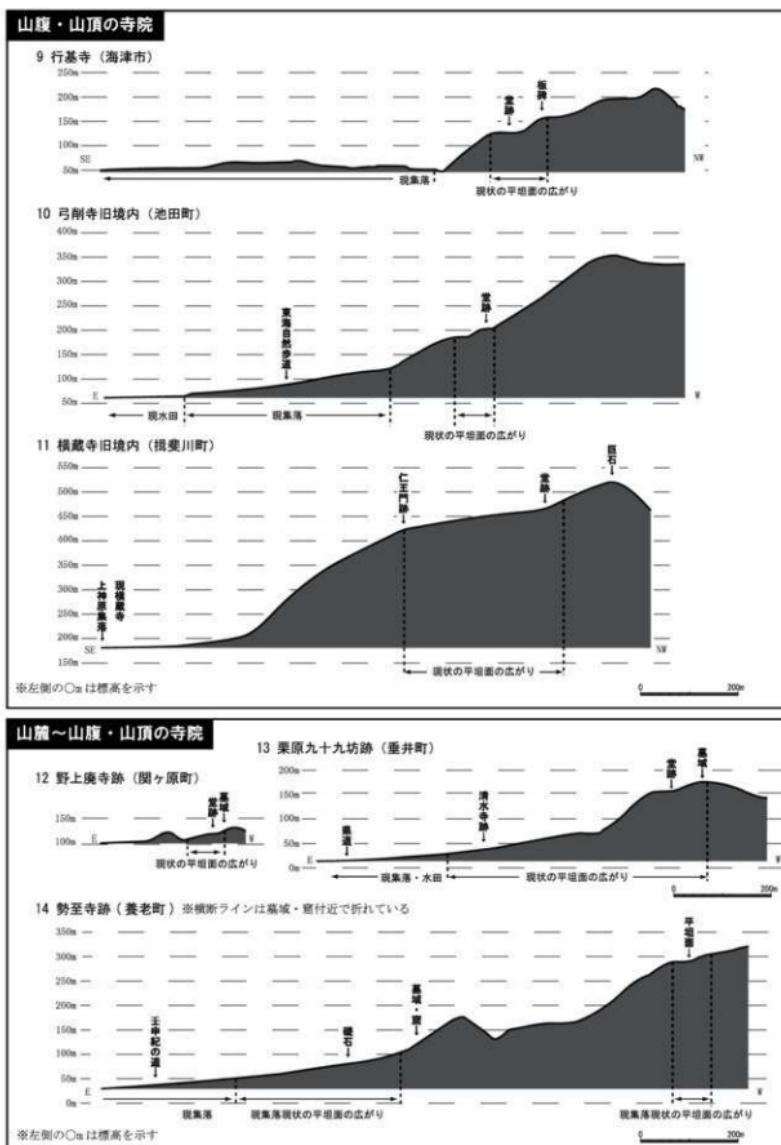


図 102 西濃圏域地形断面図（2）

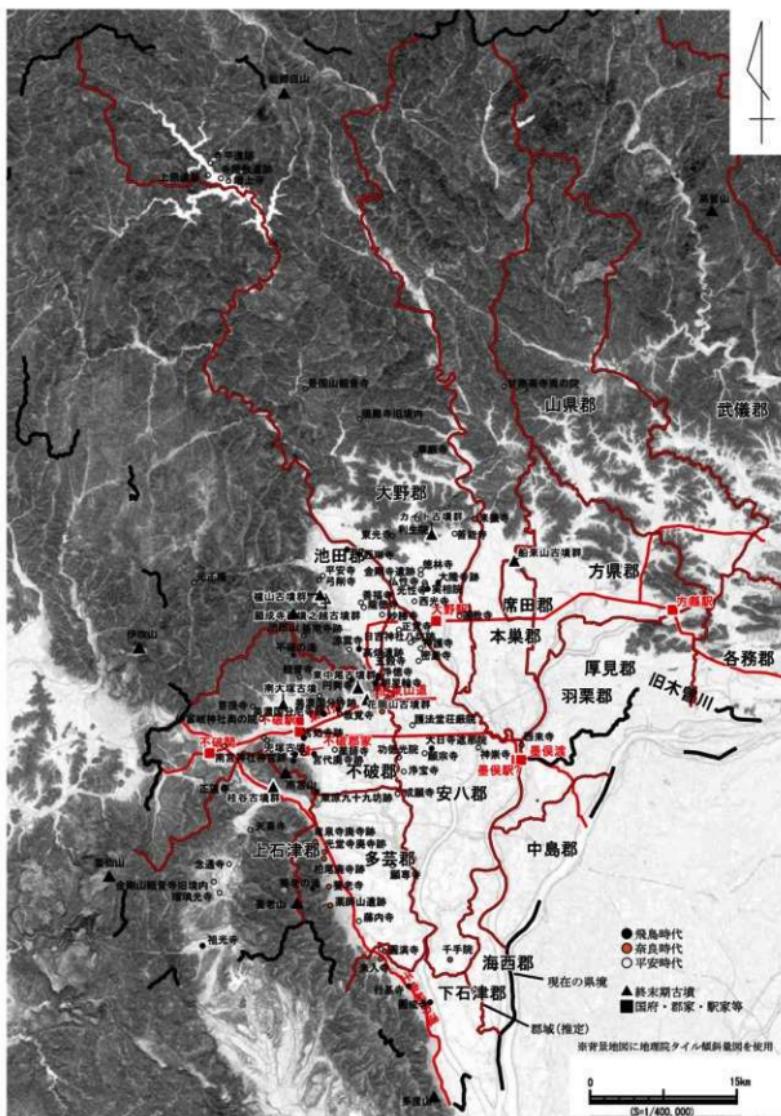


図103 西濃圏域古代寺院分布図（1）

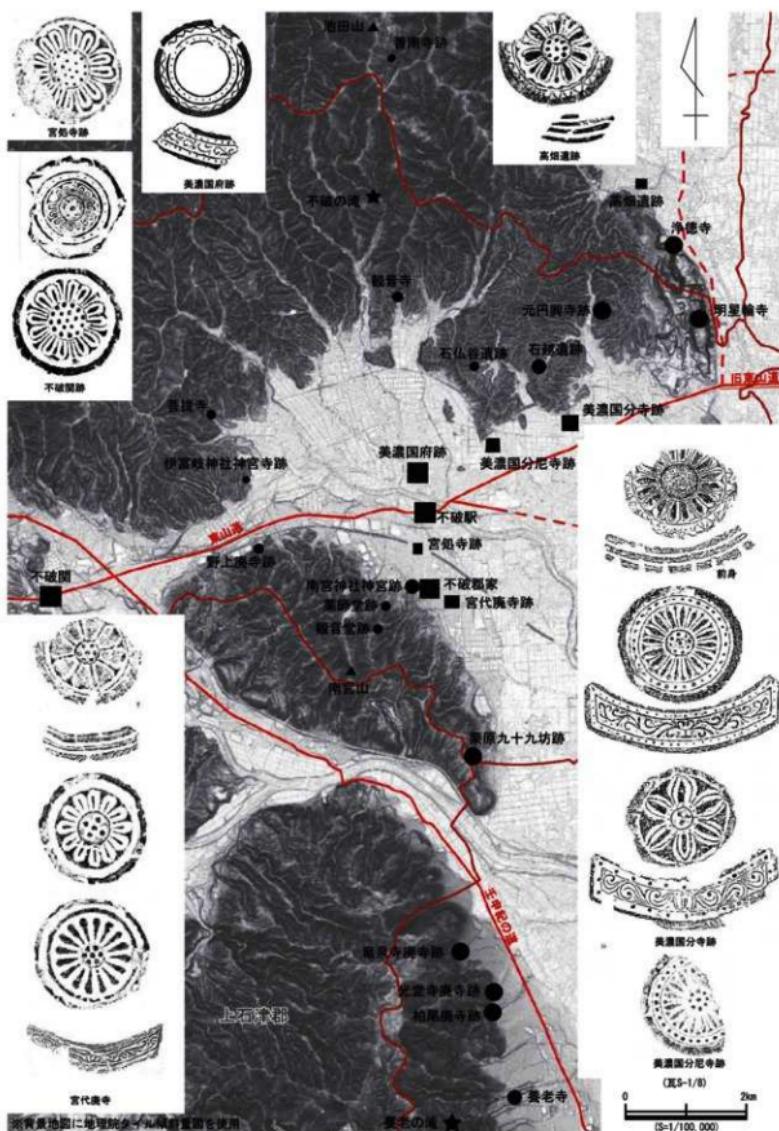


図104 西濃圏域古代寺院分布図（2）

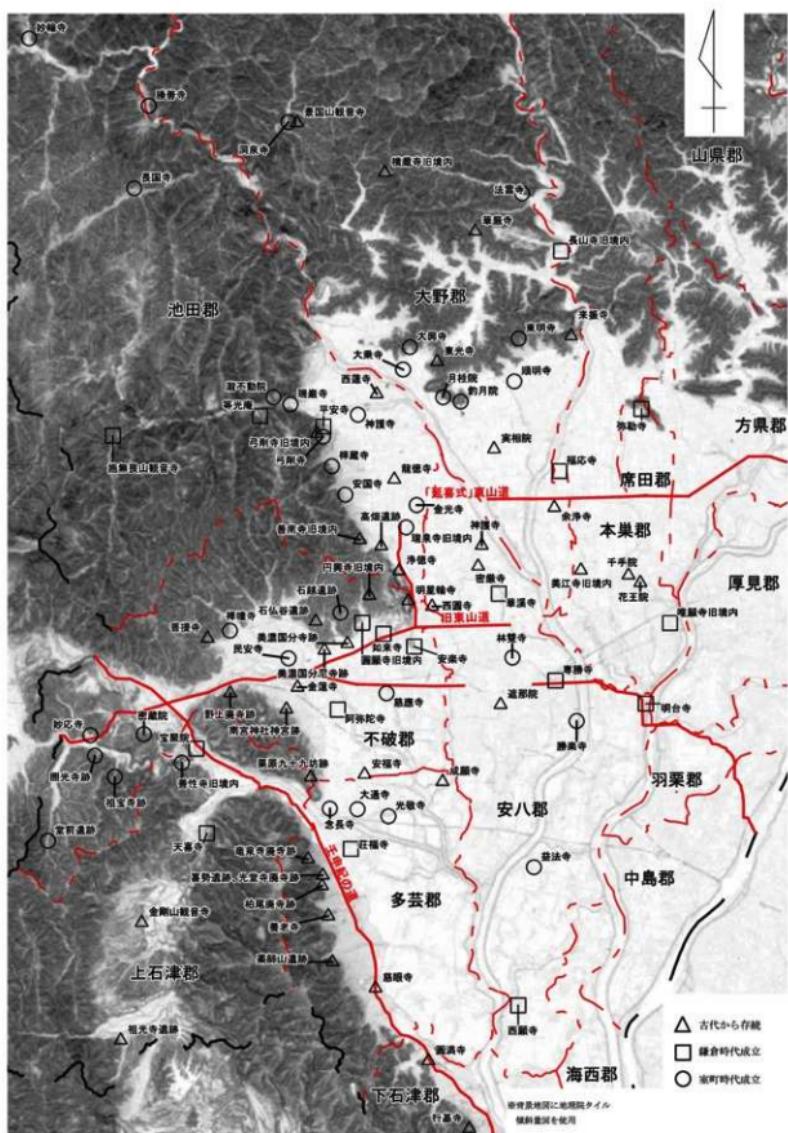


図105 西濃圏域中世寺院分布図

1 横蔵寺旧境内



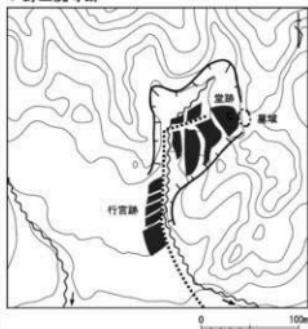
2 円興寺旧境内



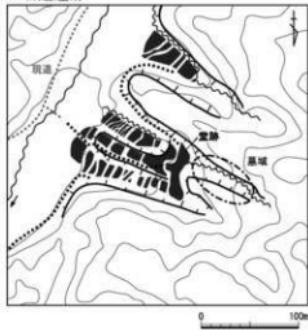
3 栗原九十九坊跡



4 野上庵寺跡



5 石越遺跡

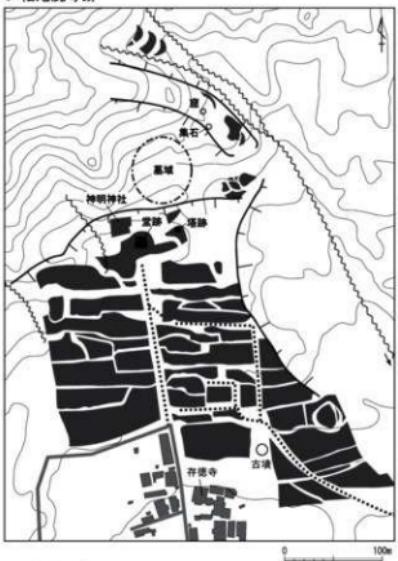


<凡例>

- 平坦面
- 硅岩から推定できる建物
- 基壇状の高まり
- 通路
- ~~~~ 流水部

図 106 西濃圏域地形観察図模式図（1）

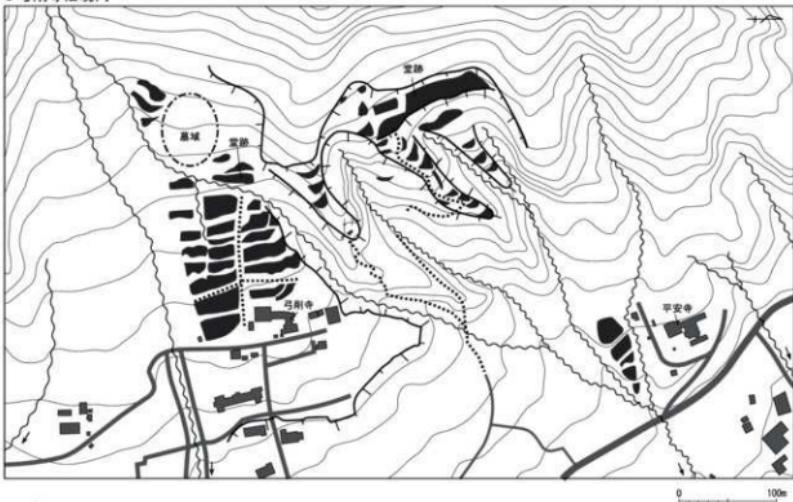
6 柏尾庵寺跡



7 祖宝寺跡



8 弓削寺旧境内



<凡例>

■ 平坦面 ■ 磐石から推定できる建物 □ 基壇状の高まり 通路 ~~~ 流水部 ■ 現在の家屋等

図 107 西濃圏域地形観察図模式図（2）

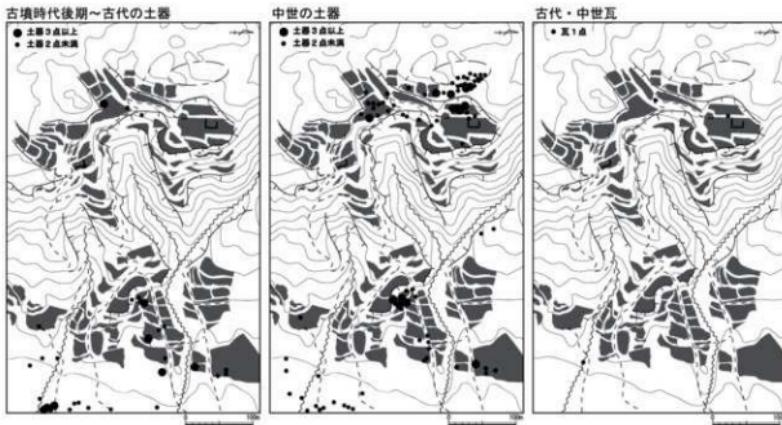


図 108 萩原九十九坊跡 遺物探集状況

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第162集
岐阜県古代・中世寺院跡総合調査報告書
(第2分冊)

2023年3月17日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 株式会社もとすいんさつ